

令和6年度

障害者総合福祉推進事業

知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究

事業報告書

令和7年3月

PwC コンサルティング合同会社

概要

【事業目的】

「令和6年度障害者総合福祉推進事業」における「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究本事業（以下、「本事業」という。）」では、知的障害者の恋愛、結婚等に関して、自分自身及び相手も尊重した人間関係の構築を含む性に関する情報提供や相談支援等の実態を把握することを目的に、アンケート調査やヒアリング調査を実施した。これらの調査結果をもとに、知的障害者本人が活用できるハンドブックや、支援者や家族等が活用できる手引きを作成し、これらの成果物の周知に加え、知的障害者本人が望む生き方の実現への機運を高めるべく、シンポジウムを開催した。

【調査方法】

本事業では、知的障害者本人、知的障害者への支援を行う障害福祉サービス等事業所、知的障害者を子に持つ親、の三者を対象としたアンケート調査を実施した。また、アンケート調査の回答者の中から、結果を踏まえて目的に即して参考になると考えられる対象に対し、ヒアリング調査を実施した。検討委員会を組成し、設問項目の検討、調査対象の抽出、結果を踏まえた考察について助言をもらいながら進めた。

【調査結果及び考察】

性教育については、事業所によってその取組の状況は様々であった。知的障害者本人、事業所、親いずれのヒアリングにおいても、性犯罪や詐欺への不安や予防のために性教育を実施するような事業所が多いことが推察される。一方、検討委員会においては、性に関してポジティブな側面に着目し、知的障害者本人が幸せになれるよう、事業所職員や親が性に関する情報提供に取り組んでいくべきだという意見が挙げられた。性教育への取組を進めるため、本事業で作成したハンドブックや支援の手引きを活用することなどが考えられる。

出会いや恋愛に関しては、知的障害者本人からは希望がある一方、事業所職員や親からは、犯罪に巻き込まれるのではないかなどの懸念から、出会いや恋愛に関する行動を制限したり、制限するような声掛けをしてしまったりするような実態が明らかになった。出会いや恋愛に関する支援についても、知的障害者本人の自己決定権を尊重することが前提である。知的障害者本人と話し合い、ハンドブックの内容や、インターネット上の情報、ニュース報道などを踏まえ、様々なツールをどのように活用すればよいか、困ったときにはどこに相談すれば良いかなどを本人と支援する側が共有することが重要であると考えられる。

目次

1. 事業概要	1
(1) 事業の背景及び目的	1
(2) 事業の全体像	2
(3) 検討委員会	4
(4) 倫理審査委員会	6
2. アンケート調査	7
(1) 調査概要	7
(2) 知的障害者本人へのアンケート調査結果	12
(3) 障害福祉サービス等事業所へのアンケート調査結果	29
(4) 知的障害者を子に持つ親へのアンケート調査結果	50
3. ヒアリング調査	69
(1) 調査概要	69
(2) 知的障害者本人へのヒアリング調査結果	72
(3) 障害福祉サービス等事業所へのヒアリング調査結果	85
(3) 知的障害者を子に持つ親へのヒアリング調査結果	97
4. シンポジウムの開催	109
(1) シンポジウムの実施概要	109
(2) 事後アンケートの結果	110
5. ハンドブック及び支援の手引き	113
(1) ハンドブック及び支援の手引きの概要	113
6. まとめ	116
(1) アンケート調査結果のまとめ	116
(2) ヒアリング調査結果のまとめ	119
(3) 考察	121
付録	122
(1) 知的障害者本人へのアンケート調査	123
(2) 事業所へのアンケート調査	139

(3) 親へのアンケート調査.....	161
(4) 知的障害者本人へのヒアリング調査.....	174
(5) 事業所へのヒアリング調査	178
(6) 親へのヒアリング調査.....	182

1. 事業概要

本章では、本事業の背景と目的、事業の全体像等について掲載する。

(1) 事業の背景及び目的

① 背景

人は恋愛や結婚等を通して精神的な安らぎを得たり、大切な人と支え合いながら活力のある生活を送ったりすることにつながっている。しかし、知的障害者については、適切な情報の取得や理解等に困難さがあり、性暴力の被害者等になるリスクや予期しない妊娠に繋がるリスク等があると言われている。また、そのようなリスクを回避することや、その後の生活への心配等から、性に関する情報に接する機会から遠ざけられたり、恋愛や結婚等に反対されたりすることも指摘されている。

また、令和5年度に弊社が実施した「障害者が希望する地域生活を送るための意思決定支援等の取り組みに関する調査研究（以下、「令和5年度事業」という。）において、障害者の結婚・出産・子育てについて実施した調査によれば、障害福祉と母子保健・子育て支援施策の連携体制の構築が重要であることや、意識啓発、性に関する支援の不足があることを指摘した。

支援現場の職員や障害者の家族等についても、知的障害のある本人に対してどのように情報提供し、相談支援をしていくべきなのかわからないまま、対処療法的な対応や個々人の考え方による属人的な対応になってしまっている面がある。

② 目的

以上の背景を踏まえ、知的障害者の性、恋愛、結婚等に関して、自分自身だけでなく相手も尊重した人間関係の構築を含む性に関する情報提供や相談支援等の実態を把握することを目的に調査を実施した。具体的には、知的障害者本人、知的障害者への支援を行う障害福祉サービス等事業所、知的障害者を子に持つ親に対して、書面や Web フォームによるアンケート調査を実施し、その後状況や課題意識の異なる対象を抽出したヒアリング調査を行うことで、知的障害者の性、恋愛、結婚等に関する実態、課題、現場における工夫などを把握した。

また、これらの調査結果をもとに、知的障害者本人が支援者や家族等と一緒に活用できるハンドブックや、支援者や家族等が活用できる手引きを作成することも目的とする。成果物や取組の周知に加え、知的障害者本人が望む生き方の実現への機運を高めるべく、シンポジウムを開催することも目的として設定した。

(2) 事業の全体像

以上の目的を達成するために、本事業では図表 1 のとおり調査・分析を実施した。

図表 1 実施した調査の種類及び概要

調査の種類	概要
調査 1 アンケート調査	目的 - 知的障害者の性、恋愛、結婚等に関して、本人への情報提供や相談支援提供の機会、支援状況の実態、課題を把握する 対象 - 対象 1 知的障害者本人 - 全国手をつなぐ育成会連合会の協力のもと、各地の手をつなぐ育成会の本人部会に参加する知的障害者 120 名 - 対象 2 障害福祉サービス事業所 - 公益財団法人日本知的障害者福祉協会の協力のもと、当該協会に加盟する障害福祉サービス等事業所のうち、知的障害者に対して、日常的な相談支援も含む性、恋愛、結婚等のいずれかに関する支援を実施していると回答した事業所 169 か所 - 対象 3 知的障害者を子に持つ親 - 全国手をつなぐ育成会連合会の協力のもと、各地の手をつなぐ育成会の親の会に参加する親
調査 2 ヒアリング調査	目的 - 知的障害者の性、恋愛、結婚等に関して、アンケート調査の内容を深掘りするとともに、ハンドブック及び支援の手引きに掲載する内容について意見をもらう 対象 - 対象 1 知的障害者本人 - アンケート調査にて、ヒアリング調査に協力すると回答した者全員（6 名） - 対象 2 障害福祉サービス事業所 - アンケート調査にて、ヒアリング調査に協力すると回答した事業所のうち、幅広い意見を収集することを目的に、提供サービスの種類、事業所内の支援の実施状況等についてさまざまな状況にある事業所 4 か所 - 対象 3 知的障害者を子に持つ親 - アンケート調査にて、ヒアリング調査に協力すると回答した者のうち、幅広い意見を収集することを目的に、子との関係性、子の年齢、子の生活状況、性の悩みの内容等についてさまざまな状況にある者 4 名

また、本事業で作成したハンドブック及び支援の手引きについては図表 2、本事業で実施したシンポジウムについては図表 3 のとおりである。

図表 2 ハンドブック及び支援の手引きの概要

成果物の種類	概要
ハンドブック	目的 - 自分自身も相手も尊重した人間関係の構築に関して、知的障害者も適切な情報の取得や理解ができるようにする 活用方法の想定 - 知的障害のある本人が、「ひとりでよめる」、親や支援者らと「みんなでよめる」「対話のきっかけになる」ことを想定
支援の手引き	目的 - ハンドブックを活用するにあたり、親や支援者等の知的障害者の周囲の者が、適切な情報を取得、理解するとともに、どのような方法でハンドブックの情報を知的障害者に提供すればよいのか参考にできるようにする 活用方法 - ハンドブックの補助的資料としての活用を想定

図表 3 シンポジウムの概要

項目	概要
開催日程	令和 7 年 1 月 27 日（月） 14～17 時
参加者	知的障害者の性、恋愛、結婚等の実態や支援方法に関心がある者
開催目的	- 知的障害者本人の意思を尊重した情報提供や支援の在り方への機運を高めること - 特に知的障害者の性教育、恋愛、結婚等に関する支援の重要性を認識すること
開催方法	対面開催及びオンライン配信のハイブリッド開催
開催場所	Seminar Room 01・02 東京都千代田区大手町 1－2－1 Otemachi One Tower 18 階
プログラム	- 開会挨拶 - 事務局からの説明 - 基調講演 「知的障害者の性や恋愛・結婚等についてー自身が望む生き方の実現のためにー」 - 知的障害者本人及び事業所職員によるプレゼンテーション - 知的障害者本人、事業所職員、学識者によるパネルディスカッション

(3) 検討委員会

障害者の性、恋愛、結婚等の支援や、意思決定支援について知見のある有識者による検討委員会を組成して、議論を進めた。委員会は全3回実施した。

① 検討委員

以下の9名が検討委員に就任した。なお、座長には曾根氏が就任した。

図表 4 検討委員

氏名	所属
岩崎 香	早稲田大学人間科学学術院
上野 昌江	四天王寺大学看護学部・看護学研究科
大谷 喜博	全国手をつなぐ育成会連合会
門下 祐子	京都教育大学 教育創生リージョナルセンター機構総合教育臨床センター
金丸 博一	NPO 法人日本相談支援専門員協会
鷹野 雪保	堺市 健康福祉局 障害福祉部
北川 聡子	日本知的障害者福祉協会
曾根 直樹	日本社会事業大学専門職大学院
松村 真美	社会福祉法人南高愛隣会

(五十音順、敬称略)

検討委員会のオブザーバーとしては、以下2名が参画した。

図表 5 検討委員会オブザーバー

氏名	所属
杉渕 英俊	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域社会・発達障害者支援室
松崎 貴之	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域社会・発達障害者支援室

(五十音順、敬称略)

本事業を実施した事務局は以下のとおりである。

図表 6 事務局

氏名	所属
東海林 崇	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部
吉野 智	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部
青木 佑夏	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部
藤井 暁	PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

② 検討委員会の開催

検討委員会は全3回開催し、原則オンライン開催とした。

図表 7 検討委員会の開催日程及び議題

開催日	主な議題
第1回 令和6年8月23日	- 委員からの意見事前収集結果の報告 - アンケート調査・ヒアリング調査実施方針の検討 - ハンドブック・支援の手引き作成方針の検討
第2回 令和7年1月14日	- ハンドブック案及び支援の手引き案の検討 - シンポジウムに係る報告 - アンケート調査の中間報告
第3回 令和7年2月27日	- アンケート調査結果の報告 - ヒアリング調査結果の報告 - アンケート調査・ヒアリング調査を踏まえた考察の検討 - ハンドブック・支援の手引きの検討

(4) 倫理審査委員会

知的障害者本人及び知的障害者を子に持つ親へのアンケート調査、ヒアリング調査の実施にあたり、以下のとおり倫理審査を受けた。

① 倫理審査の概要

倫理審査の概要は図表 8 のとおりである。

図表 8 倫理審査の概要

項目	内容
委員会名	PwC コンサルティング合同会社倫理審査委員会
実施日	令和6年9月11日

② 倫理審査の結果

審査結果は図表 9 のとおりであり、変更の勧告内容を踏まえ、依頼状等を修正し、アンケート調査及びヒアリング調査を実施した。

図表 9 倫理審査の結果

審査結果	勧告内容
変更の勧告	- アンケート調査・ヒアリング調査に関しては下記のとおり ➤ 心理的に不安定になった場合や体調が悪くなった場合に相談する先の窓口等を設置し、その旨依頼状等に明記すること ➤ 回答内容の保管方法及び撤回方法を明記すること - アンケート調査に関しては下記のとおり ➤ 調査への回答をもって同意を得たとみなすとされているが、同意の意思を確認する項目を調査票冒頭に設けること ➤ 無記名の場合、同意が撤回できない旨を回答者に分かりやすく明記すること - ヒアリング調査に関しては下記のとおり ➤ 途中や後日に回答を撤回しても良い旨を依頼状等に明記すること ➤ 調査対象として選定された理由を依頼状等に明記すること

2. アンケート調査

本章では、知的障害者本人、知的障害者を子に持つ親、知的障害者への支援を行う障害福祉サービス等事業所に対して実施した、アンケート調査の内容及び調査結果について記載する。

(1) 調査概要

調査目的、調査対象、調査項目、調査の回収状況は下記のとおりである。

① 調査目的

知的障害者の性、恋愛、結婚等に関して、本人への情報提供や相談支援提供の機会、支援状況の実態、課題を把握する。特に、昨年度の調査研究の対象ではなかった、性、出会いや恋愛についての実態を把握することで、ハンドブックや支援の手引きの内容を検討する上での参考とする。

② 調査対象

本アンケート調査の対象は図表 10 のとおりである。

図表 10 アンケート調査対象

対象者	抽出及び依頼方法
知的障害者本人	- 全国手をつなぐ育成会連合会の協力のもと、各地の手をつなぐ育成会の本人部会に参加する知的障害者 120 名 - 手をつなぐ育成会の本人部会にて、支援者の協力のもと、その場で紙面のアンケート用紙を配布し、回収する - アンケート実施中の疑問点について回答できるよう、事務局はその日時電話対応のため待機している状況とした
障害福祉サービス等事業所	公益財団法人日本知的障害者福祉協会の協力のもと、当該協会に加盟する障害福祉サービス等事業所のうち、知的障害者に対して、日常的な相談支援も含む性、恋愛、結婚等のいずれかに関する支援を実施していると回答した事業所 169 か所
知的障害者を子に持つ親	- 全国手をつなぐ育成会連合会の協力のもと、各地の手をつなぐ育成会の親の会に参加する親 - 手をつなぐ育成会の親部会にて、本アンケートについて周知し、Web フォーム及び紙面での回答を受け付けた

なお、障害福祉サービス等事業所に対しては図表 11 のとおり、予備調査を実施した上で、該当事業所にのみ本調査を配布した。

図表 11 障害福祉サービス等事業所へのアンケート調査の依頼方法

調査	概要
予備調査	設問 - 知的障害者の「性教育・恋愛・結婚・妊娠・出産・子育て」のいずれかに関する支援を、事業所の中で実施していますか （「性教育・恋愛・結婚・妊娠・出産・子育て」に関する支援とは、日常的な相談も含みます） 対象 - 公益財団法人日本知的障害者福祉協会が FAX での連絡先を把握する 6,411 事業所 実施方法 - FAX にて予備調査の依頼を送付し、Microsoft Forms で回答を収集した 結果 - 予備調査は 6,411 か所に配布し、756 か所（約 11.8%）から回答があった 756 か所のうち 169 か所（約 22.4%）が「はい」と回答した
本調査	設問 - 後述 対象 - 予備調査の回答事業所のうち「はい」と回答した 169 か所 実施方法 - メールにて Excel の調査票を送付し、メールで受け付けた 結果 - 後述

また、障害福祉サービス等事業所の回答者は図表 12 のとおり設定した。

図表 12 障害福祉サービス等事業所の回答者

事業所	回答者
障害福祉サービス事業所	サービス管理責任者またはサービス提供責任者、あるいはそれに準ずる現場の職員
特定相談支援事業所 一般相談支援事業所	相談支援専門員

③ 調査設問

本調査では対象ごとに以下の調査項目を設定した。

図表 13 知的障害者本人へのアンケート調査項目

大項目	調査項目概要
1. あなたのことについて	- 性別、年齢、障害種別、障害支援区分 - 収入源 - 日中の過ごし方 - 居住場所、同居人
2. 性について	- 性についての悩みの有無、内容 - 性についての情報入手元、知った内容 - 出会いの機会の有無 - マッチングアプリの利用有無、困ったこと - 婚活イベントへの参加有無、参加ができなかったこと、その理由 - 恋愛への希望、悩み、恋愛したくない理由 - 同棲への希望、悩み - 結婚への希望、悩み - 子どもへの希望、悩み - 受けた支援、受けてよかった支援、受けない支援
3. ヒアリング調査への協力	- ヒアリング調査への協力可否 - 名前、連絡先

図表 14 障害福祉サービス等事業所へのアンケート調査項目

大項目	調査項目概要
I. 基本情報	- 基本情報 - 事業所の提供サービス - 事業所番号 - 事業所名 - 所在地 - 運営法人の種別、名称 - 対象とする主たる障害種別 - 利用者及び職員等の状況 - 定員数、契約数 - 障害支援区分ごとの契約者数 - 職員配置状況
II. 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育ての支援状況の実態	- 性教育の支援状況の実態 - 性教育に関する支援の実施有無、実施内容、実施対象 - 性教育に関する支援の実施のメリット - 出会いの支援状況の実態 - 出会いに関する支援の実施有無、実施内容、実施対象 - 出会いに関する支援の実施のメリット - 恋愛の支援状況の実態 - 恋愛に関する支援の実施有無、実施内容、実施対象 - 事業所内の交際人数、交際の把握有無 - 恋愛に関する支援の実施のメリット - 結婚・妊娠・出産・子育ての支援状況の実態 - 結婚・妊娠・出産・子育ての支援の実施有無、実施内容 - 連携する支援機関等 - その他 - 独自の取り組み状況 - 利用者の自由や意思を尊重する認識の普及、支援への反映
III. 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育ての支援の課題	- 性教育に関する支援の課題 - 出会いに関する支援の課題 - 恋愛に関する支援の課題 - 結婚、出産、子育てに関する支援の課題
IV. ヒアリング調査への協力	- ヒアリング調査への協力可否 (協力する場合) 担当者名、連絡先

図表 15 知的障害者を子に持つ親へのアンケート調査項目

大項目	調査項目概要
1. 基本情報について	- 子との関係性、親の年代 - 子の性別、子の年代、子の障害種別、子の障害支援区分 - 子の世帯の主な収入源 - 子の日中の過ごし方 - 子の居住場所、子の同居人
2. 子の性教育について	- 性教育の実施経験、実施時期、実施内容、実施しなかった理由 - 子の家族以外からの性教育の経験 - 子の性についての悩みの有無、内容
3. 子の出会い・恋愛について	- 子の出会いの機会、子の交際経験 - 子からの相談の有無、相談内容 - 子の恋愛についての悩みの有無、内容 - 子の恋愛や交際への意識、否定的な理由
4. 子の結婚、妊娠、出産、子育てについて	- 子の状況 - 子からの妊娠についての相談の有無、相談内容 - 子からの結婚、出産、子育てについての相談の有無、相談内容 - 子の妊娠についての悩みの有無、内容 - 子の結婚、出産、子育てについての悩みの有無、内容
5. これまでに受けた支援や今後受けたい支援	- 性教育、出会い・恋愛、結婚・妊娠・出産・子育てについての支援でこれまでに最も役立ったと感じる内容 - 今後受けたい支援
6. ヒアリング調査への協力	- ヒアリング調査への協力可否 - 名前、連絡先

④ 回収状況

対象ごとの回収状況は図表 16 のとおりである。なお、これ以降のパーセント表記は小数点第 3 位で四捨五入したものとし、調査結果での各選択肢の合計が 100.0%にはならないことがある。

図表 16 アンケート調査の回収状況

対象者	回収状況
知的障害者本人	120 名中 47 名 (39.2%)
障害福祉サービス等事業所	169 か所中 64 か所 (37.9%)
知的障害者を子に持つ親	125 名

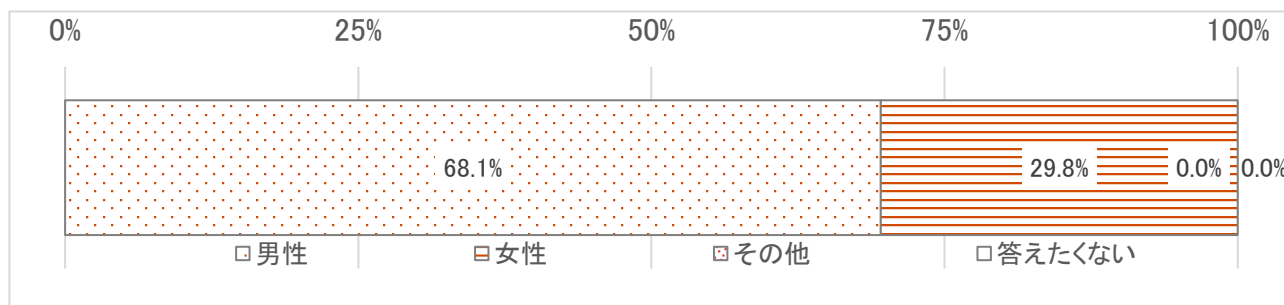
(2) 知的障害者本人へのアンケート調査結果

I. あなたのことについて

1. 性別

回答者の性別は、男性の方が 68.1%と多く、女性は 29.8%だった。

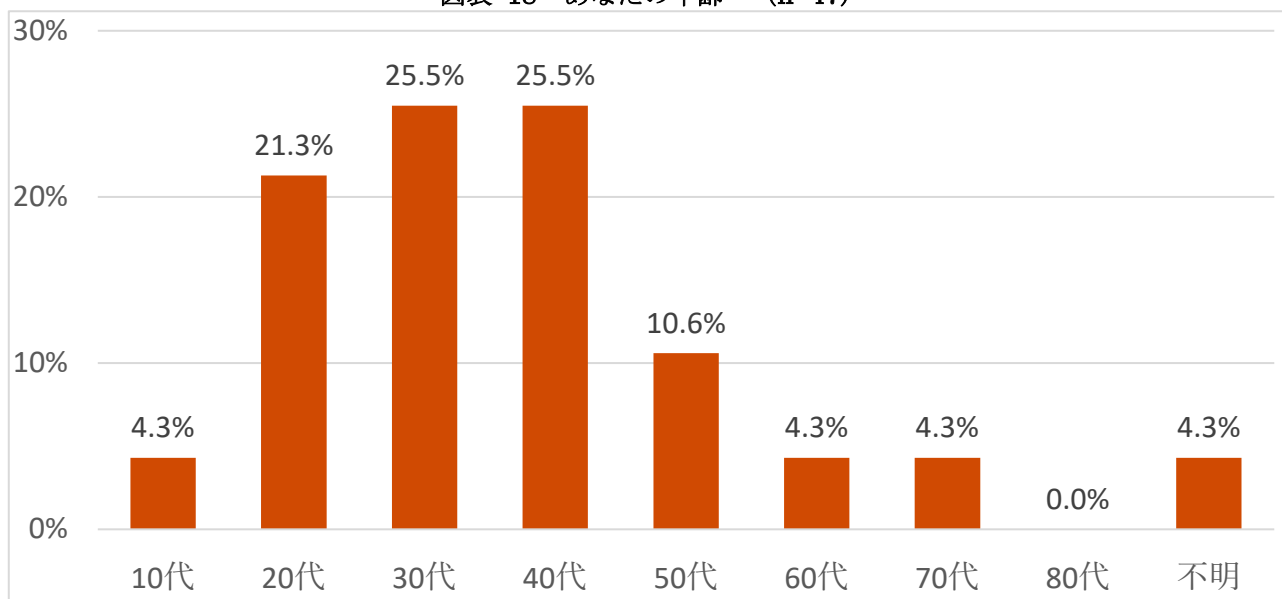
図表 17 あなたの性別 (n=47)



2. 年齢

回答者の年齢は、20～40代が多く、72.3%だった。

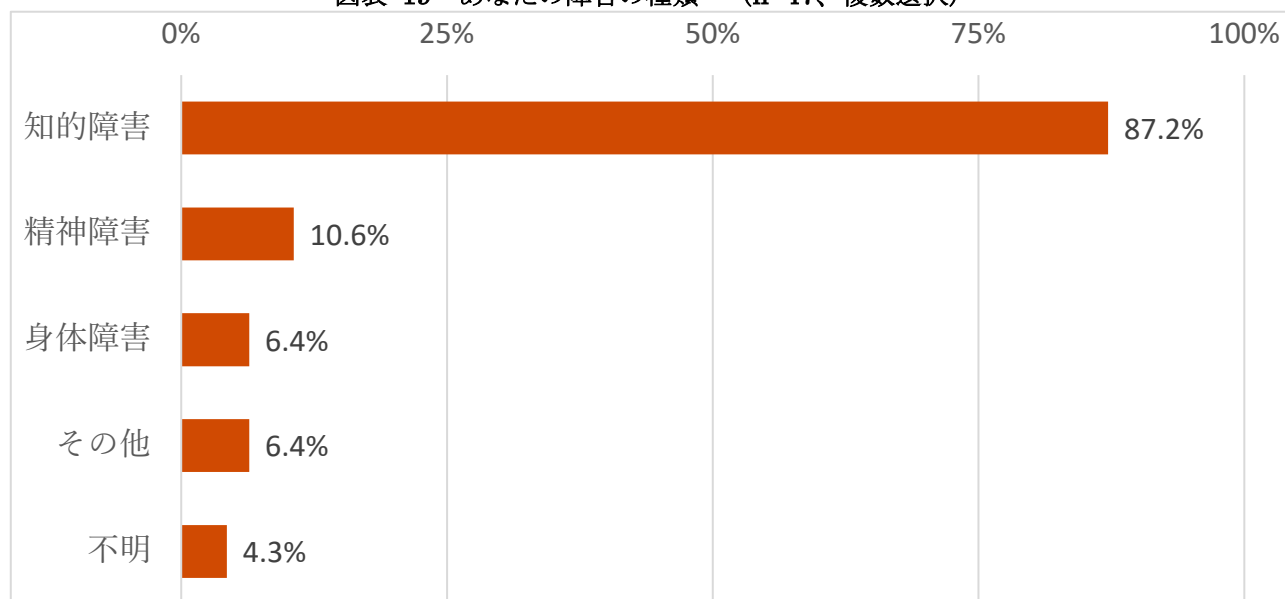
図表 18 あなたの年齢 (n=47)



3. 障害の種類

障害種別については、知的障害を選んだ回答者が 87.2%だった。

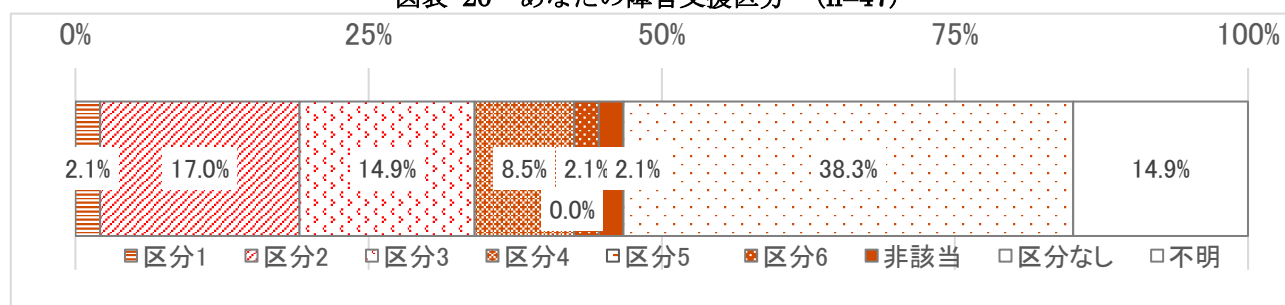
図表 19 あなたの障害の種類 (n=47、複数選択)



4. 障害支援区分

障害支援区分は区分なしが最多で 38.3%だった。区分 1～3 で 33.0%、区分 4 以上は 10.6%だった。

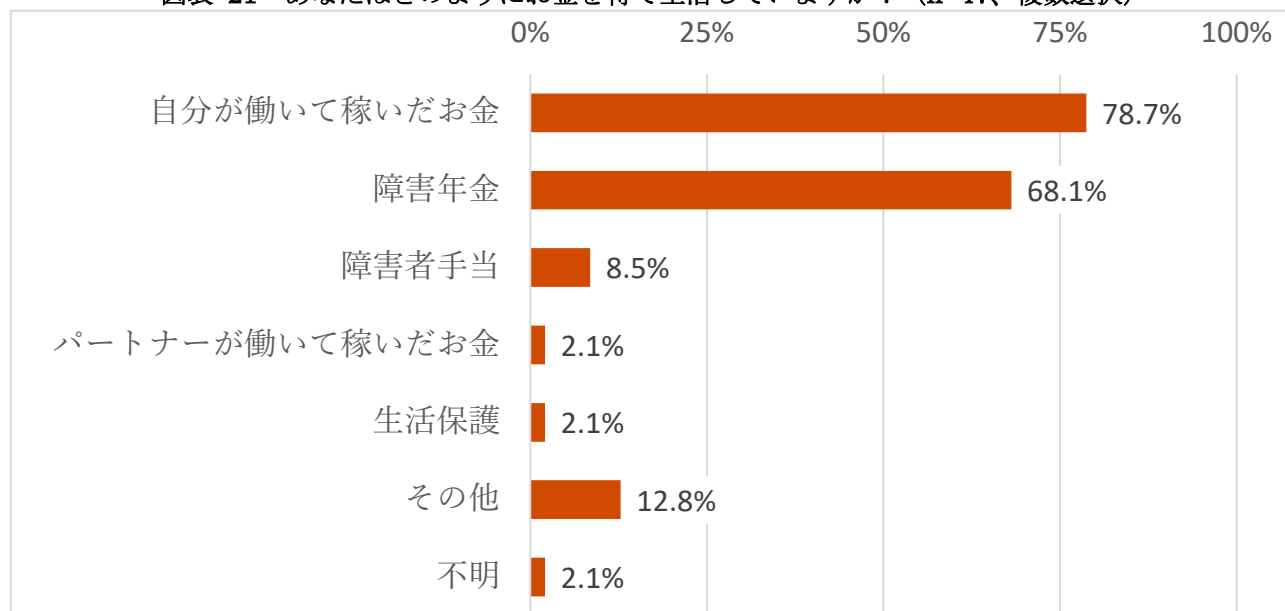
図表 20 あなたの障害支援区分 (n=47)



5. 収入を得る方法

収入を得る方法は「自分が働いて稼いだお金」が最多の 78.7%で、次いで「障害年金」の 68.1%だった。

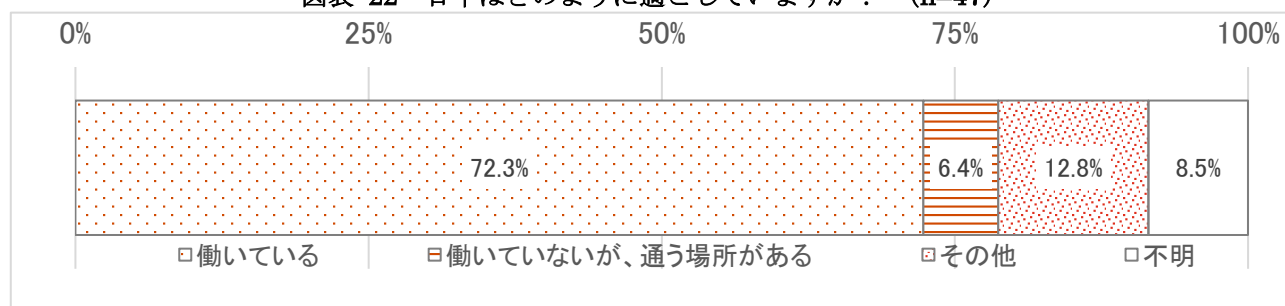
図表 21 あなたはどのようにお金を得て生活していますか？（n=47、複数選択）



6. 日中の過ごし方

日中の過ごし方は、「働いている」が最多の 72.3%で、次いで「その他」の 12.8%だった。

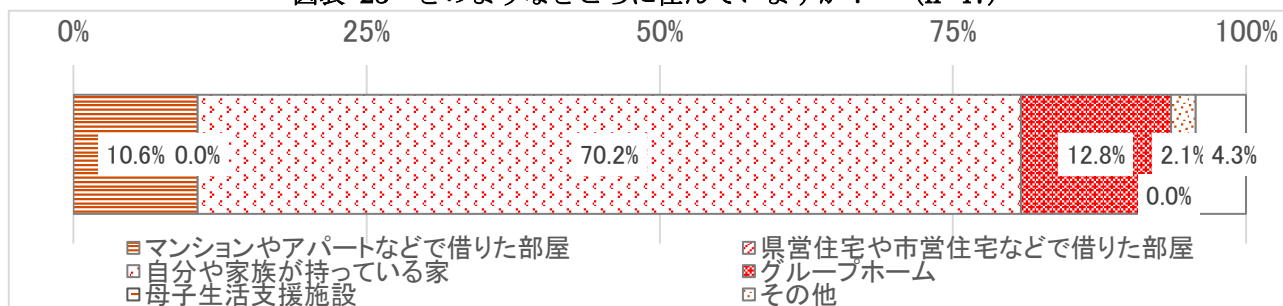
図表 22 日中はどのように過ごしていますか？（n=47）



7. 住居の種類

住居の種類は、「自分や家族が持っている家」が最多の70.2%で、次いで「グループホーム」の12.8%だった。

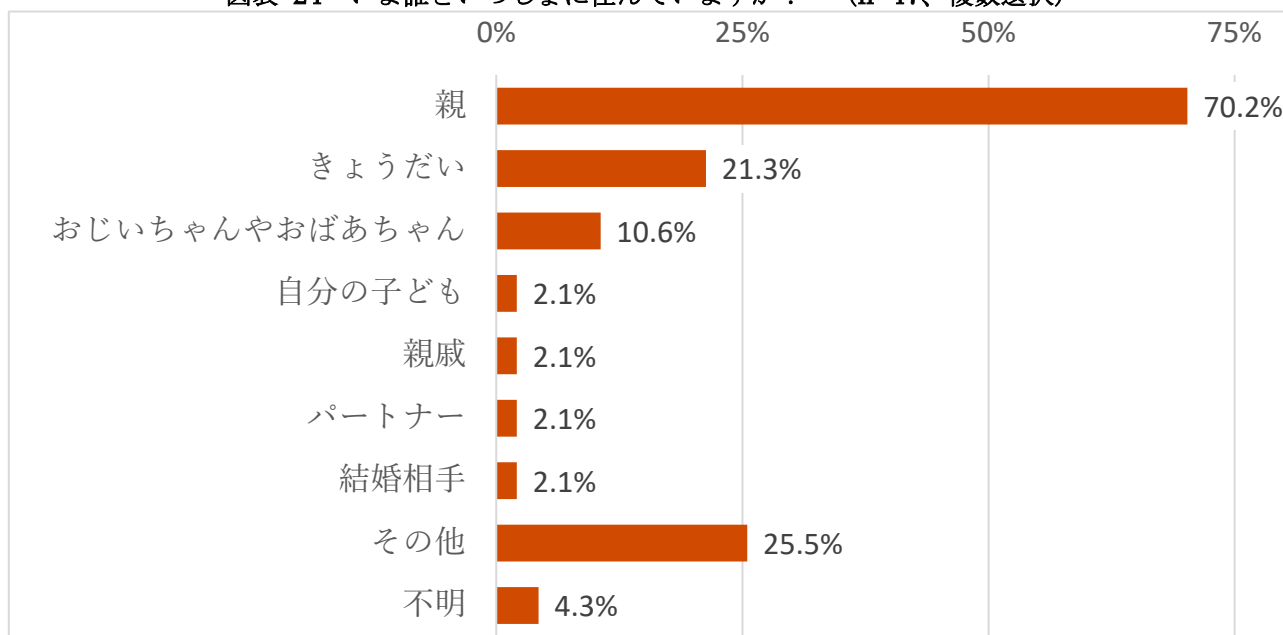
図表 23 どのようなところに住んでいますか？ (n=47)



8. 同居の家族

同居の家族は「親」が最多の70.2%であった。グループホームの方が「その他」を選んでいることも多かった。

図表 24 いま誰とひとしょに住んでいますか？ (n=47、複数選択)

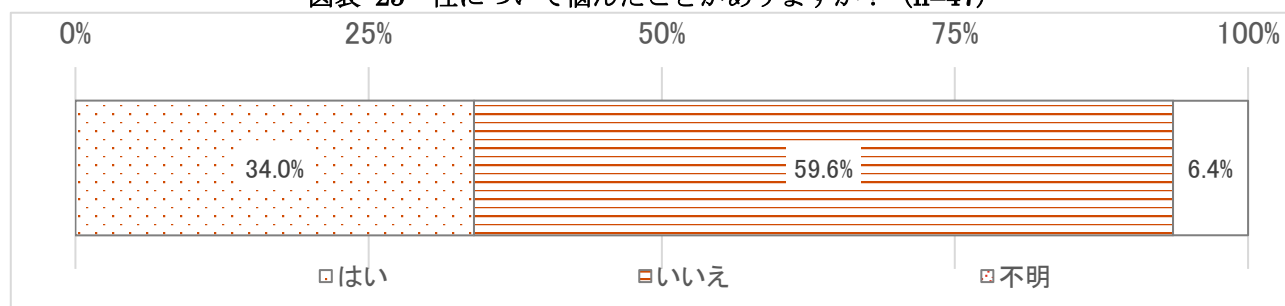


Ⅱ．性について

9．性について悩んだ経験

性について悩んだ経験があるかについては、「いいえ」が最多の 59.6%で、「はい」が 34.0%だった。

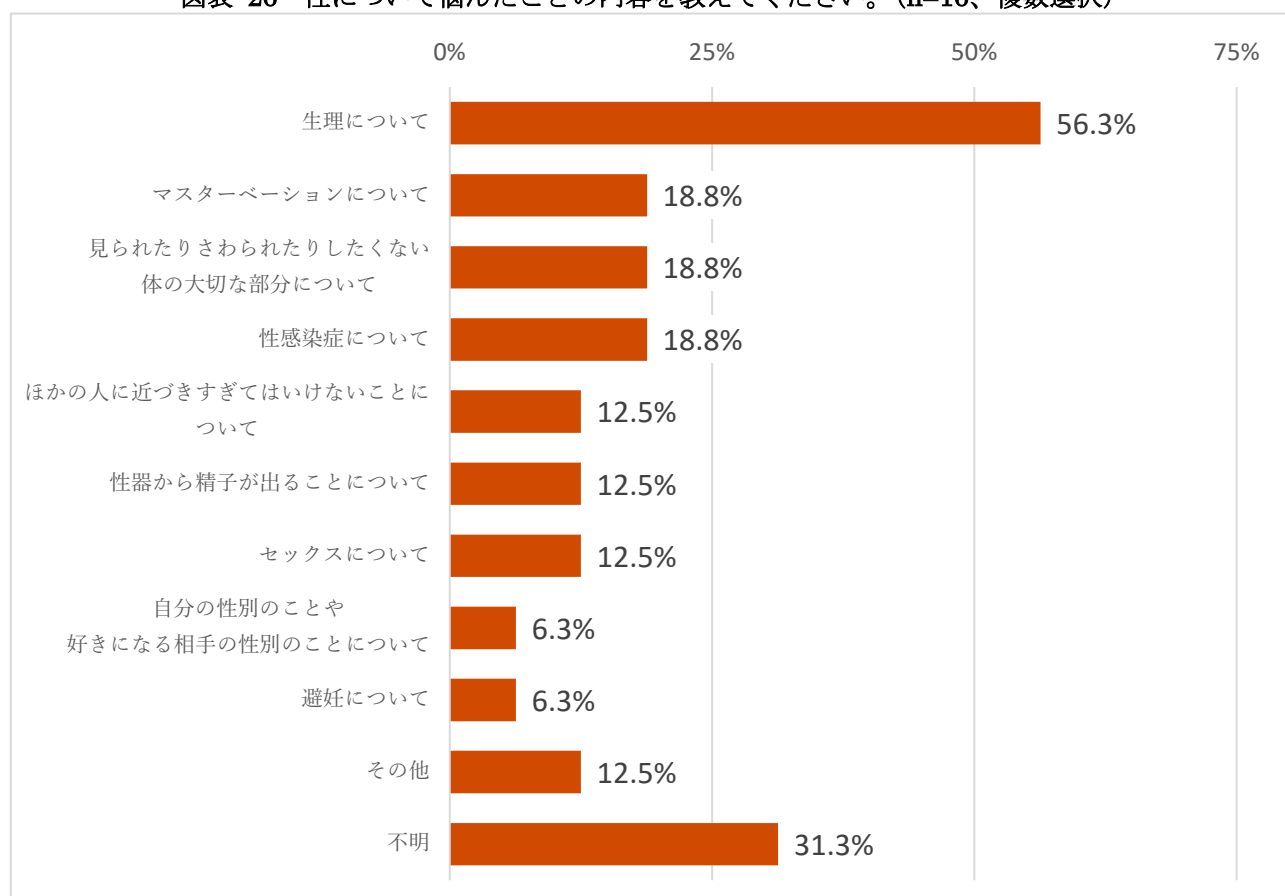
図表 25 性について悩んだことがありますか？ (n=47)



10．性についての悩みの内容

性についての悩みの内容は、「生理について」が最多の 56.3%で、次いで「マスターベーションについて」「見られたりさわられたりしたくない体の大切な部分について」「性感染症について」がそれぞれ 18.8%だった。

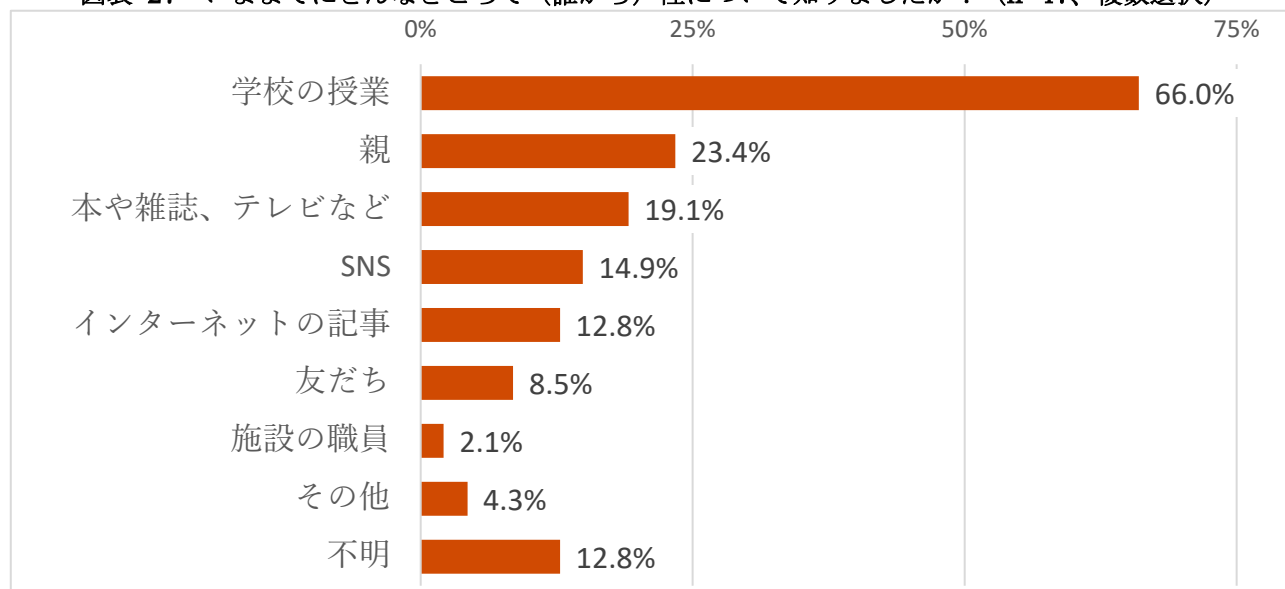
図表 26 性について悩んだことの内容を教えてください。(n=16、複数選択)



11. どんなところで（誰から）性について知ったか

どんなところから性について知ったかについては、「学校の授業」が最多の 66.0%で、次いで「親」の 23.4%だった。

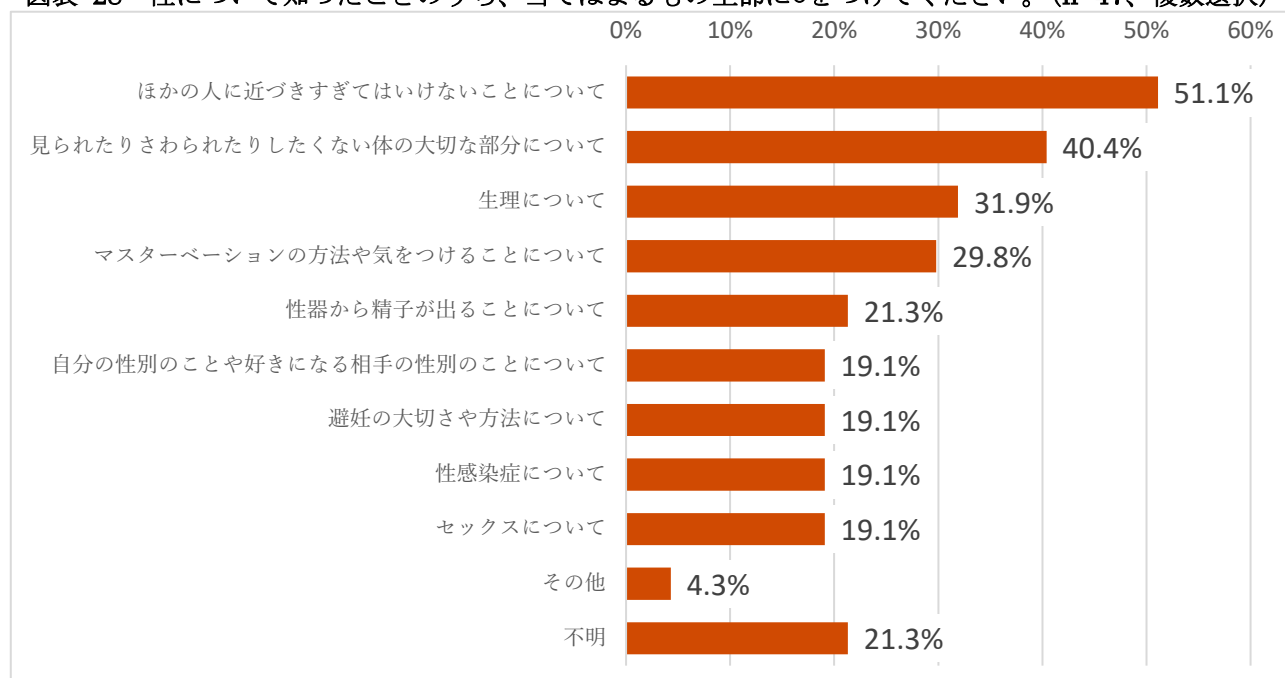
図表 27 いままでにどんなところで（誰から）性について知りましたか？（n=47、複数選択）



12. 性について知ったこと

性について知ったことについては、「ほかの人に近づきすぎてはいけないことについて」が最多の 51.1%で、次いで「見られたりさわられたりしたくない体の大切な部分について」の 40.4%だった。

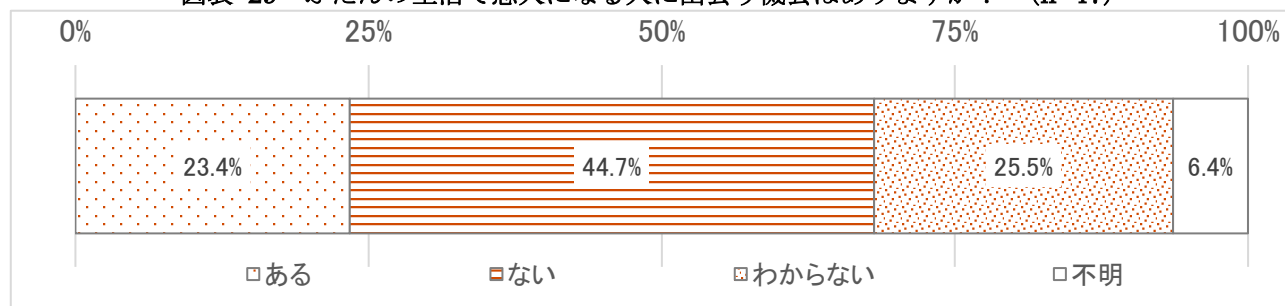
図表 28 性について知ったことのうち、当てはまるもの全部に○をつけてください。（n=47、複数選択）



13. 普段の生活で恋人になる人に出会う機会

普段の生活で恋人になる人に出会う機会について、「ない」が最多の 44.7%で、次いで「わからない」が 25.5%だった。

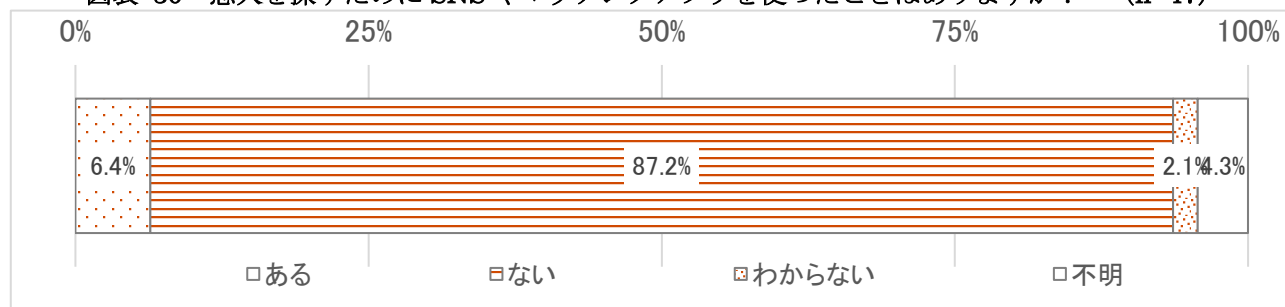
図表 29 ふだんの生活で恋人になる人に出会う機会がありますか？ (n=47)



14. 恋人を探すための SNS、マッチングアプリの利用経験

恋人を探すための SNS、マッチングアプリの利用経験について、「ない」が最多の 87.2%で、「ある」は 6.4%だった。

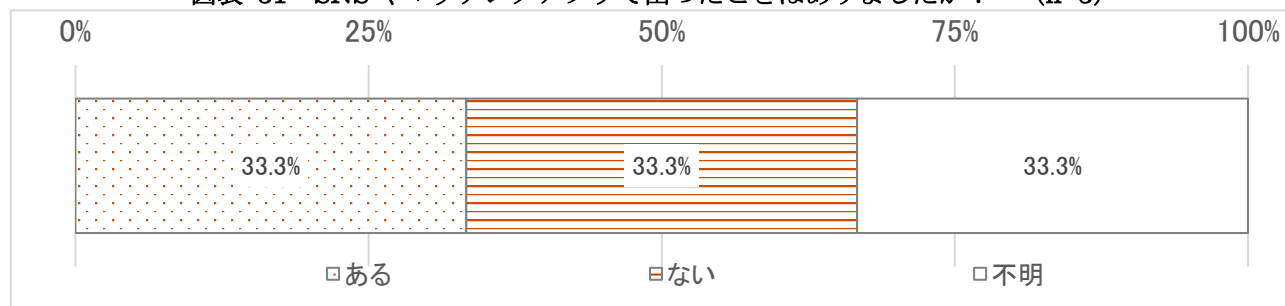
図表 30 恋人を探すために SNS やマッチングアプリを使ったことはありますか？ (n=47)



15. SNS やマッチングアプリで困った経験

SNS やマッチングアプリで困った経験について 3 名に聞いたところ、「ある」「ない」「(空欄・不明)」がそれぞれ 1 名だった。

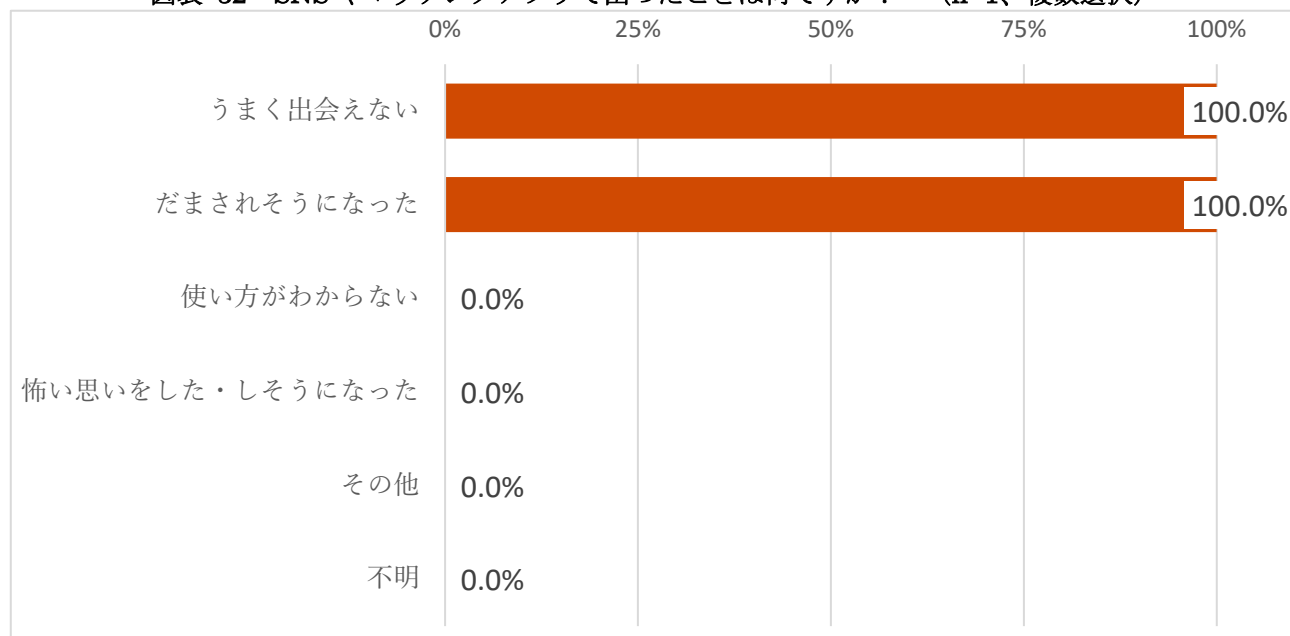
図表 31 SNS やマッチングアプリで困ったことはありましたか？ (n=3)



16. SNS・マッチングサイトで困った内容

SNS・マッチングサイトで困った内容について1名に聞いたところ、「うまく出会えない」「だまされそうになった」という回答があった。

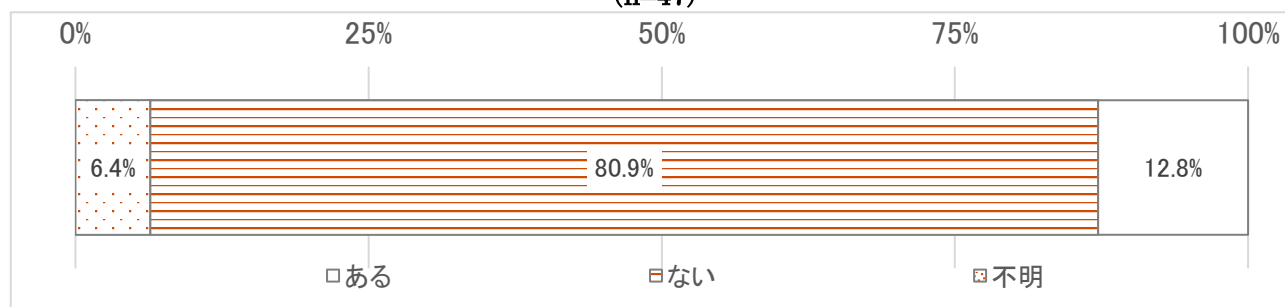
図表 32 SNSやマッチングアプリで困ったことは何ですか？ (n=1、複数選択)



17. 婚活や恋人になる人と出会うためのイベントに参加したこと

婚活や出会いのイベントに参加したことは、「ない」が最多の80.9%で、次いで「(空欄・不明)」が12.8%だった。

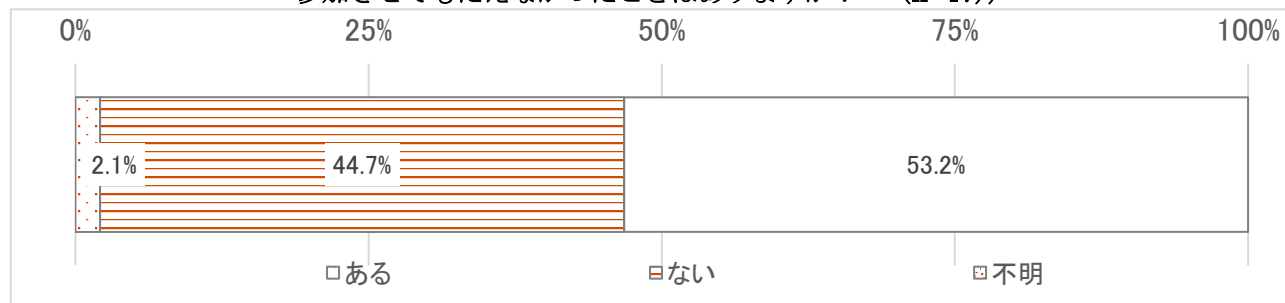
図表 33 いままでに婚活イベントや恋人になる人と出会うためのイベントに参加したことはありますか？ (n=47)



18. 障害者を理由に参加させてもらえなかったこと

障害者であることを理由に参加させてもらえなかったことについて聞いたところ、「(不明・空欄)」が最多の 53.2%で、次いで「ない」が 44.7%だった。

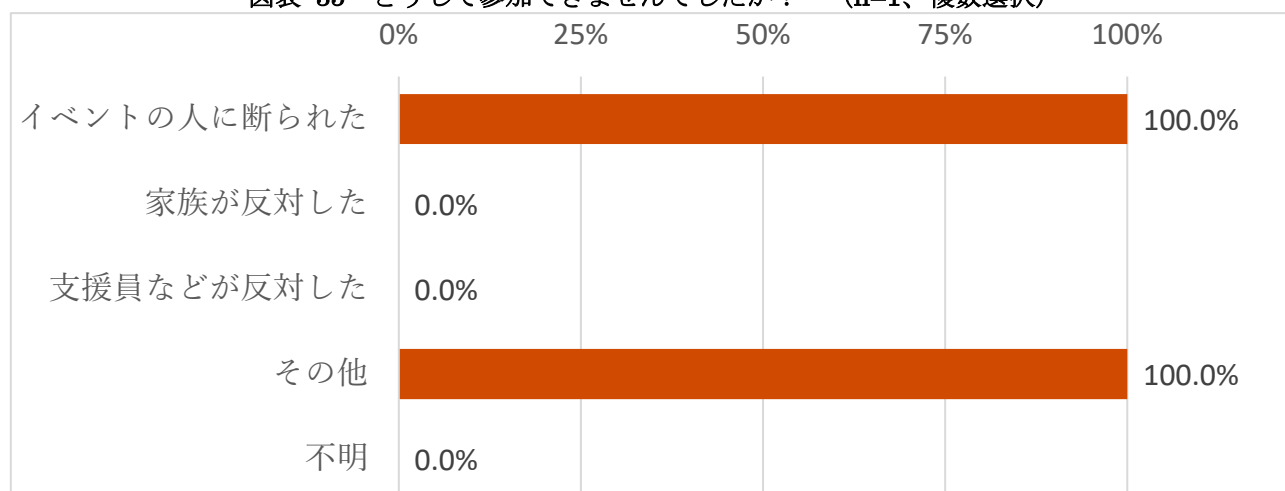
図表 34 17. のようなイベントに参加しようとしたとき、障害者だからという理由で参加させてもらえなかったことはありますか？ (n=47)



19. 参加できなかった理由

参加できなかった理由を 1 名に聞いたところ、「イベントの人に断られた」「その他」と回答があった。

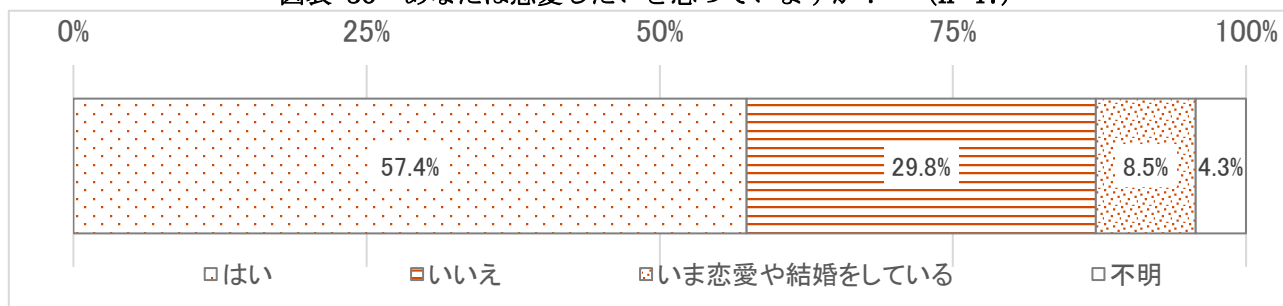
図表 35 どうして参加できませんでしたか？ (n=1、複数選択)



20. 恋愛をしたいと思っているか

恋愛をしたいと思っているかについて、「はい」が最多の 57.4%で、「いいえ」が 29.8%だった。「いま恋愛や結婚をしている」は 8.5%だった。

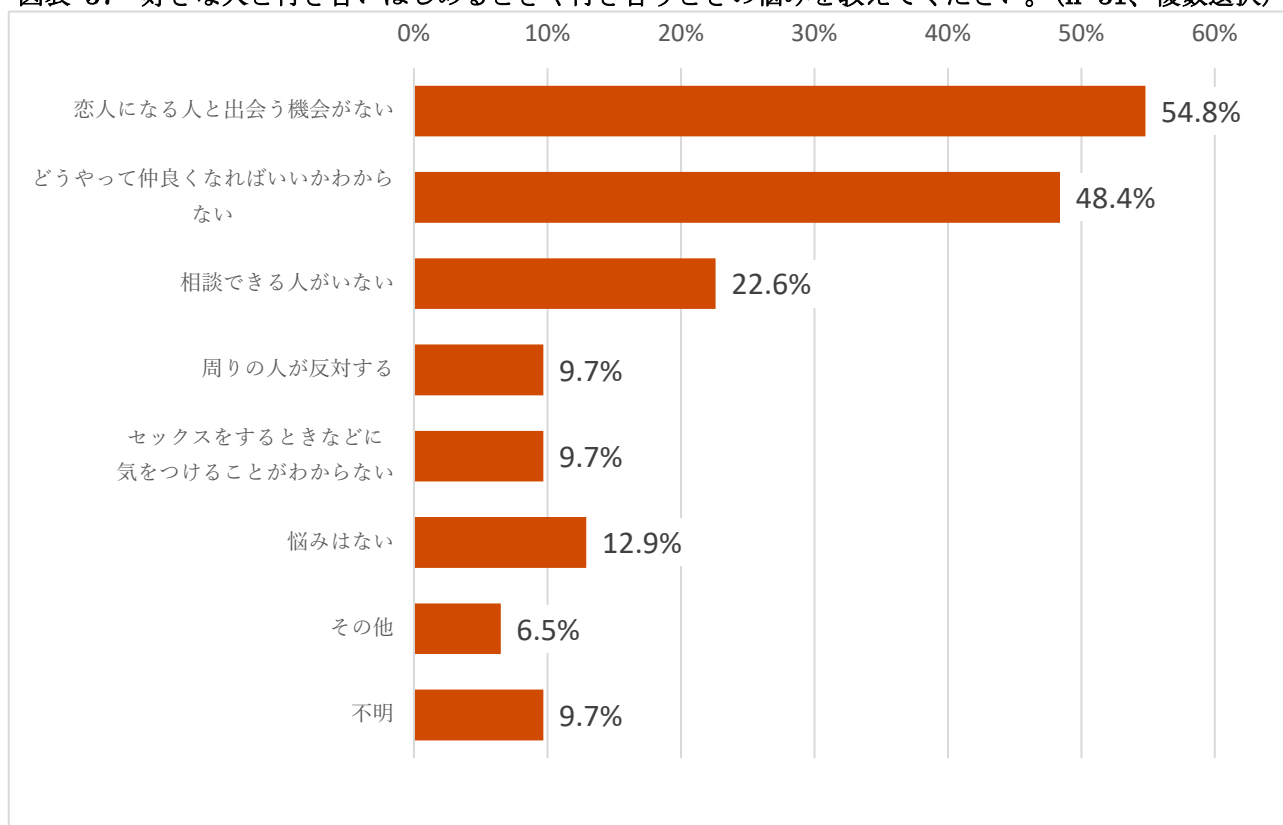
図表 36 あなたは恋愛したいと思っていますか？ (n=47)



21. 付き合い始めるとき、付き合う時の悩み

付き合い始めるときや付き合うときの悩みについて、「恋人になる人と出会う機会がない」が最多の 54.8%で、次いで「どうやって仲良くなればいいのかわからない」が 48.4%だった。

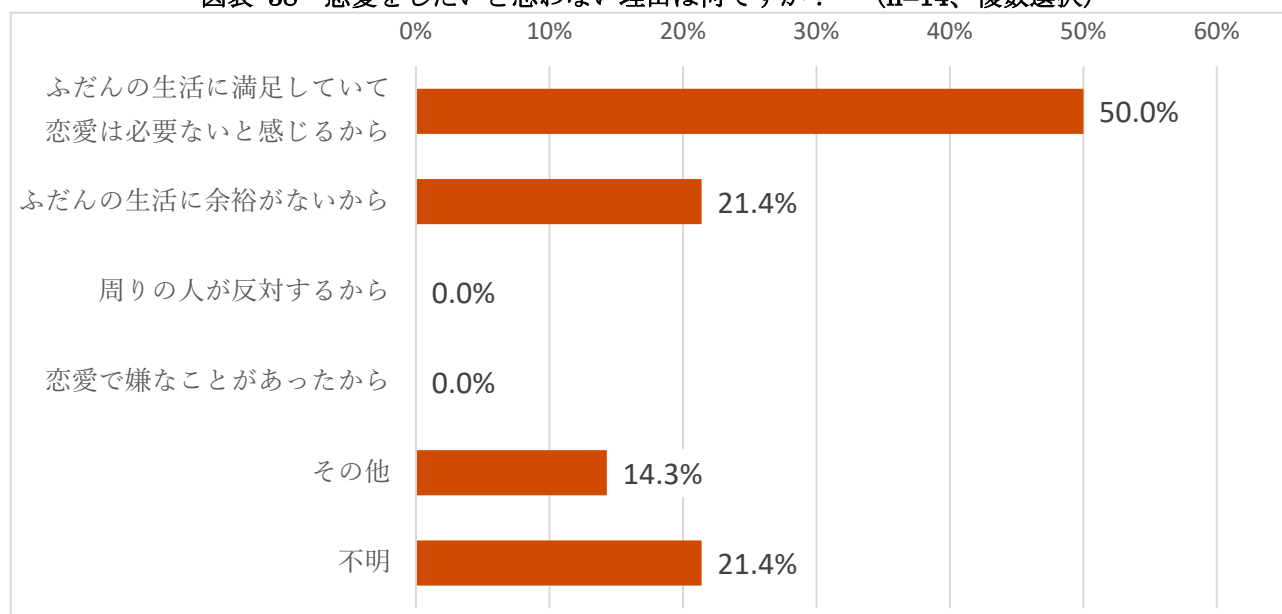
図表 37 好きな人と付き合いはじめるときや付き合うときの悩みを教えてください。(n=31、複数選択)



22. 恋愛をしたいと思わない理由

恋愛をしたいと思わない理由について、「ふだんの生活に満足していて恋愛は必要ないと感じるから」が最多の 50.0%で、次いで「ふだんの生活に余裕がないから」「(空欄・不明)」が 21.4%だった。

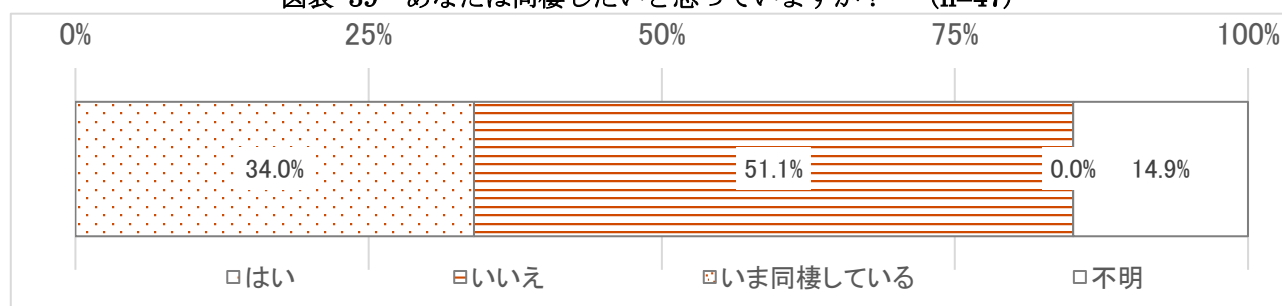
図表 38 恋愛をしたいと思わない理由は何ですか？ (n=14、複数選択)



23. 同棲をしたいと思っているか

同棲をしたいと思っているかについて、「いいえ」が最多の 51.1%で、次いで「はい」が 34.0%だった。

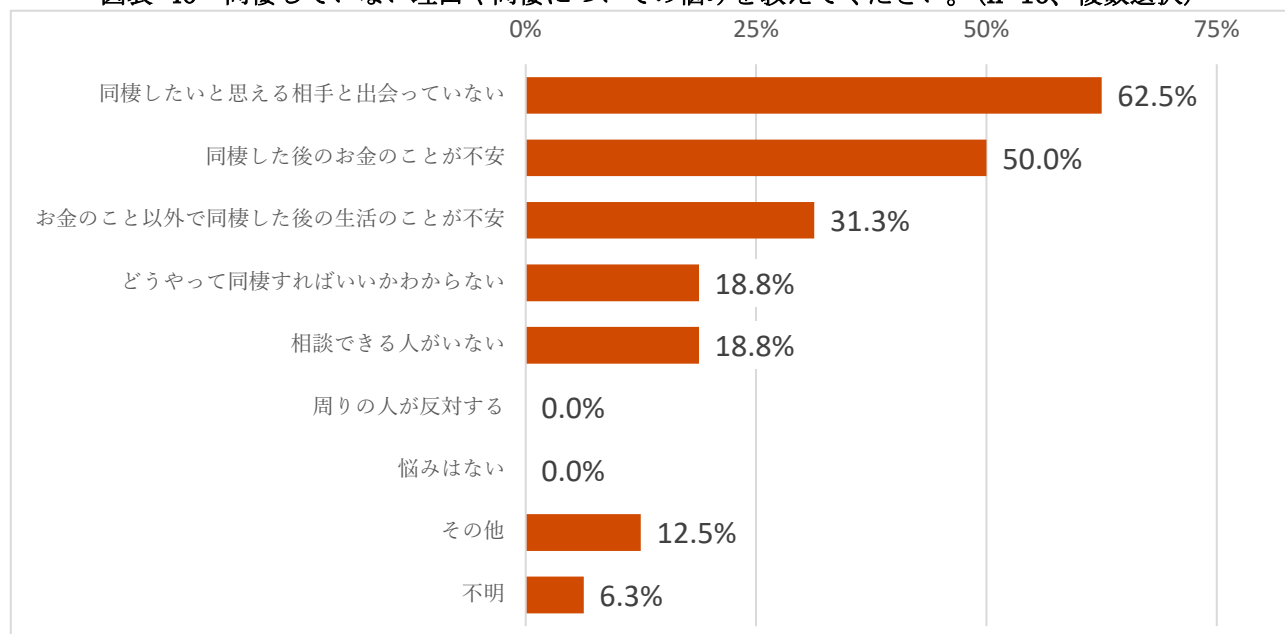
図表 39 あなたは同棲したいと思っていますか？ (n=47)



24. 同棲していない理由、同棲の悩み

同棲していない理由、同棲の悩みについて、「同棲したいと思える相手と出会っていない」が最多の 62.5%で、次いで「同棲した後のお金のことが不安」が 50.0%だった。

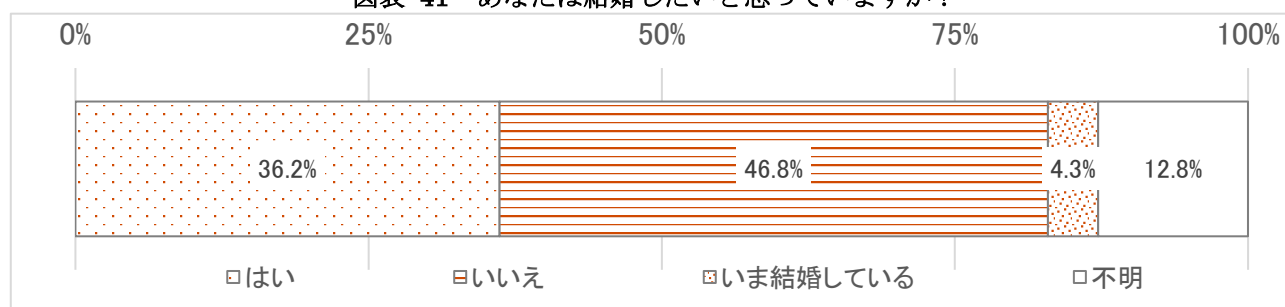
図表 40 同棲していない理由や同棲についての悩みを教えてください。(n=16、複数選択)



25. 結婚をしたいと思っているか

結婚したいと思っているかについて、「いいえ」が最多の 46.8%で、次いで「はい」が 36.2%だった。「いま結婚している」は 4.3%だった。

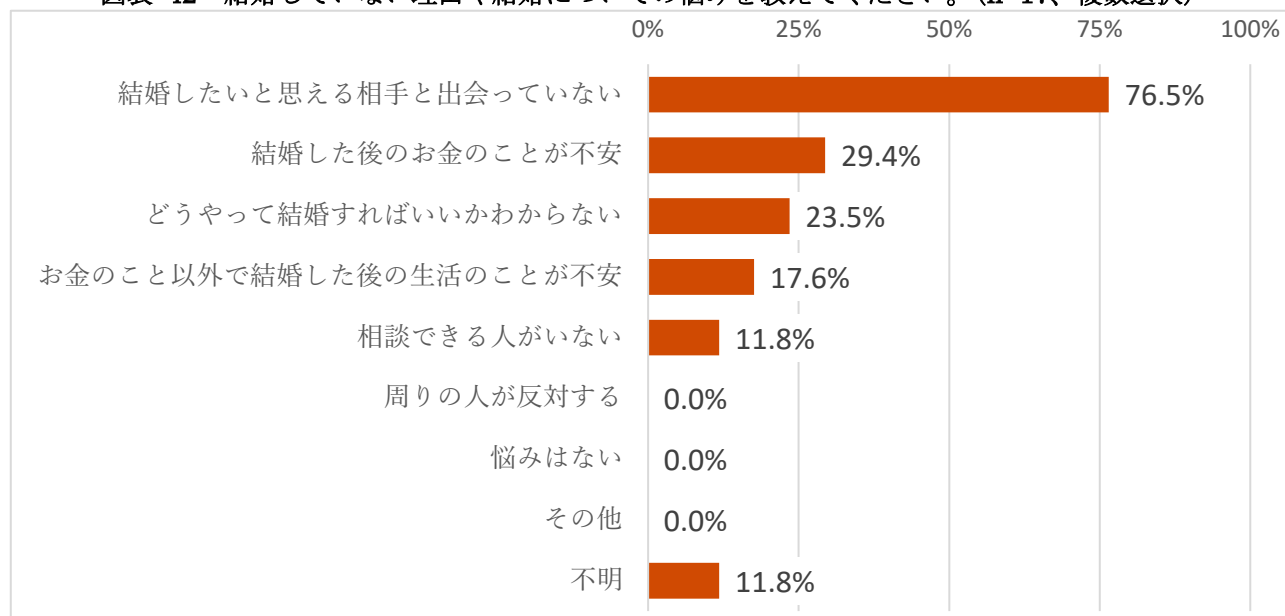
図表 41 あなたは結婚したいと思っていますか？



26. 結婚していない理由、結婚についての悩み

結婚していない理由、結婚についての悩みについて、「結婚したいと思える相手と出会っていない」が最多の 76.5%で、次いで「結婚した後のお金のことが不安」が 29.4%だった。

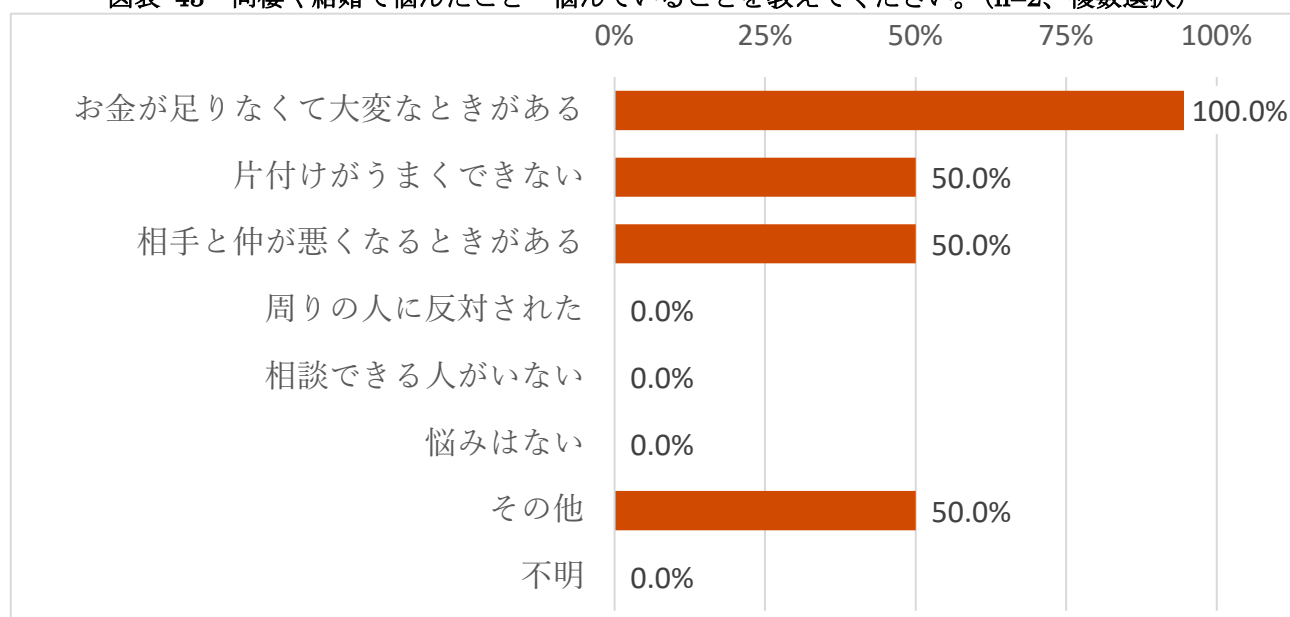
図表 42 結婚していない理由や結婚についての悩みを教えてください。(n=17、複数選択)



27. 同棲や結婚で悩んだこと・悩んでいること

同棲や結婚で悩んだこと・悩んでいることについて、「お金が足りなくて大変なときがある」が 100.0%で、次いで「片付けがうまくできない」「相手と仲が悪くなる時がある」「その他」が 50.0%だった。

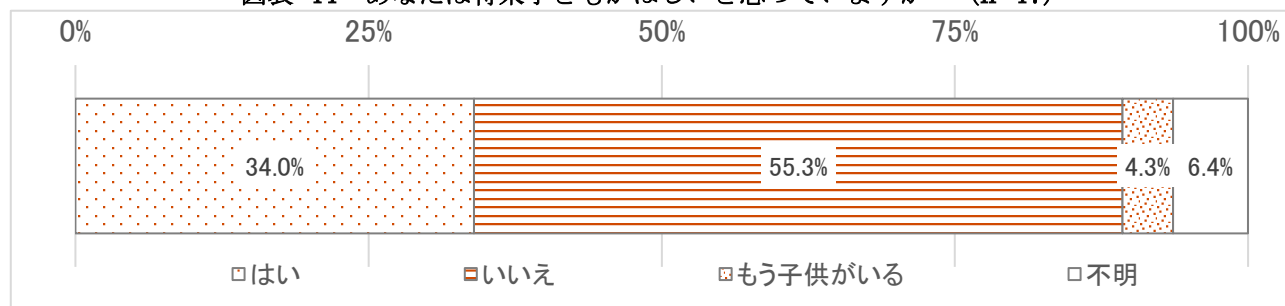
図表 43 同棲や結婚で悩んだこと・悩んでいることを教えてください。(n=2、複数選択)



28. 将来子どもが欲しいと思っているか

将来子どもが欲しいと思っているかについて、「いいえ」が最多の 55.3%で、次いで「はい」が 34.0%だった。

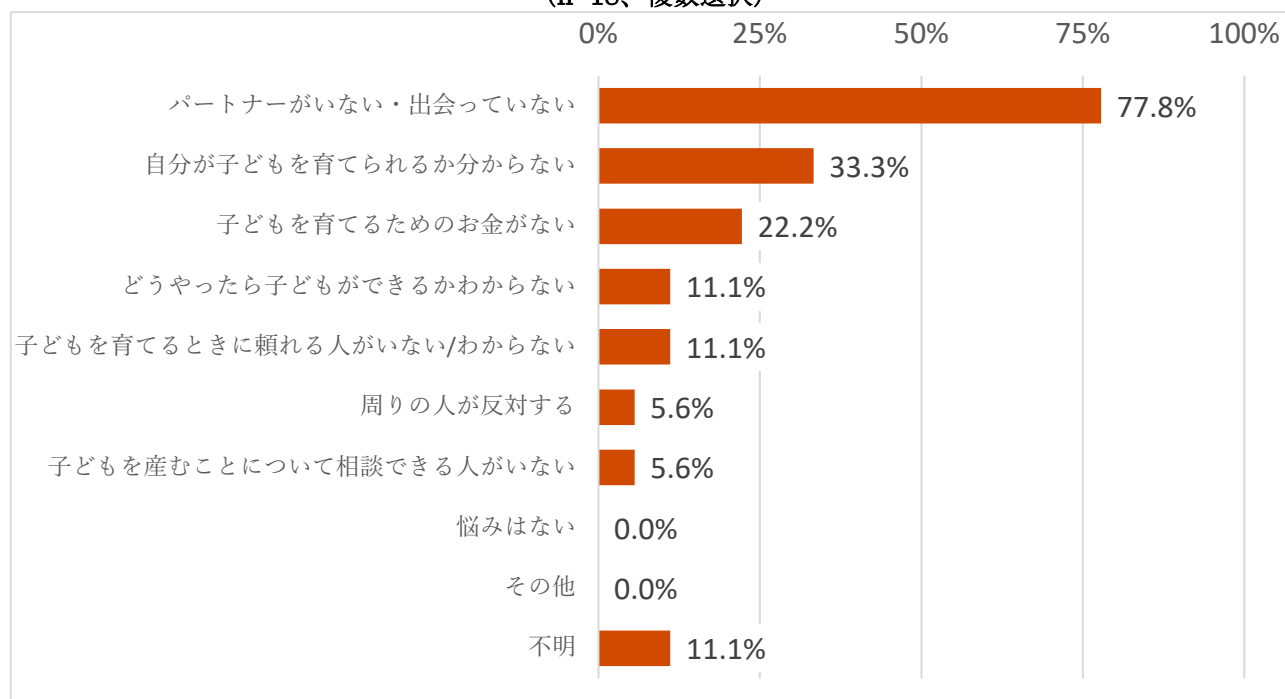
図表 44 あなたは将来子どもがほしいと思っていますか (n=47)



29. 子どもを産むことや育てることで悩んだこと・悩んでいること

子どもを産むことや育てることで悩んだこと・悩んでいることについて、「パートナーがいない・出会っていない」が最多の 77.8%で、次いで「自分が子どもを育てられるか分からない」が最多の 33.3%だった。

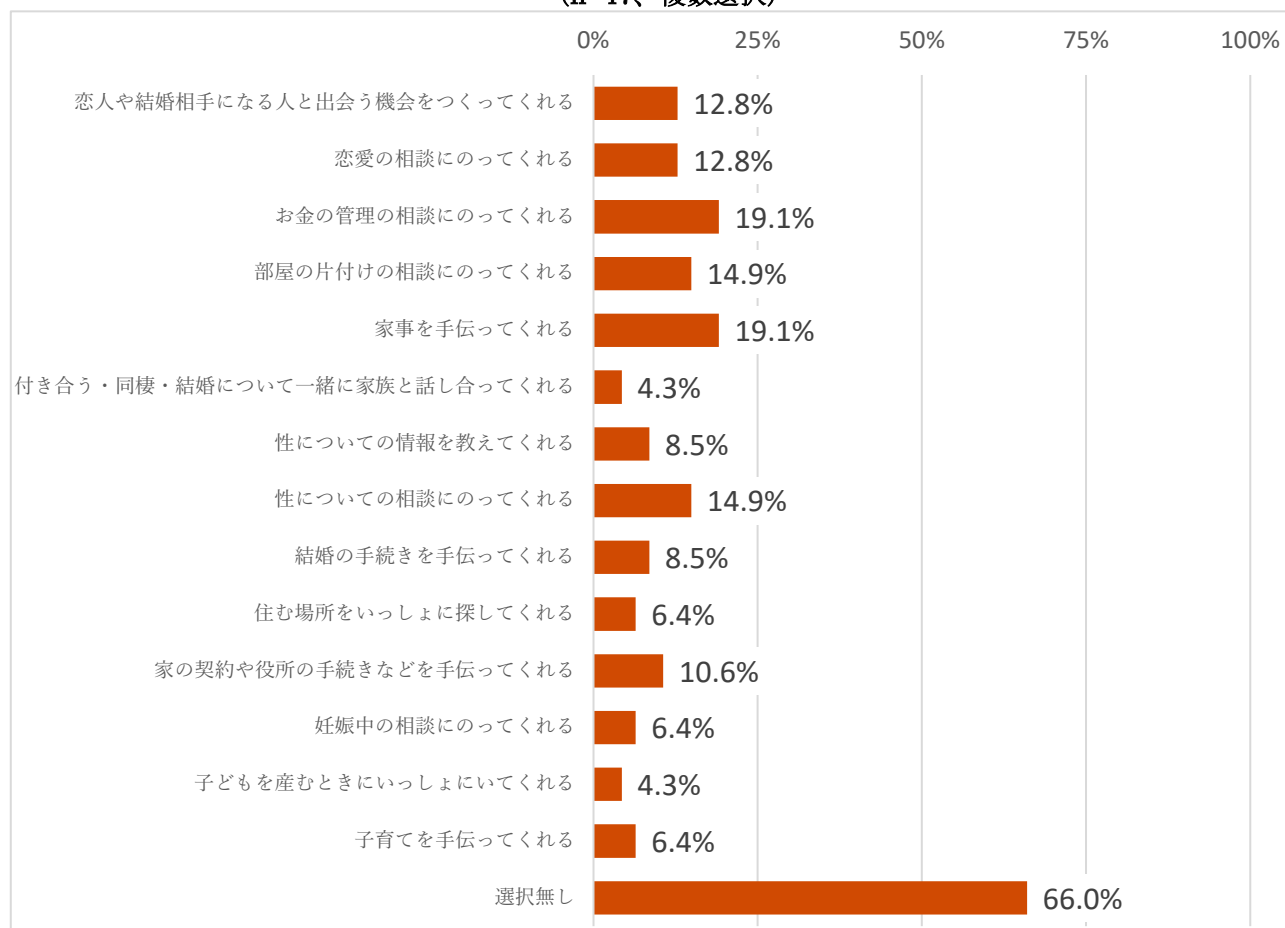
図表 45 子どもを産むことや育てることで悩んだこと・悩んでいることを教えてください。
(n=18、複数選択)



30-1. 各種支援についての経験や考え（1）してもらったことがある

してもらったことがある支援について、回答者のうち 66.0%が選択しなかった。「お金の管理の相談にのってくれる」「家事を手伝ってくれる」については 19.1%、「部屋の片付けの相談にのってくれる」「性についての相談にのってくれる」は 14.9%だった。

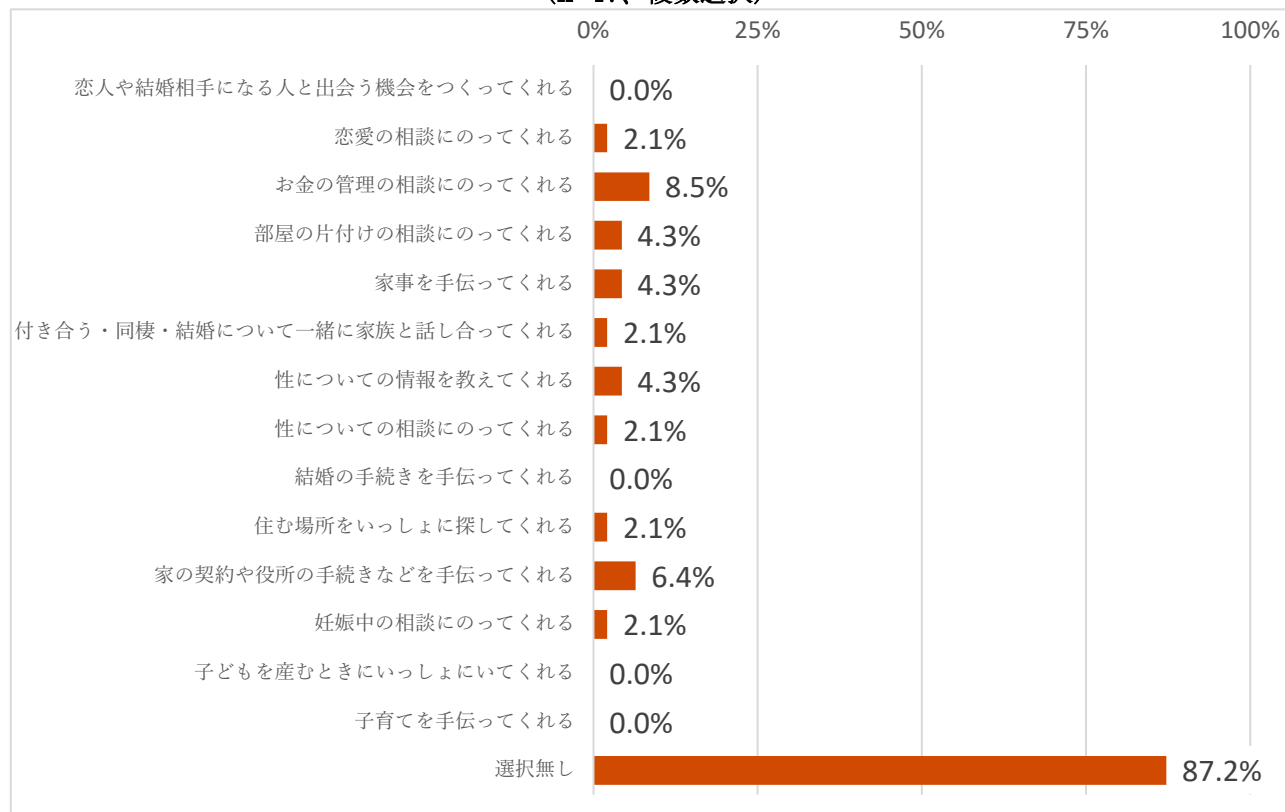
図表 46 下の表の支援について、あなたの経験や考えを教えてください。【してもらったことがある】
(n=47、複数選択)



30・2．各種支援についての経験や考え（2）してもらってよかった

してもらってよかった支援について、回答者のうち 87.2%が選択しなかった。「お金の管理の相談にのってくれる」については 8.5%だった。

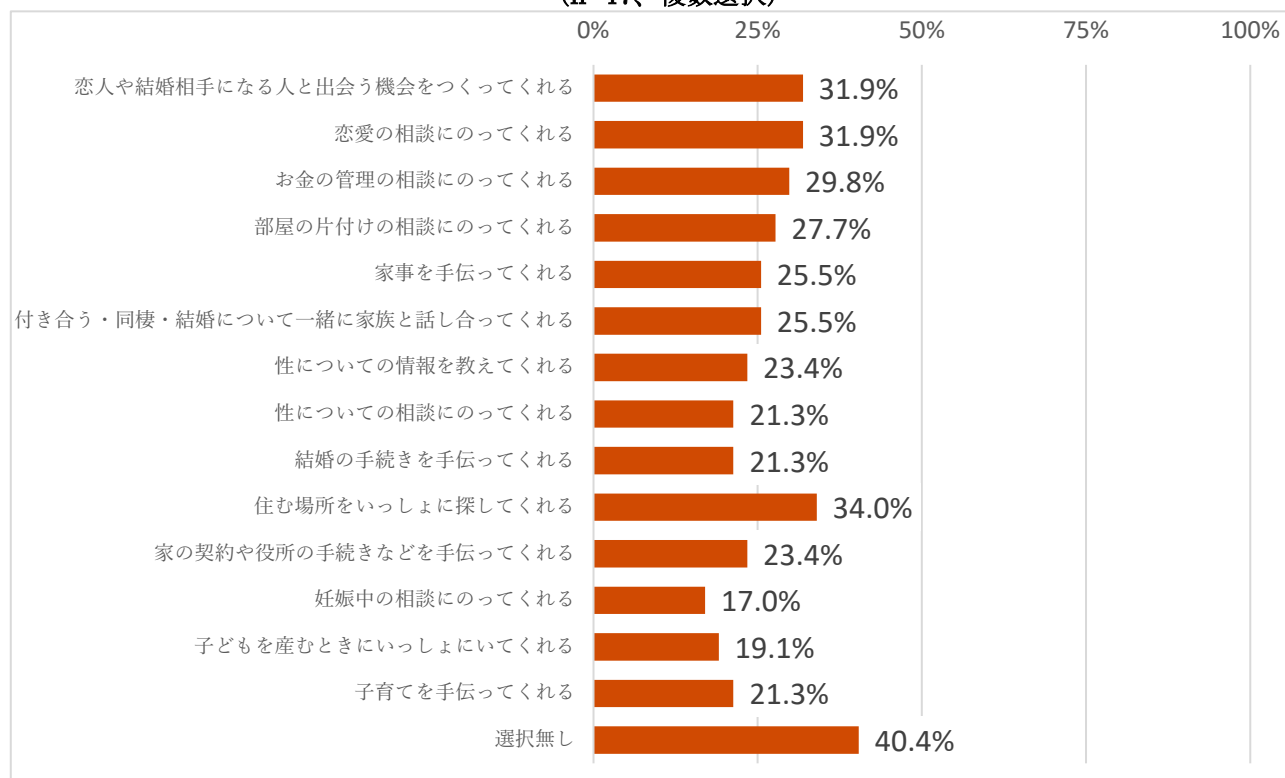
図表 47 下の表の支援について、あなたの経験や考えを教えてください。【してもらってよかった】
(n=47、複数選択)



30-3. 各種支援についての経験や考え（3）これからしてほしい

これからしてほしい支援について、回答者のうち 40.4%が選択しなかった。「住む場所をいっしょに探してくれる」が 34.0%、「恋人や結婚相手になる人と出会う機会をつくってくれる」「恋愛の相談にのってくれる」が 31.9%だった。

図表 48 下の表の支援について、あなたの経験や考えを教えてください。【これからしてほしい】
(n=47、複数選択)



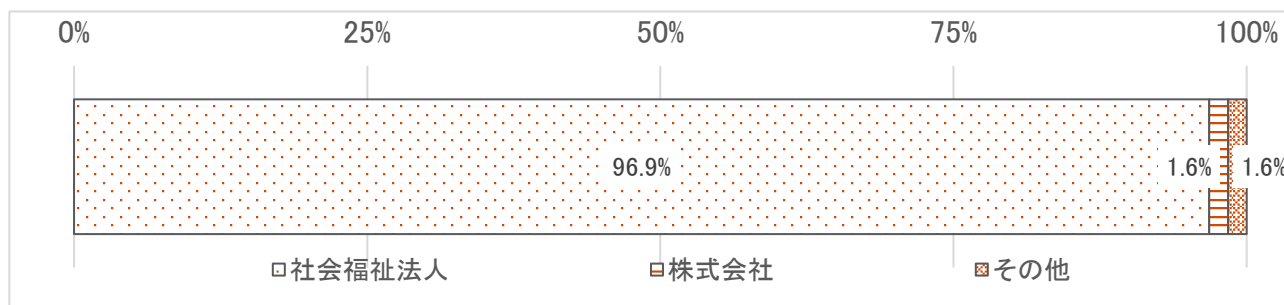
(3) 障害福祉サービス等事業所へのアンケート調査結果

I. 基本情報

6. 運営法人の種別

運営法人の種別は最多が「社会福祉法人」で 96.9%だった。

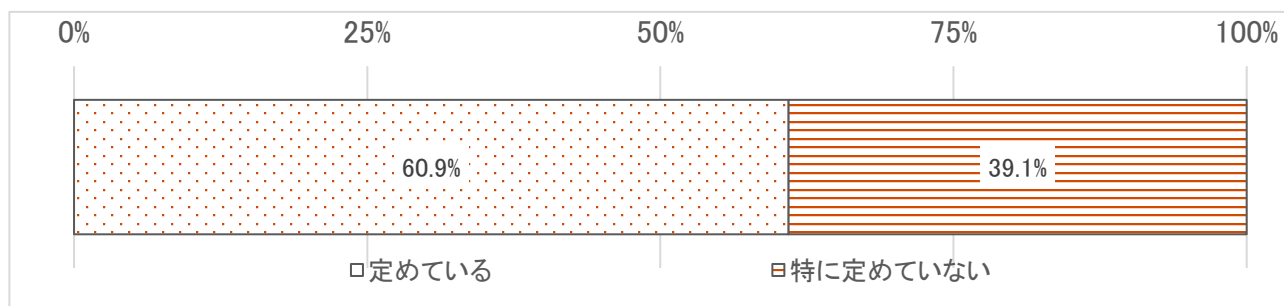
図表 49 運営法人の種別 (n=64)



8. 対象とする主たる障害種別を定めているか

対象とする障害種別を定めているかについては、「定めている」が 60.9%で、「定めていない」が 39.1%だった。

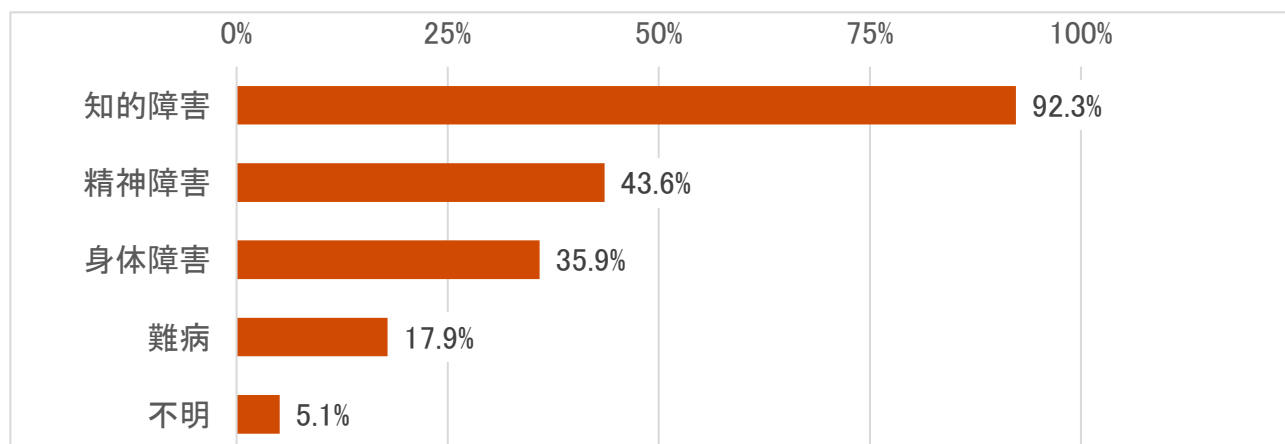
図表 50 対象とする主たる障害種別（運営規定において定めている障害種別すべて）【定めているか】
(n=64)



8. 対象とする主たる障害種別

対象とする主たる障害種別は、「知的障害」が最多の 92.3%だった。

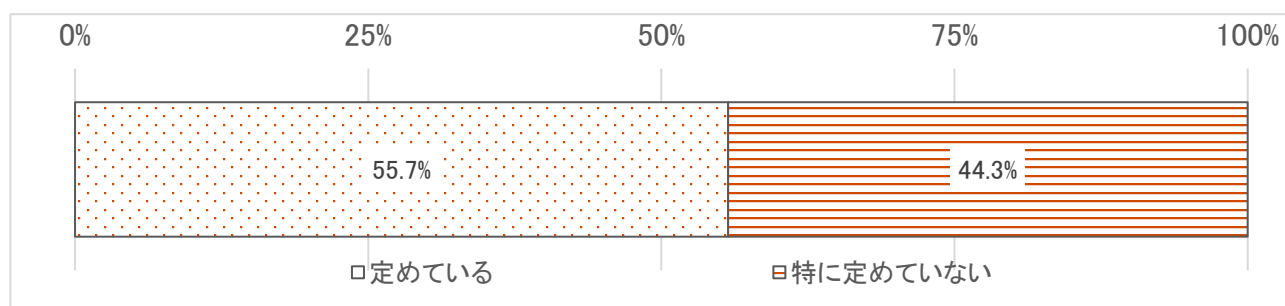
図表 51 対象とする主たる障害種別（運営規定において定めている障害種別すべて）
【対象とする主たる障害種別】（n=39、複数選択）



9. 定員数を定めているか

定員数を定めているかについては、「定めている」が 55.7%で、「特に定めていない」が 44.3%だった。

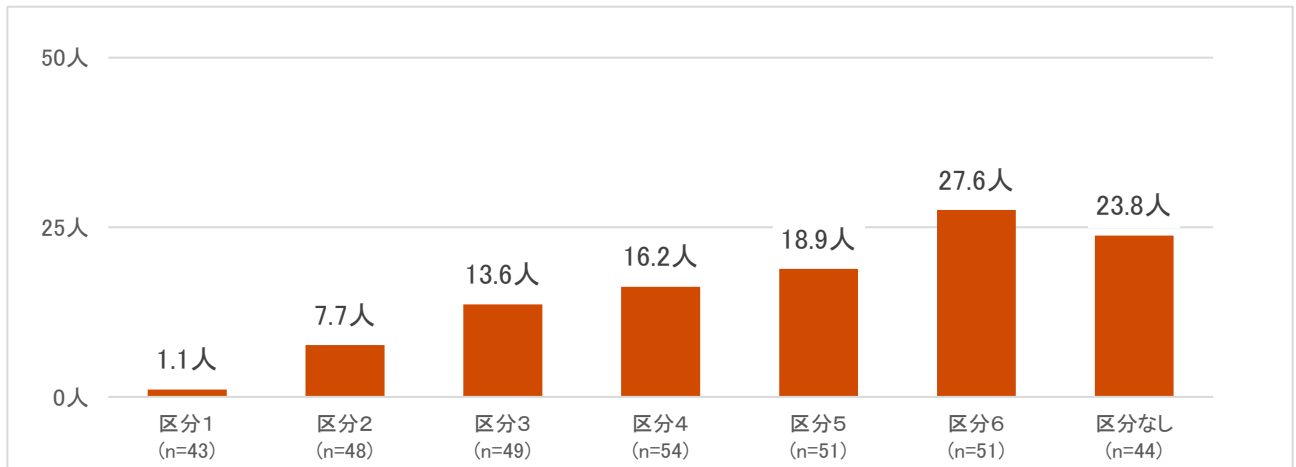
図表 52 定員数（令和6年4月1日時点）（n=61）



11. 障害支援区分ごとの契約者数

障害支援区分ごとの契約者数を平均すると下記のとおりである。

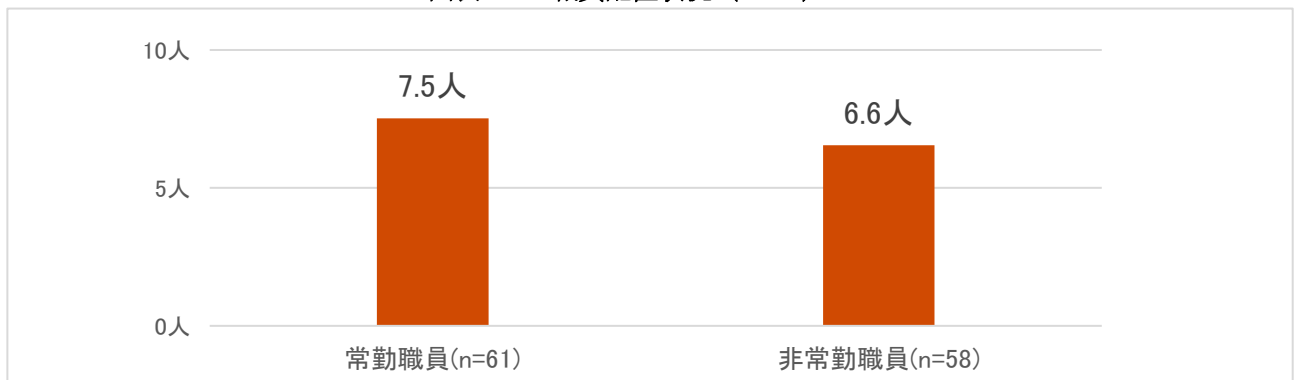
図表 53 障害支援区分ごとの契約者数（令和6年4月1日時点）（n=61）



12. 職員配置状況

職員配置状況を平均すると下記のとおりである。

図表 54 職員配置状況（n=61）

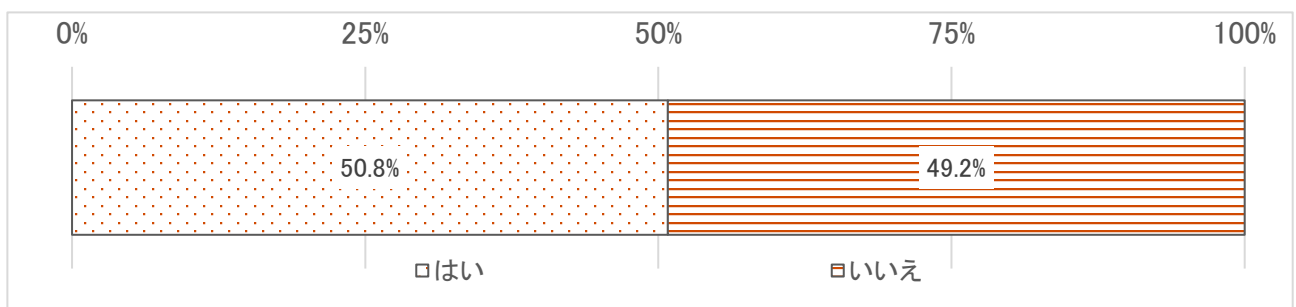


Ⅱ. 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育ての支援状況の実態

1. 性教育に関する支援

性教育に関する支援を実施しているかについて、「はい」が 50.8%で、「いいえ」が 49.2%だった。

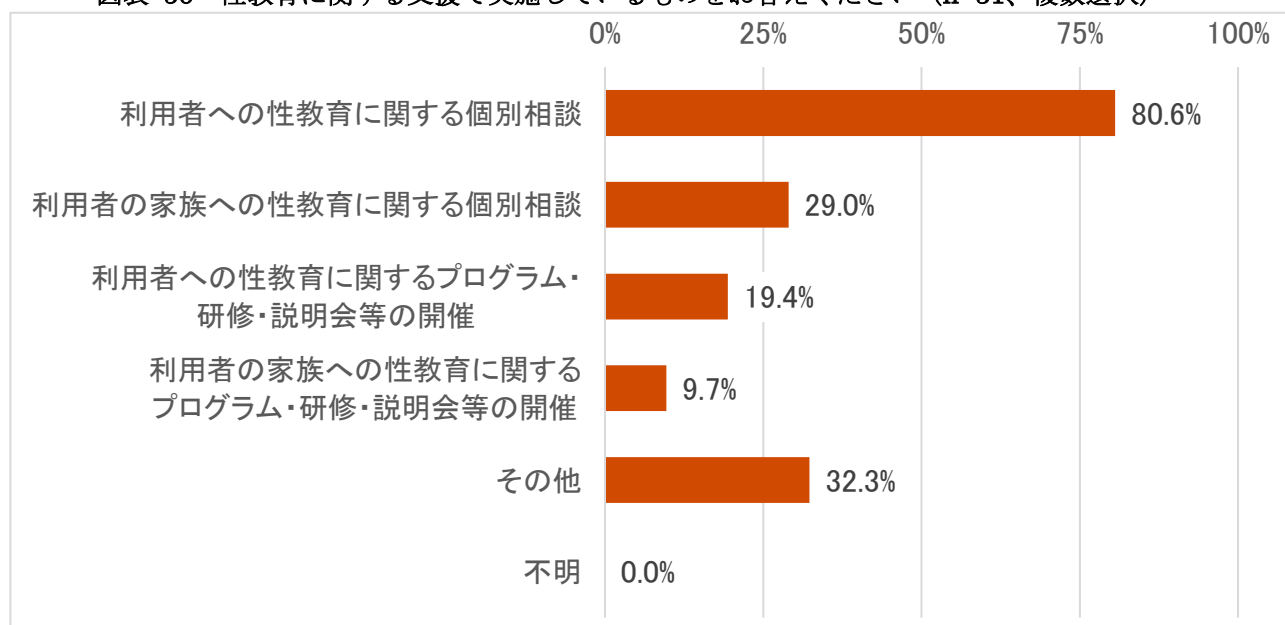
図表 55 貴事業所では利用者に性教育に関する支援を実施していますか（n=61）



2. 性教育に関する支援で実施しているもの

性教育に関する支援で実施しているものについて、「利用者への性教育に関する個別相談」が最多の 80.6%だった。

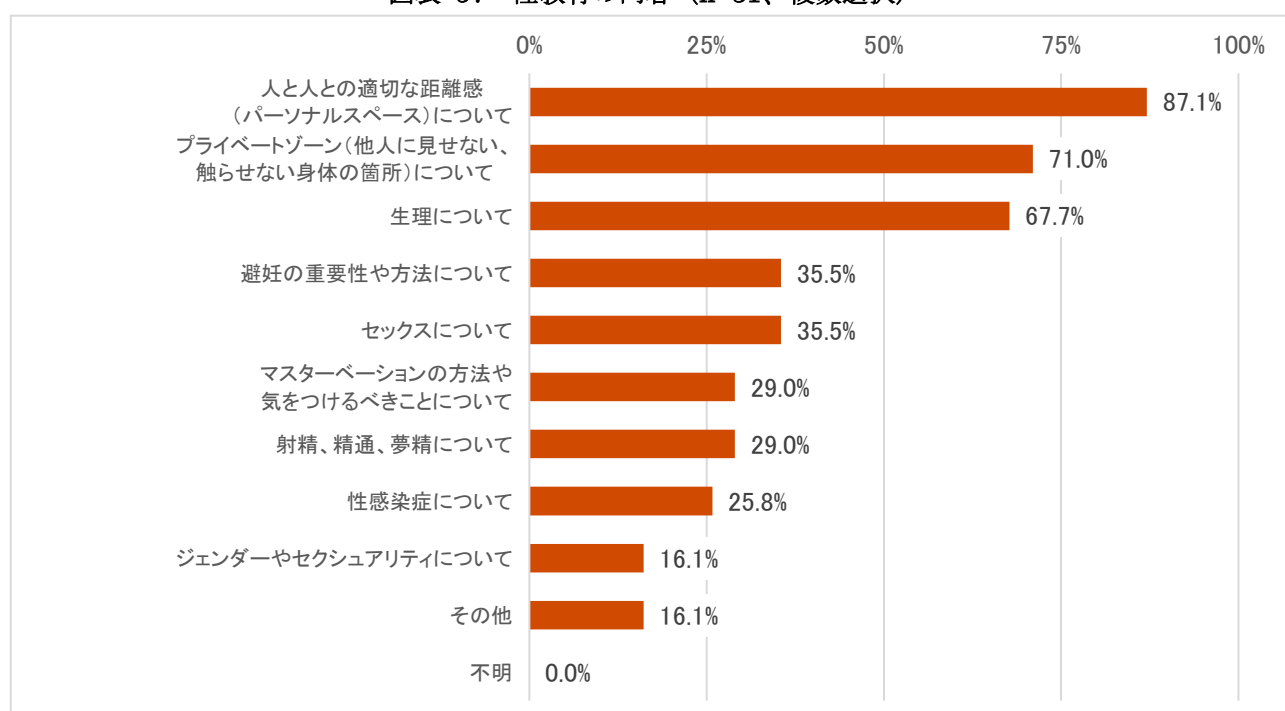
図表 56 性教育に関する支援で実施しているものをお答えください (n=31、複数選択)



3. 性教育の内容

性教育の内容について、最多は「人と人との適切な距離感について」の 87.1%で、次いで「プライベートゾーンについて」の 71.0%、「生理について」の 67.7%だった。

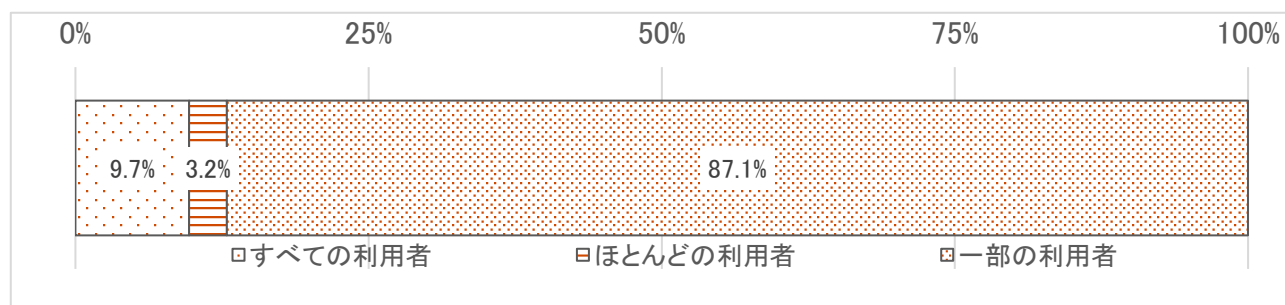
図表 57 性教育の内容 (n=31、複数選択)



4. 性教育に関する支援の対象

性教育に関する支援の対象は、「一部の利用者」が最多の 87.1%で、次いで「すべての利用者」の 9.7%だった。

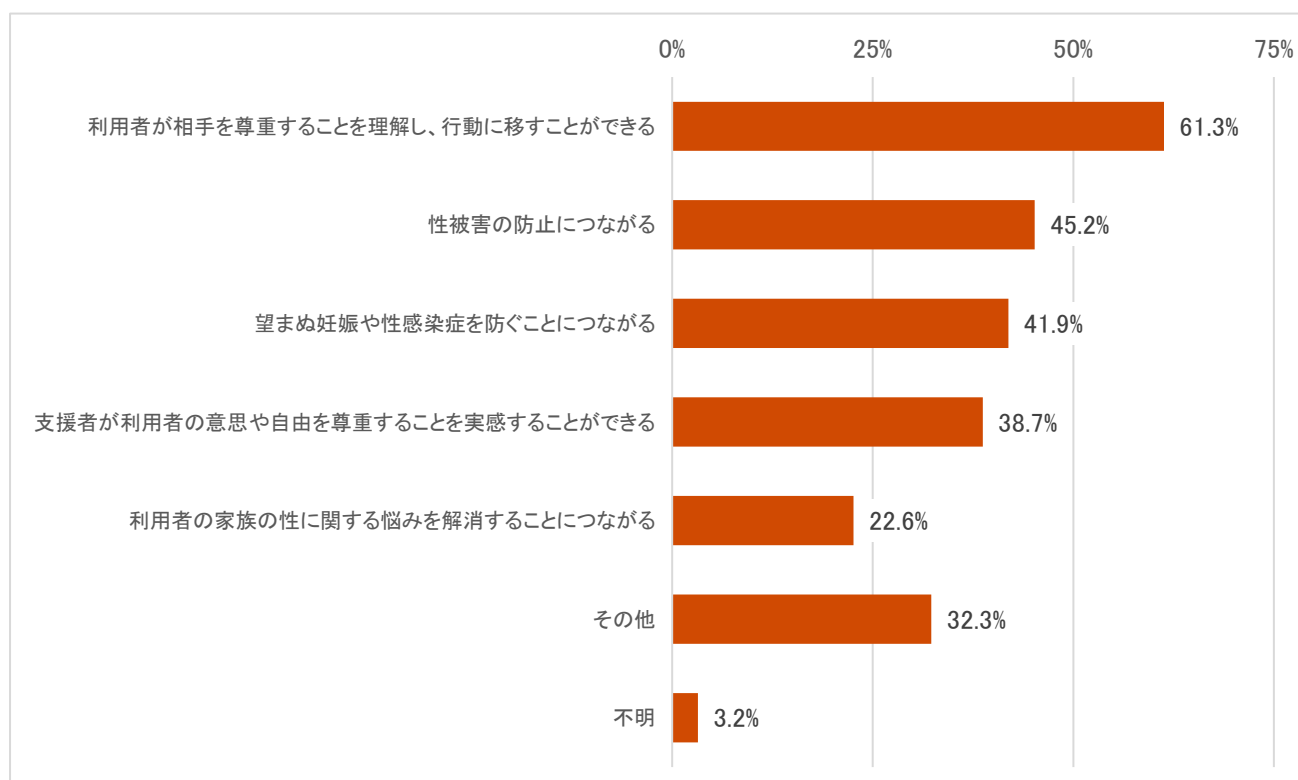
図表 58 性教育に関する支援はどの程度の利用者に実施していますか (n=31)



5. 性教育に関する支援を提供するメリット

性教育に関する支援を提供するメリットは、「利用者が相手を尊重することを理解し、行動に移すことができる」が最多の 61.3%だった。

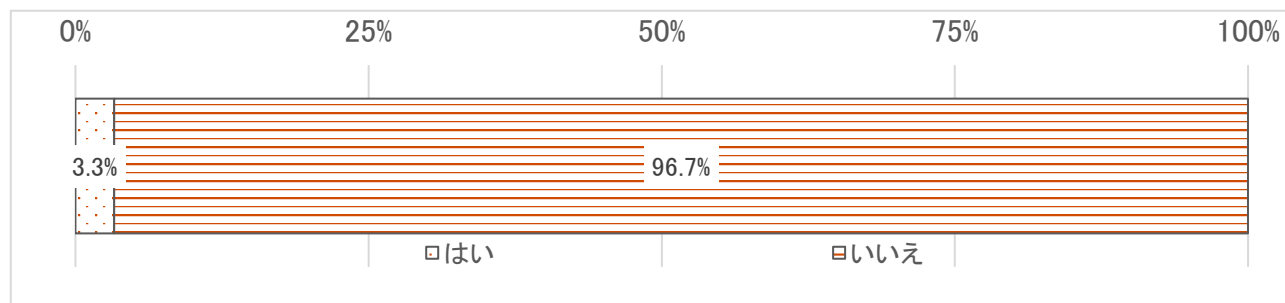
図表 59 支援を提供することによるメリットをお答えください (n=31、複数選択)



6. 出会いに関する支援

出会いに関する支援を実施しているかについて、「いいえ」が96.7%で、「はい」が3.3%だった。

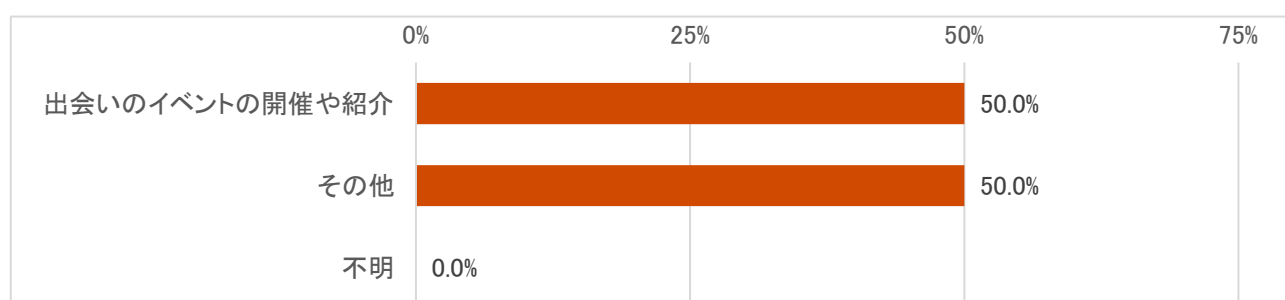
図表 60 貴事業所では利用者に出会いに関する支援を実施していますか (n=61)



8. 出会いに関する支援で実施しているもの

出会いに関する支援で実施しているものについて、「出会いのイベントの開催や紹介」が50.0%（回答数1）だった。なお、回答のない選択肢は省略している。

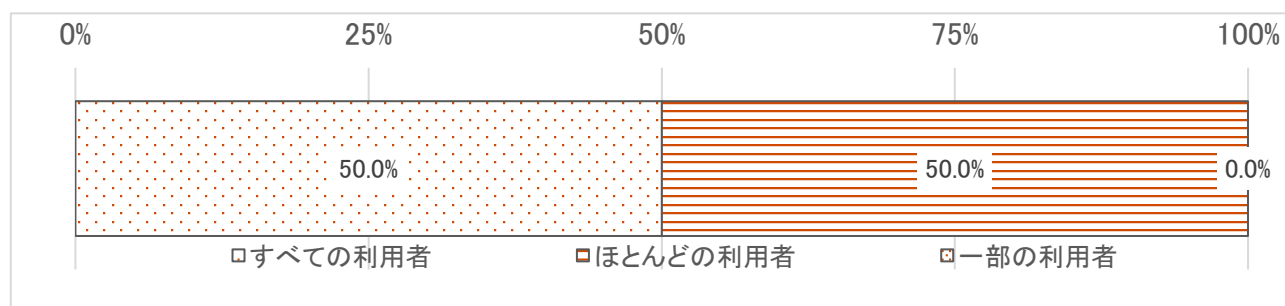
図表 61 どのような支援を実施していますか (n=2、複数選択)



9. 出会いに関する支援の対象

出会いに関する支援の対象について、「すべての利用者」が50.0%、「ほとんどの利用者」が50.0%だった。

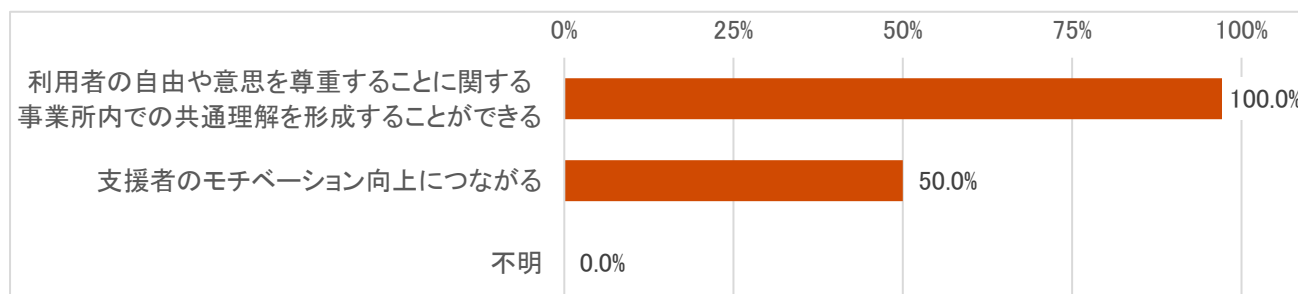
図表 62 出会いに関する支援はどの程度の利用者に実施していますか (n=2)



10. 出会いに関する支援を提供するメリット

出会いに関する支援を提供するメリットについて、「利用者の自由や意思を尊重することに関する事業所内での共通理解を形成することができる」が 100.0%で、「支援者のモチベーション向上に繋がる」が 50.0%だった。

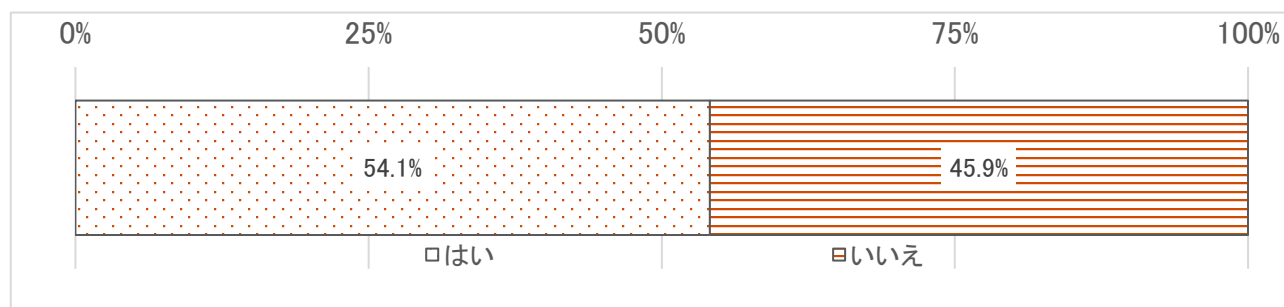
図表 63 支援を提供することによるメリットをお答えください (n=2、複数選択)



11. 恋愛に関する支援

恋愛に関する支援を実施しているかについて、「はい」が 54.1%で、「いいえ」が 45.9%だった。

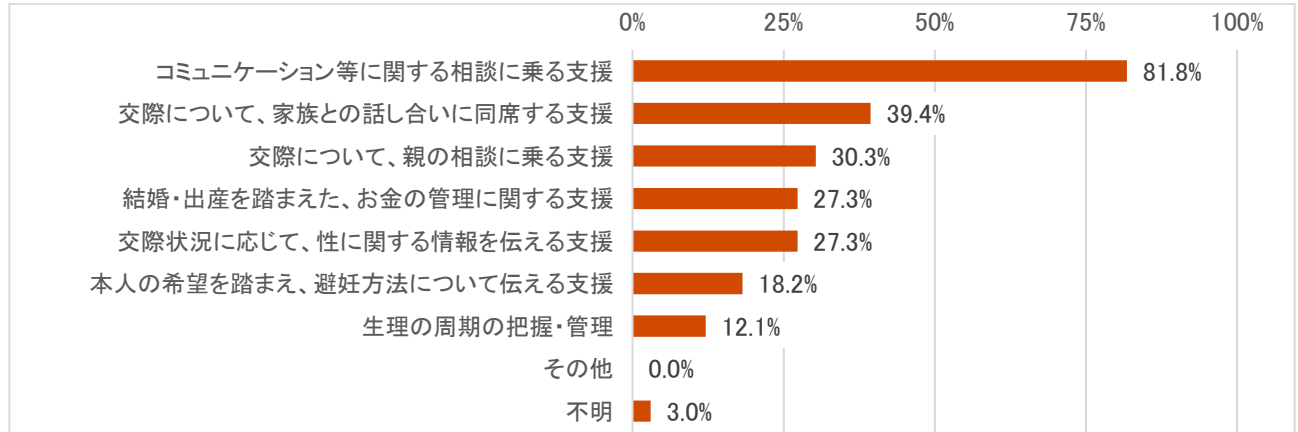
図表 64 貴事業所では利用者に恋愛に関する支援を実施していますか (n=61)



12. 恋愛に関する支援で実施しているもの

恋愛に関する支援の内容について、「コミュニケーション等に関する相談に乗る支援」が最多の 81.8%だった。

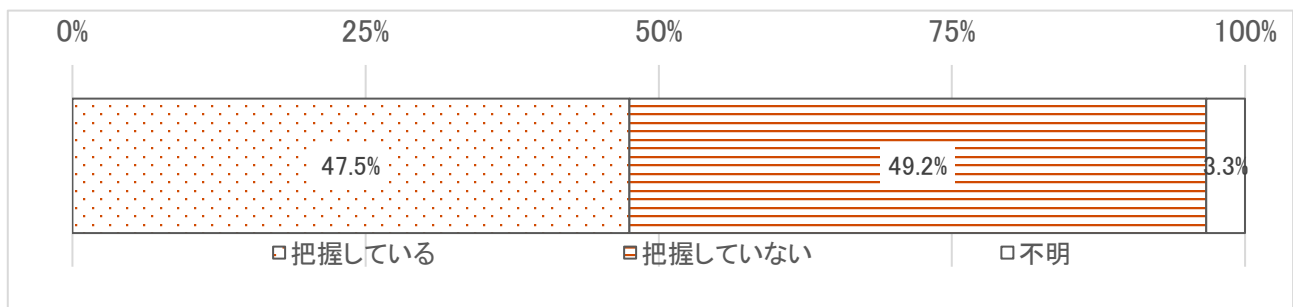
図表 65 どのような支援を実施していますか (n=33、複数選択)



13. 交際人数の把握状況

交際人数の把握状況について、「把握している」が 47.5%で、「把握していない」が 49.2%だった。

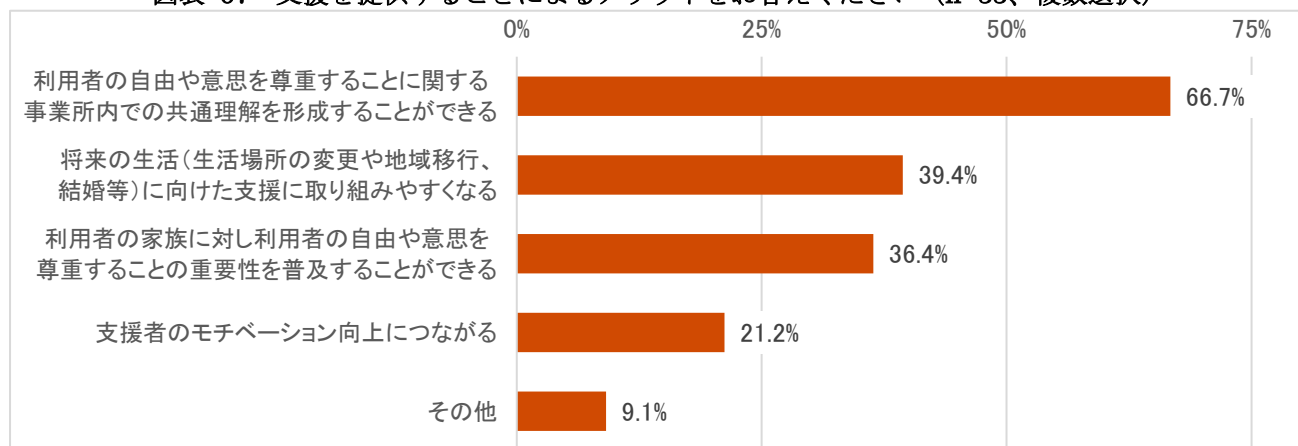
図表 66 貴事業所では、誰かと交際している人数はどれくらいいますか (n=61)



15. 恋愛に関する支援を提供するメリット

支援を提供することによるメリットについて、「利用者の自由や意思を尊重することに関する事業所内での共通理解を形成することができる」が最多の 66.7%だった。

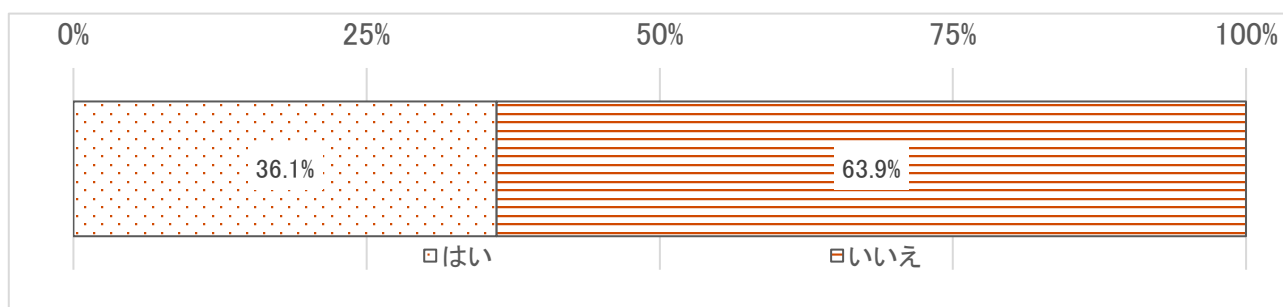
図表 67 支援を提供することによるメリットをお答えください (n=33、複数選択)



16. 結婚・妊娠・出産・子育てに関する支援

結婚・妊娠・出産・子育てに関する支援をしているかについて、「いいえ」が 63.9%で、「はい」が 36.1%だった。

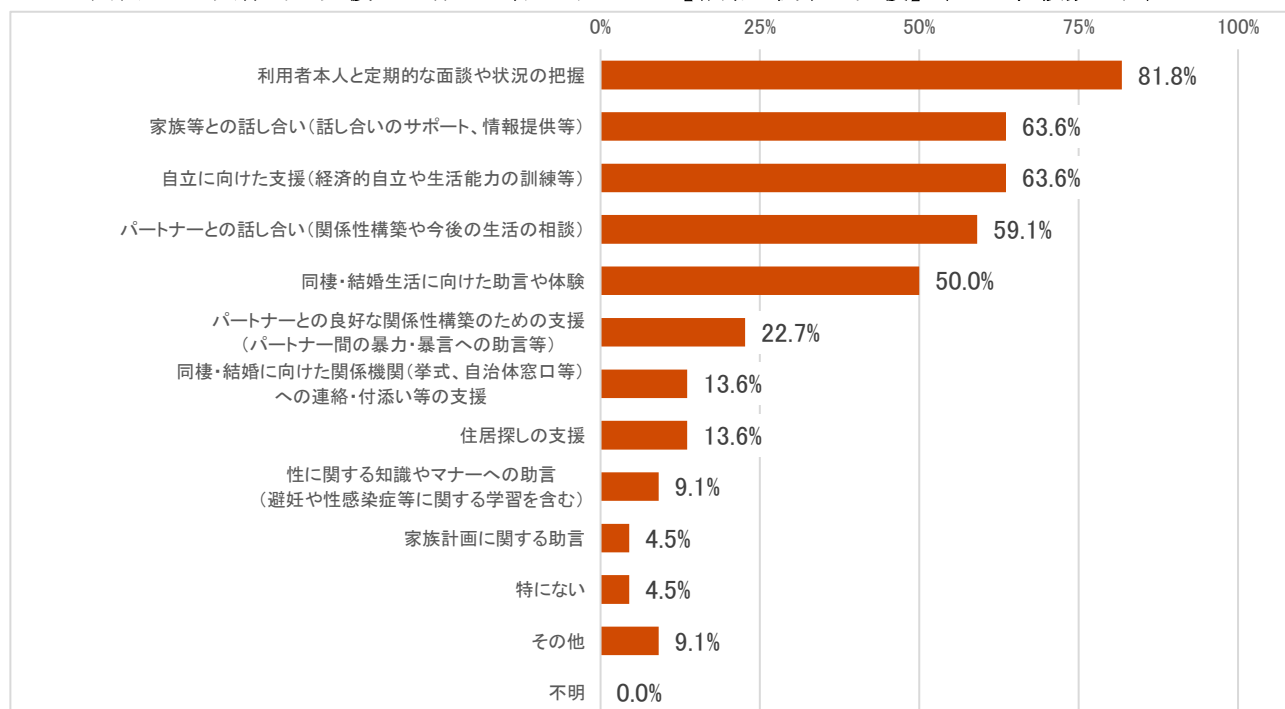
図表 68 貴事業所では利用者に結婚・妊娠・出産・子育てに関する支援を実施していますか (n=61)



17. 結婚に関する支援内容

結婚に関する支援内容について、「利用者本人と定期的な面談や状況の把握」が最多の81.8%だった。

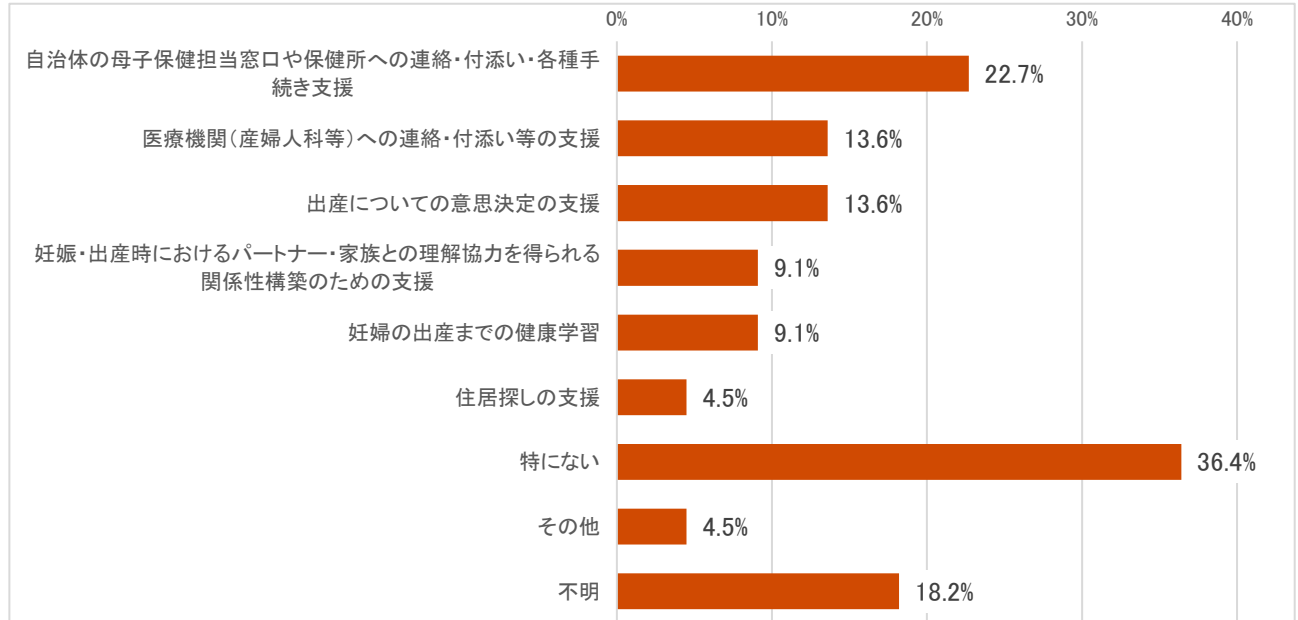
図表 69 具体的な支援の内容をお答えください【結婚に関する支援】(n=22、複数選択)



17. 妊娠・出産に関する支援内容

妊娠・出産に関する支援内容について、「特にない」が最多の 36.4%で、次点は「自治体の母子保健担当窓口や保健所への連絡・付添い・各種手続き支援」の 22.7%だった。

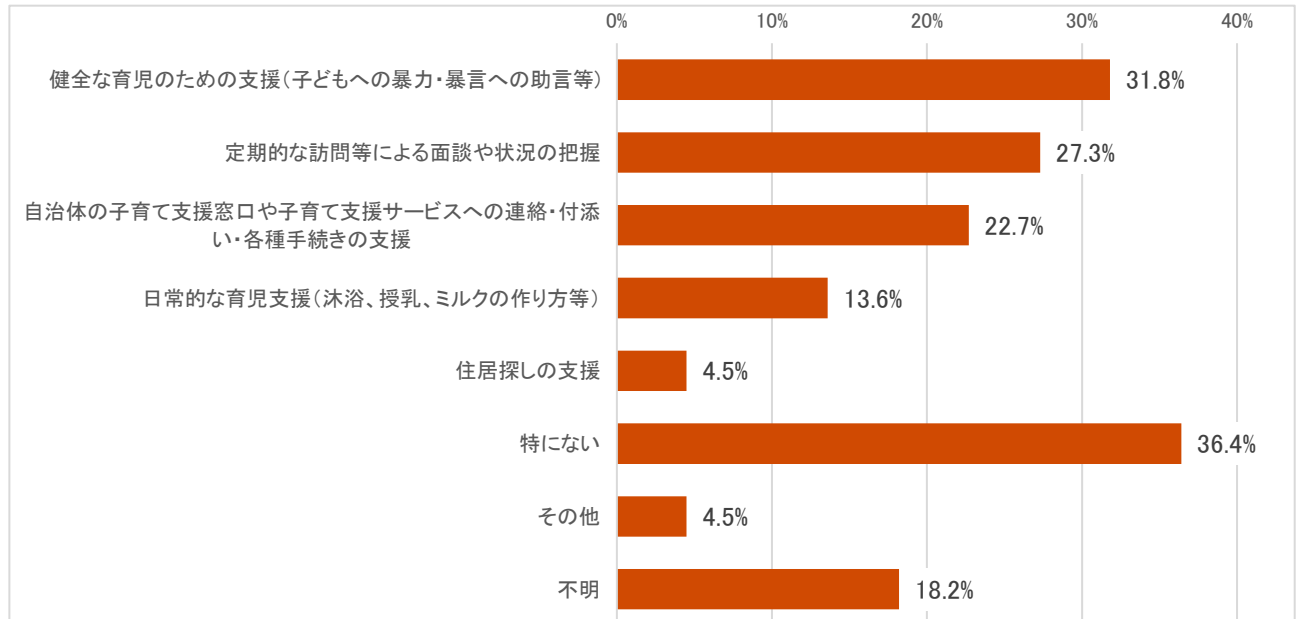
図表 70 具体的な支援の内容をお答えください【妊娠・出産に関する支援】(n=22、複数選択)



17. 子育てに関する支援内容

子育てに関する支援内容として、「特にない」が最多の 36.4%で、次点は「健全な育児のための支援(子どもへの暴力・暴言への助言等)」の 31.8%だった。

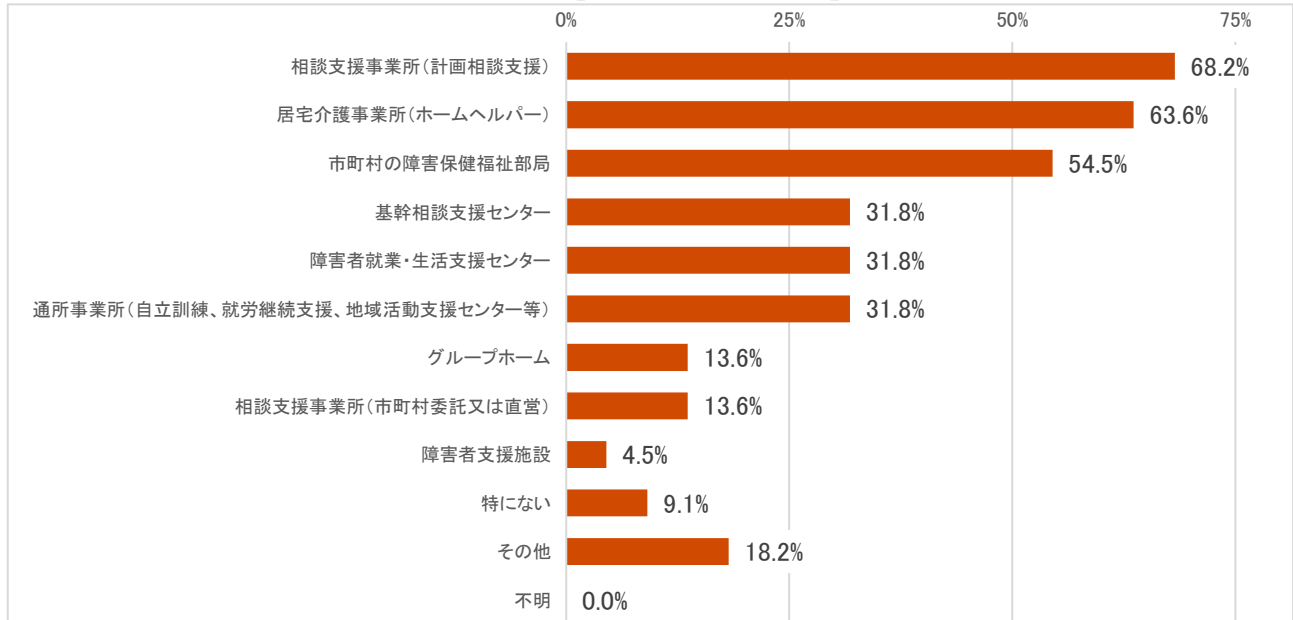
図表 71 具体的な支援の内容をお答えください【子育てに関する支援】(n=22、複数選択)



18. 連携している支援機関等【障害福祉サービス等】

結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等（障害福祉サービス等）は、「相談支援事業所（計画相談支援）」が 68.2%で、次点は「居宅介護事業所（ホームヘルパー）」の 63.6%だった。

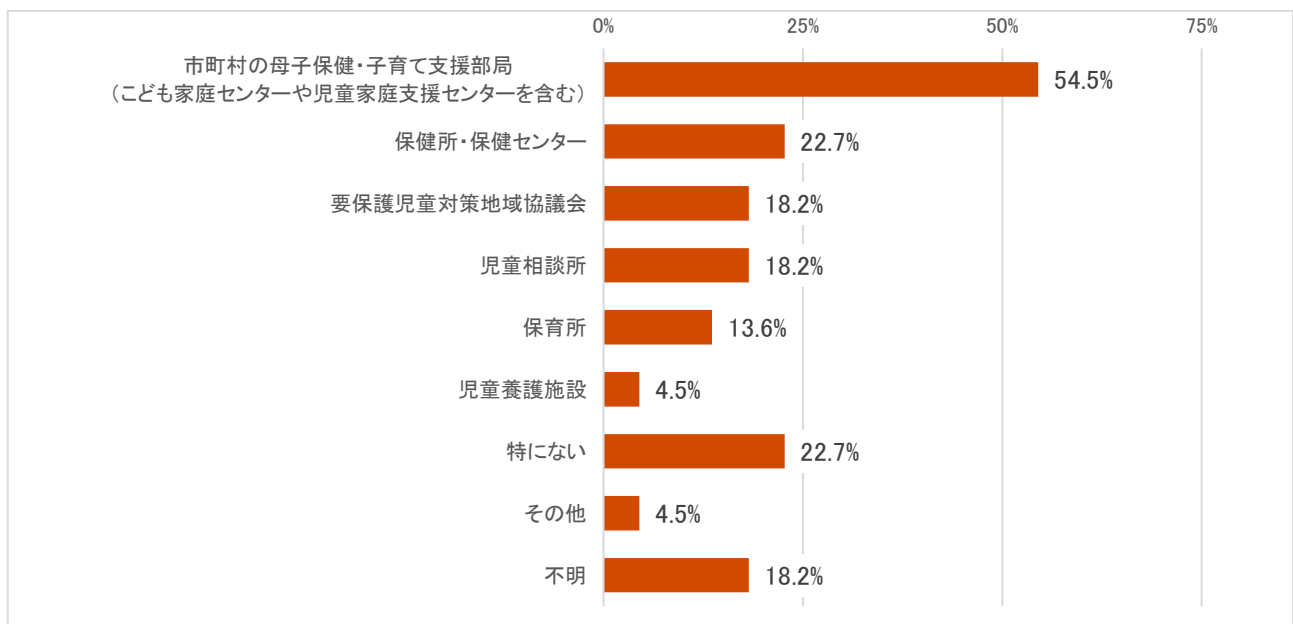
図表 72 結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等をお答えください【障害福祉サービス等】（n=22、複数選択）



18. 連携している支援機関等【母子保健・児童福祉】

結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等（母子保健・児童福祉）は、「市町村の母子保健・子育て支援部局」が最多の 54.5%だった。

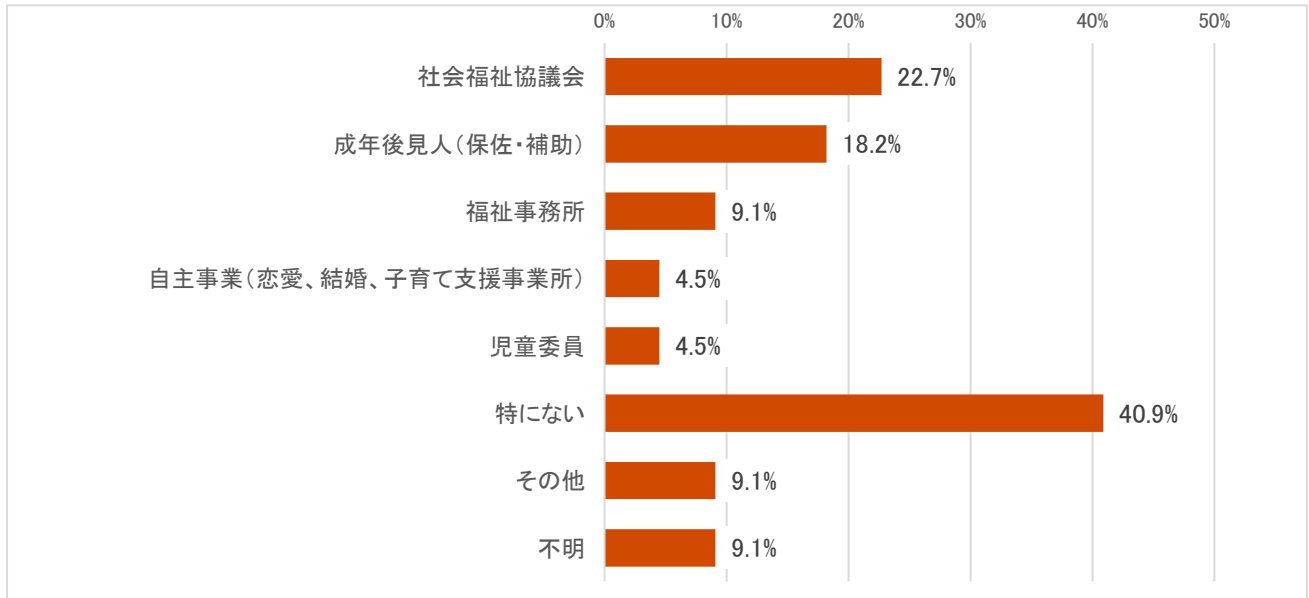
図表 73 結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等をお答えください【母子保健・児童福祉】（n=22、複数選択）



18. 連携している支援機関等【その他】

結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等（その他）は、「特にない」が最多の 40.9%、「社会福祉協議会」が次点の 22.7%だった。

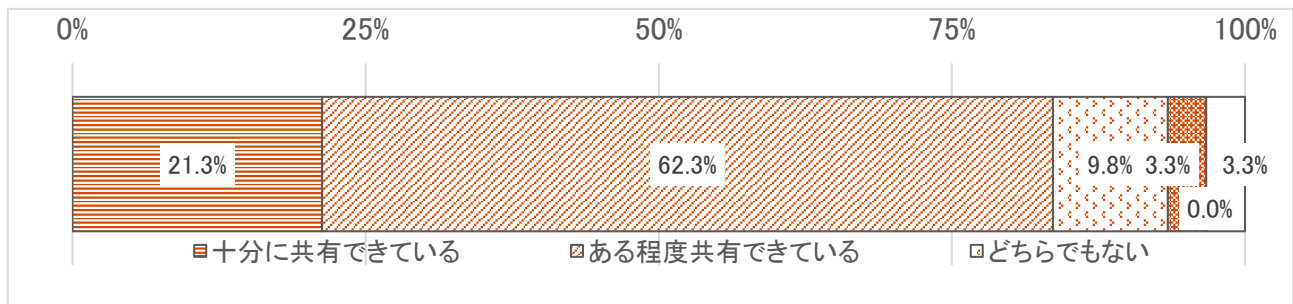
図表 74 結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等をお答えください【その他】（n=22、複数選択）



20. 利用者の自由や意思を尊重するという認識の共有

利用者の自由や意思を尊重するという認識の共有について、「ある程度共有できている」が最多の 62.3%、次点が「十分に共有できている」の 21.3%だった。

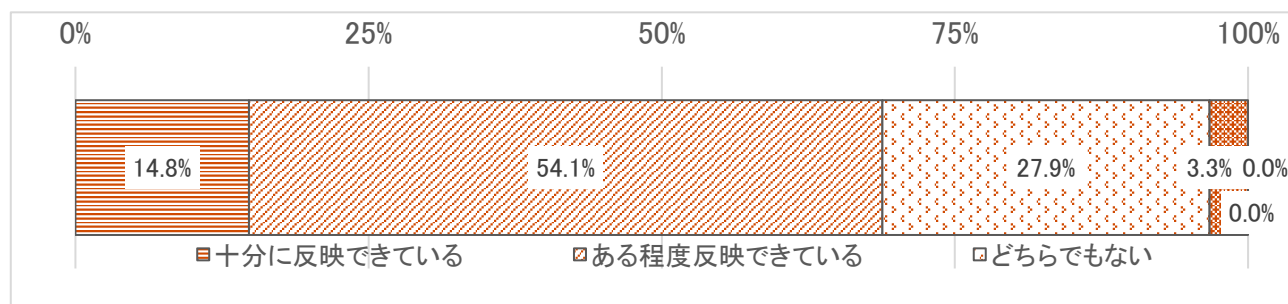
図表 75 貴事業所では、利用者の自由や意思を尊重するという認識が十分に共有できていますか（n=61）



21. 利用者の自由や意思を尊重するという認識の支援への反映

利用者の自由や意思を尊重することが支援に反映できているかについて、「ある程度反映できている」が最多の 54.1%、次点が「どちらでもない」の 27.9%だった。

図表 76 貴事業所では、利用者の自由や意思を尊重することが支援に十分に反映できていますか (n=61)

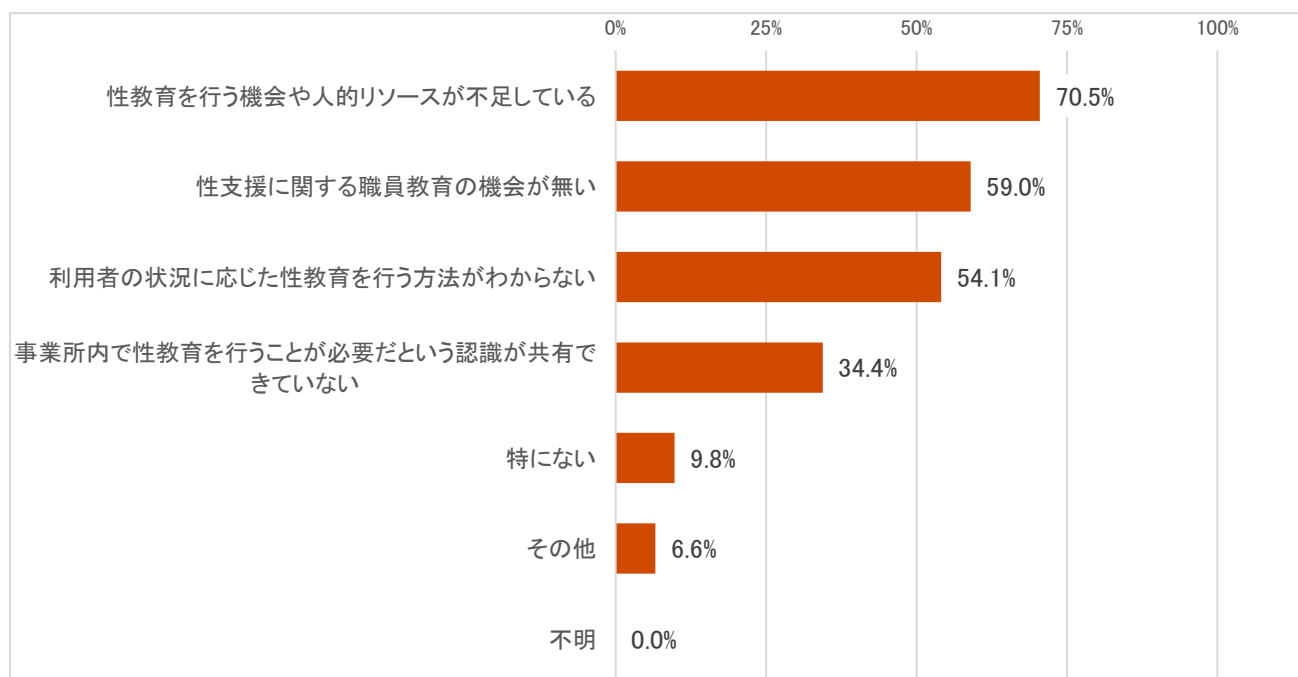


Ⅲ. 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育ての支援の課題

1. 性教育に関する支援の課題

性教育に関する支援の課題について、「性教育を行う機会や人的リソースが不足している」が最多の 70.5%だった。

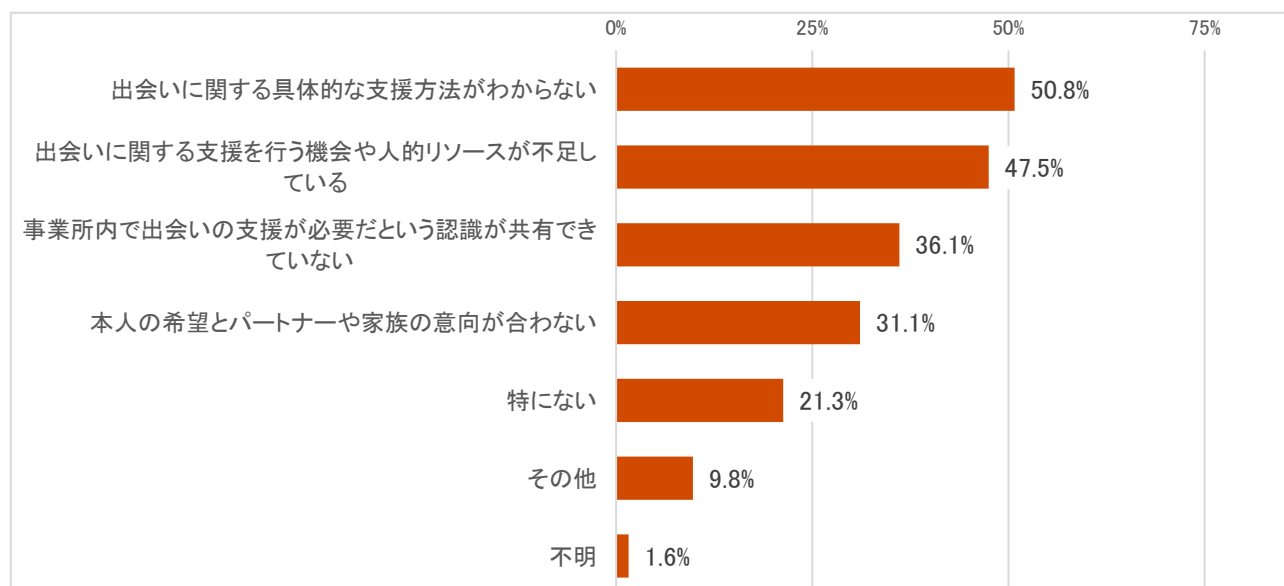
図表 77 性教育に関する支援の課題をお答えください (n=61、複数選択)



2. 出会いに関する支援の課題

出会いに関する支援の課題について、「出会いに関する具体的な支援方法がわからない」が最多の 50.8%、次点が「出会いに関する支援を行う機会や人的リソースが不足している」の 47.5%だった。

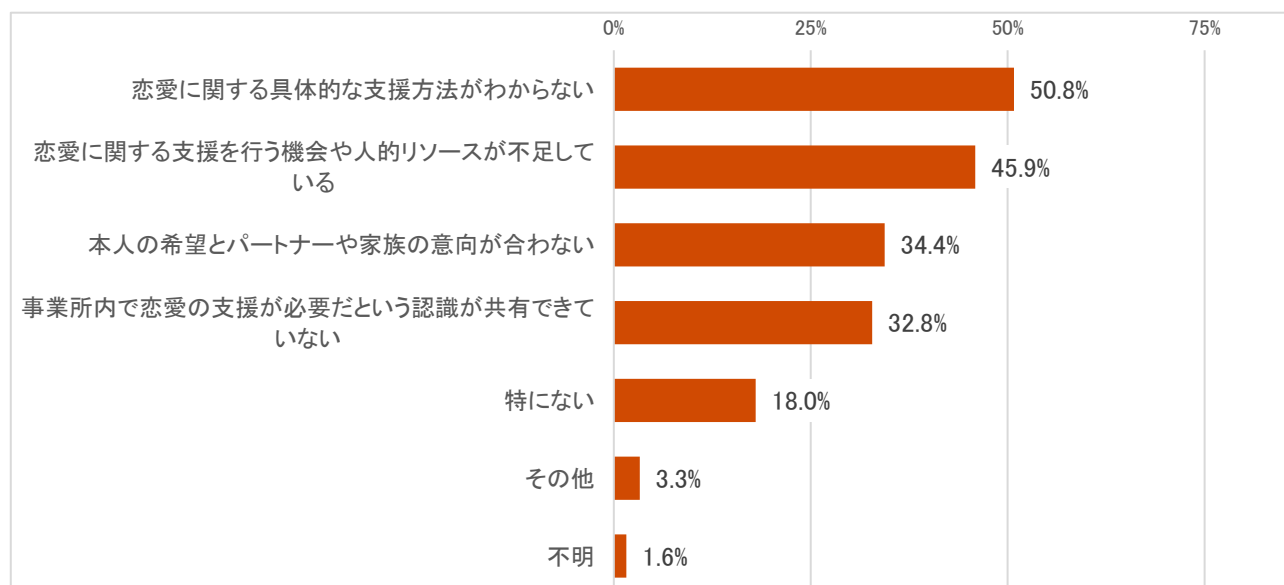
図表 78 出会いに関する支援の課題をお答えください (n=61、複数選択)



3. 恋愛に関する支援の課題

恋愛に関する支援の課題について、「恋愛に関する具体的な支援方法がわからない」が最多の 50.8%、次点が「恋愛に関する支援を行う機会や人的リソースが不足している」の 45.9%だった。

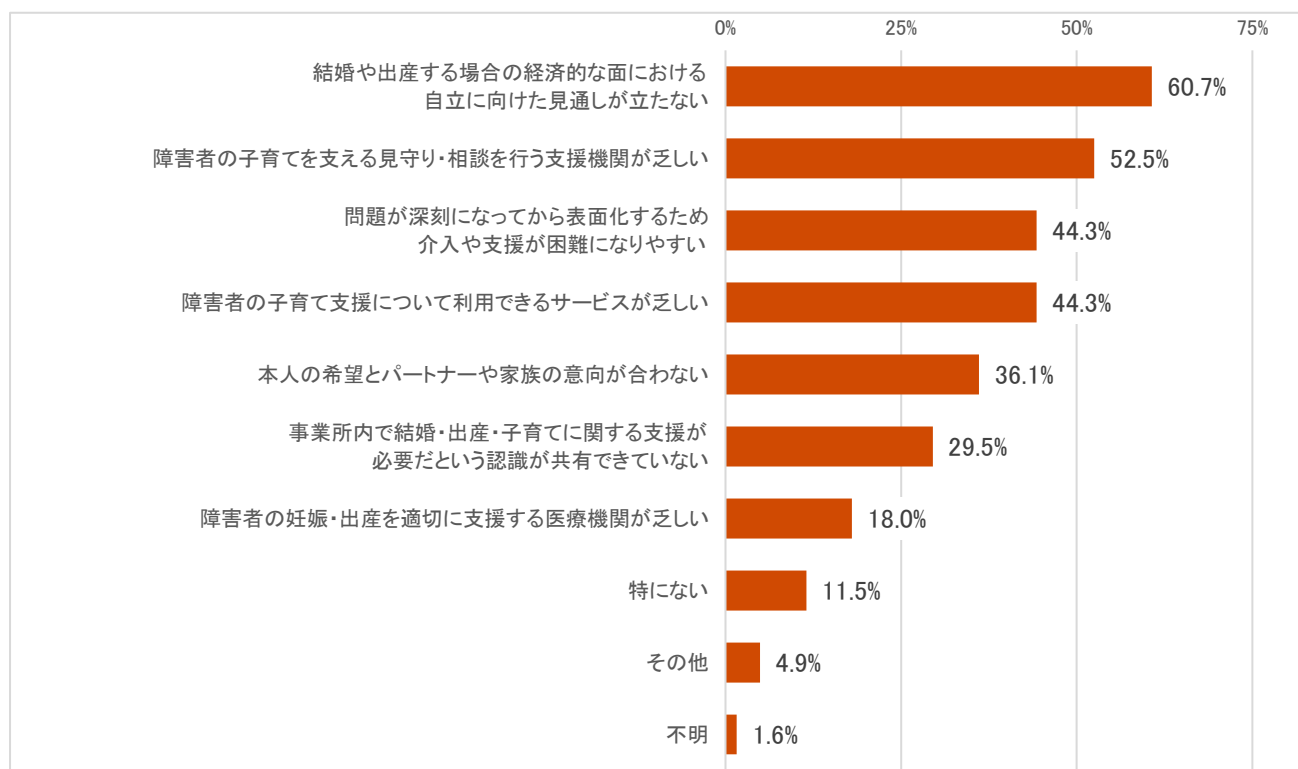
図表 79 恋愛に関する支援の課題をお答えください (n=61、複数選択)



4. 結婚・出産・子育てに関する支援の課題

結婚・出産・子育てに関する支援の課題について、「結婚や出産する場合の経済的な面における自立に向けた見通しが立たない」が最多の60.7%、次点が「障害者の子育てを支える見守り・相談を行う支援機関が乏しい」の52.5%だった。

図表 80 結婚・出産・子育てに関する支援の課題をお答えください（n=61、複数選択）



事業所の提供サービス×性教育に関する支援の実施

事業所の提供サービスごとに、性教育に関する支援の実施を集計したところ、計画相談支援の「はい」が34.6%と、他の提供サービスより「はい」の割合が低い結果であった。

図表 81 事業所の提供サービス×性教育に関する支援の実施 (n=61)

		合計	はい	いいえ	不明	非該当
	全体	61	31	30	0	3
		100.0	50.8	49.2	0.0	
I Q1. 事業所の提供サービス	居宅介護	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	
	短期入所（併設型）※空床併設型	1	0	1	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	
	生活介護	13	9	4	0	0
		100.0	69.2	30.8	0.0	
	施設入所支援	5	3	2	0	1
		100.0	60.0	40.0	0.0	
	共同生活援助（介護サービス包括	11	7	4	0	1
		100.0	63.6	36.4	0.0	
	自立訓練（宿泊型自立訓練）	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	
	就労継続支援（B型）	2	0	2	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	
	就労定着支援	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	
	計画相談支援	26	9	17	0	1
		100.0	34.6	65.4	0.0	

事業所の提供サービス×性教育の実施方法

事業所の提供サービスごとに、性教育の実施方法を集計したところ、「利用者への性教育に関する個別相談」が施設入所支援以外のいずれの提供サービスにおいても、回答が6割以上と最多であった。

図表 82 事業所の提供サービス×性教育の実施方法 (n=31、複数選択)

		合計	利用者への性教育に関するプログラム・研修・説明会等の開催	利用者の家族への性教育に関するプログラム・研修・説明会等の開催	利用者への性教育に関する個別相談	利用者の家族への性教育に関する個別相談	その他	不明	非該当
	全体	31 100.0	6 19.4	3 9.7	25 80.6	9 29.0	10 32.3	0 0.0	33
I Q1. 事業所の提供サービス	居宅介護	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
	生活介護	9 100.0	0 0.0	0 0.0	8 88.9	1 11.1	6 66.7	0 0.0	4
	施設入所支援	3 100.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	3
	共同生活援助（介護サービス包括）	7 100.0	1 14.3	1 14.3	7 100.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	5
	自立訓練（宿泊型自立訓練）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
	就労定着支援	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0
	計画相談支援	9 100.0	1 11.1	1 11.1	6 66.7	5 55.6	2 22.2	0 0.0	18

事業所の提供サービス×性教育の実施方法

事業所の提供サービスごとに、性教育の実施内容を集計したところ、「人と人との適切な距離感（パーソナルスペース）について」及び「プライベートゾーン（他人に見せない、触らせない身体の箇所）について」がいずれの提供サービスにおいても、多い結果となった。

図表 83 事業所の提供サービス×性教育の実施内容（n=31、複数選択）

		合計	人と人との適切な距離感（パーソナルスペース）について	マスターベーションの方法や気をつけるべきことについて	プライベートゾーン（他人に見せない、触らせない身体の箇所）について	射精、精通、夢精について	生理について	ジェンダーやセクシュアリティについて	避妊の重要性や方法について	性感染症について	セックスについて	その他	不明	非該当
	全体	31	27	9	22	9	21	5	11	8	11	5	0	33
		100.0	87.1	29.0	71.0	29.0	67.7	16.1	35.5	25.8	35.5	16.1	0.0	
I Q1. 事業所の提供サービス	居宅介護	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	
	生活介護	9	8	3	7	6	9	1	1	0	1	0	0	4
		100.0	88.9	33.3	77.8	66.7	100.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	
	施設入所支援	3	3	1	3	1	3	1	1	1	0	0	0	3
		100.0	100.0	33.3	100.0	33.3	100.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	
	共同生活援助（介護サービス包括自立訓練（宿泊型自立訓練）	7	5	3	4	0	4	0	2	1	3	1	0	5
		100.0	71.4	42.9	57.1	0.0	57.1	0.0	28.6	14.3	42.9	14.3	0.0	
	就労定着支援	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
	計画相談支援	9	8	1	5	1	4	1	5	4	4	2	0	18
		100.0	88.9	11.1	55.6	11.1	44.4	11.1	55.6	44.4	44.4	22.2	0.0	

事業所の提供サービス×恋愛に関する支援の実施有無

事業所の提供サービスごとに、恋愛に関する支援の実施有無を集計したところ、有意な差はみられなかった。

図表 84 事業所の提供サービス×恋愛に関する支援の実施有無 (n=61)

		合計	はい	いいえ	不明	非該当
	全体	61	33	28	0	3
		100.0	54.1	45.9	0.0	
I Q1. 事業所の提供サービス	居宅介護	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	
	短期入所（併設型）※空床併設型	1	0	1	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	
	生活介護	13	5	8	0	0
		100.0	38.5	61.5	0.0	
	施設入所支援	5	2	3	0	1
		100.0	40.0	60.0	0.0	
	共同生活援助（介護サービス包括）	11	7	4	0	1
		100.0	63.6	36.4	0.0	
	自立訓練（宿泊型自立訓練）	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	
	就労継続支援（B型）	2	1	1	0	0
		100.0	50.0	50.0	0.0	
	就労定着支援	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	
	計画相談支援	26	15	11	0	1
		100.0	57.7	42.3	0.0	

事業所の提供サービス×恋愛に関する支援の内容

事業所の提供サービスごとに、恋愛に関する支援の内容を集計したところ、いずれの提供サービスにおいても「コミュニケーション等に関する相談に乗る支援」が最多という結果であった。

図表 85 事業所の提供サービス×恋愛に関する支援の内容 (n=61、複数選択)

		合計	コミュニケーション等に関する相談に乗る支援	結婚・出産を踏まえた、お金の管理に関する支援	本人の希望を踏まえ、避妊方法について伝える支援	交際状況に応じて、性に関する情報を伝える支援	生理の周期の把握・管理	交際について、家族との話し合いに同席する支援	交際について、親の相談に乗る支援	その他	不明	非該当
	全体	33 100.0	27 81.8	9 27.3	6 18.2	9 27.3	4 12.1	13 39.4	10 30.3	0 0.0	1 3.0	31
I Q1. 事業所の提供サービス	居宅介護	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0
	生活介護	5 100.0	5 100.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	8
	施設入所支援	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4
	共同生活援助（介護サービス包括	7 100.0	7 100.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	5
	自立訓練（宿泊型自立訓練）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
	就労継続支援（B型）	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1
	就労定着支援	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0
	計画相談支援	15 100.0	9 60.0	6 40.0	5 33.3	2 13.3	2 13.3	9 60.0	6 40.0	0 0.0	1 6.7	12

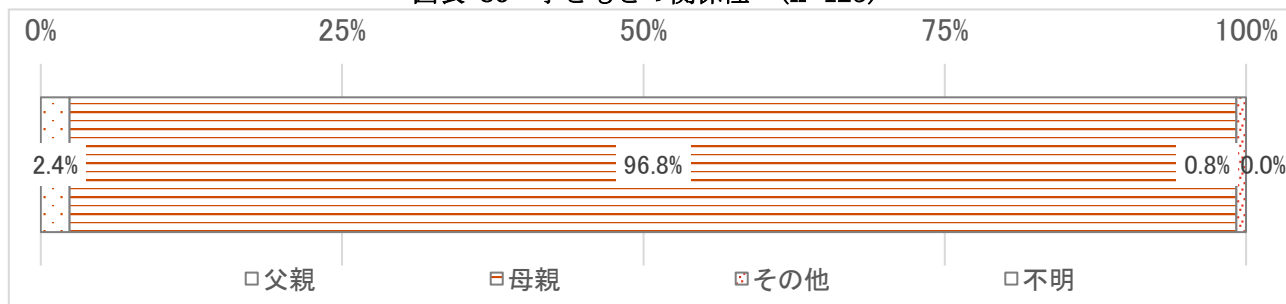
(4) 知的障害者を子に持つ親へのアンケート調査結果

I. 基本情報について

1. 子どもとの関係性

子どもとの関係性について、「母」が最多の 96.8%で、「父」は 2.4%だった。

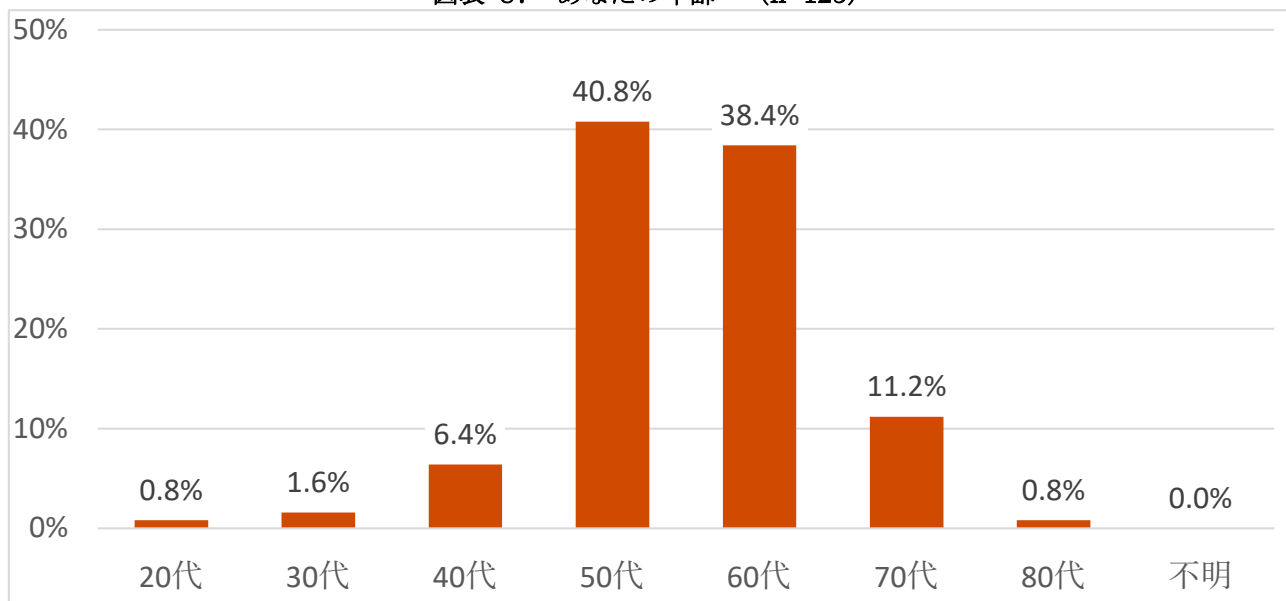
図表 86 子どもとの関係性 (n=125)



2. 年齢

回答者の年齢について、50～70代が多く、90.4%だった。

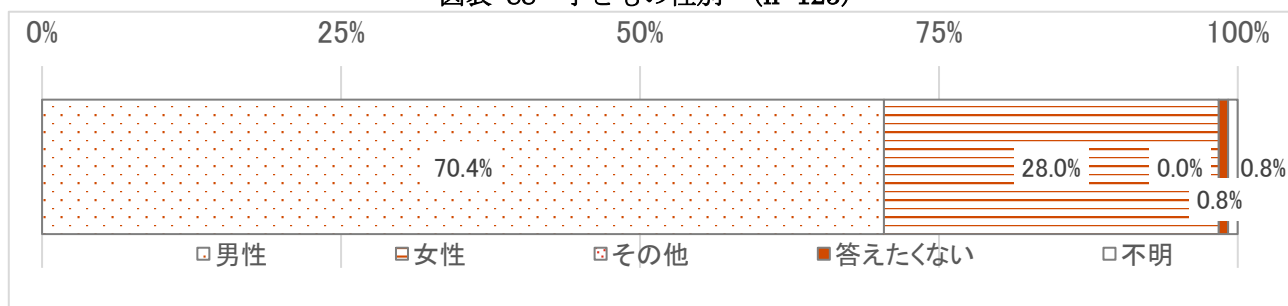
図表 87 あなたの年齢 (n=125)



3. 子どもの性別

子どもの性別について、「男性」が 70.4%、「女性」が 28.0%だった。

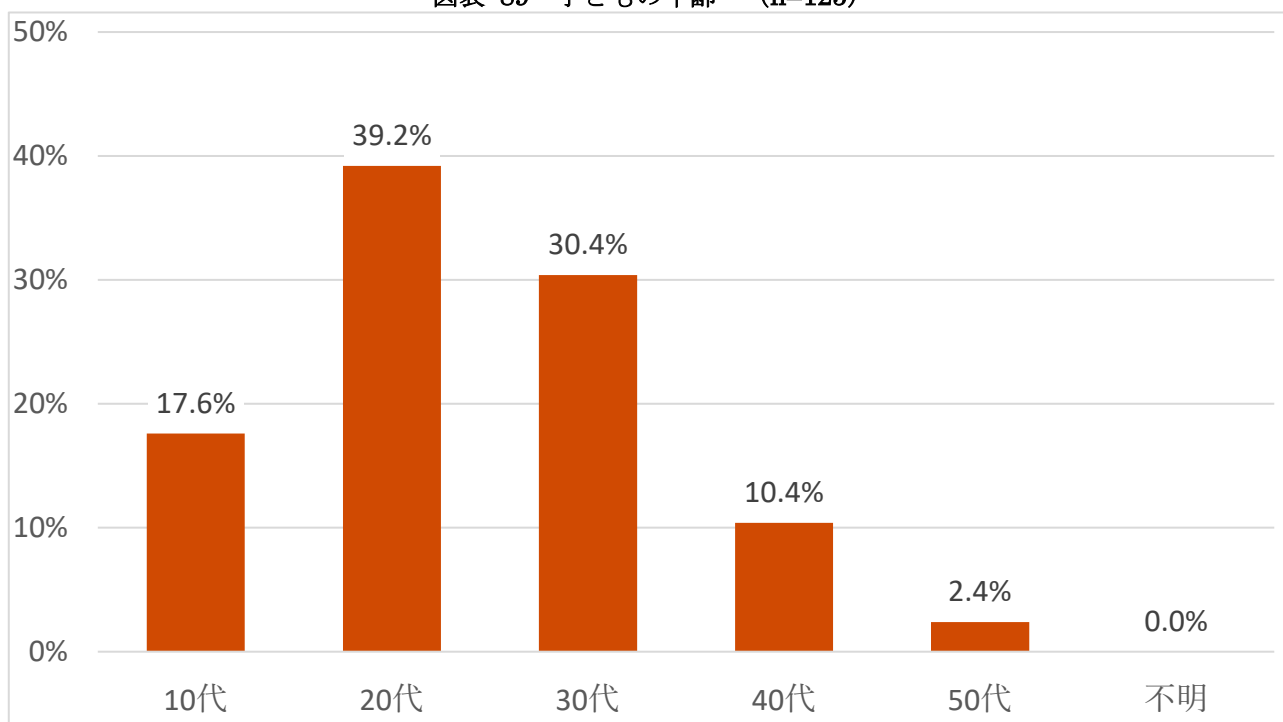
図表 88 子どもの性別 (n=125)



4. 子どもの年齢

子どもの年齢について、10～30代が多く、87.2%だった。

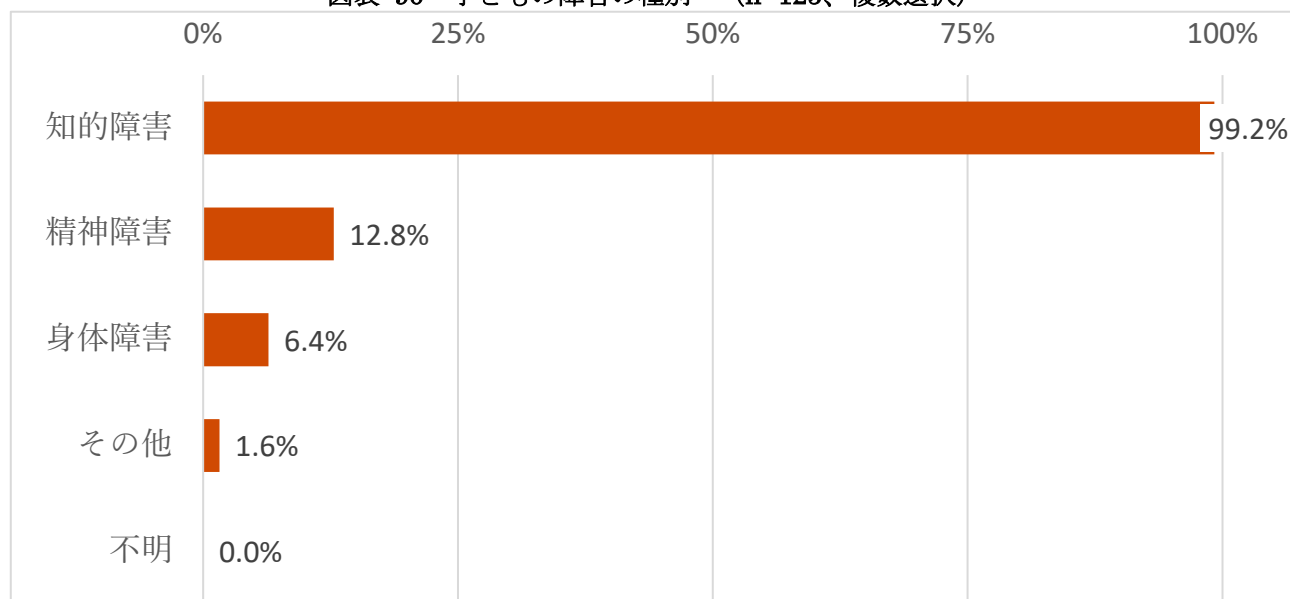
図表 89 子どもの年齢 (n=125)



5. 子どもの障害の種類

子どもの障害の種類について、「知的障害」が最多の 99.2%だった。

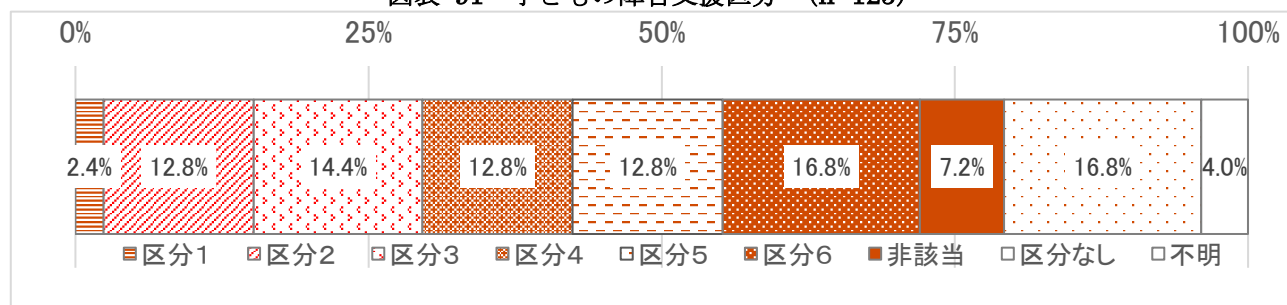
図表 90 子どもの障害の種別 (n=125、複数選択)



6. 子どもの障害支援区分

子どもの障害支援区分について、「区分なし」「区分 6」が最多で 16.8%だった。区分 1 ～ 3 で 29.6%、区分 4 以上は 42.4%だった。

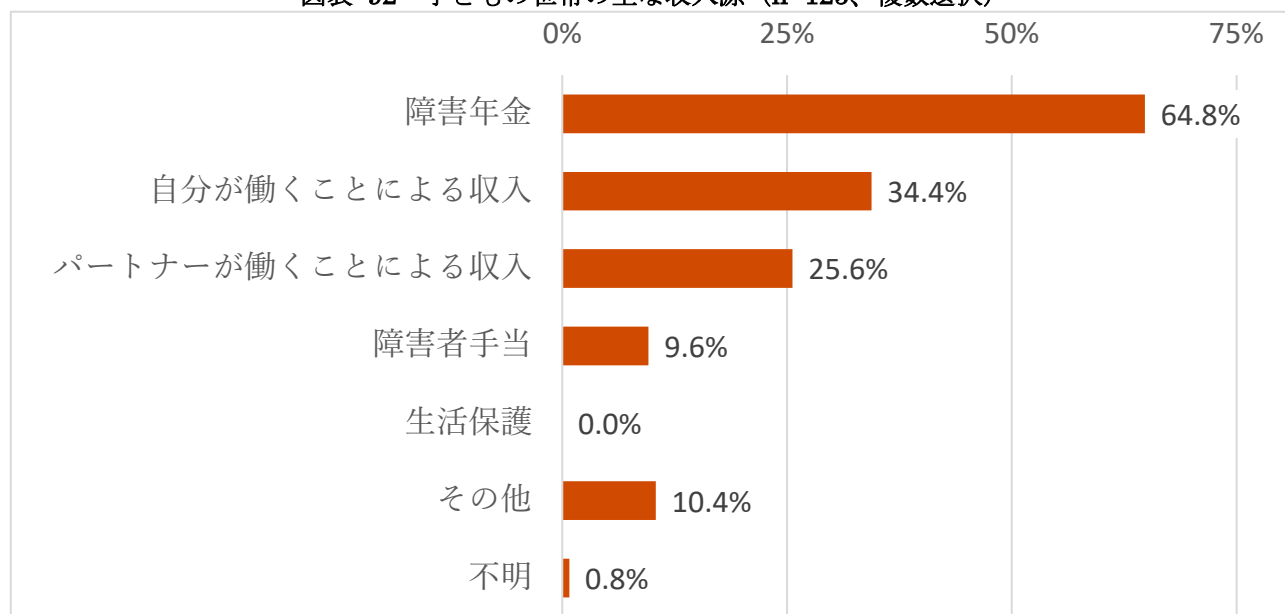
図表 91 子どもの障害支援区分 (n=125)



7. 子ども世帯の主な収入源

子どもの世帯の主な収入源について、「障害年金」が最多の 64.8%だった。

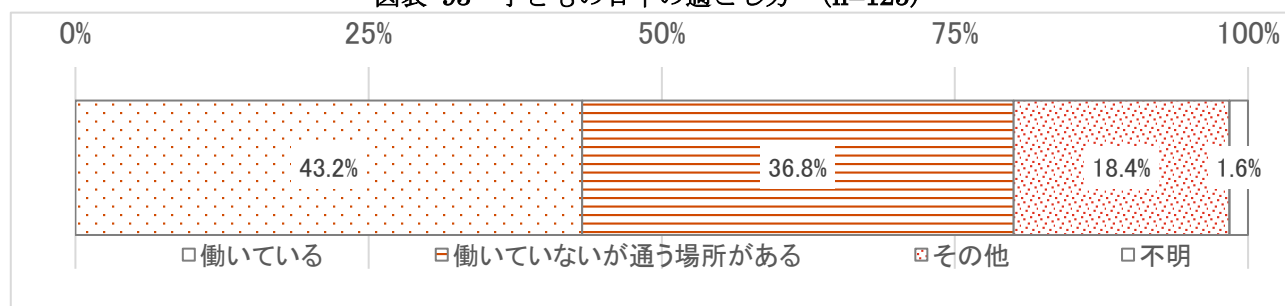
図表 92 子ども世帯の主な収入源 (n=125、複数選択)



8. 子どもの日中の過ごし方

子どもの日中の過ごし方について、「働いている」が最多の 43.2%で、次いで「働いていないが通う場所がある」が 36.8%だった。

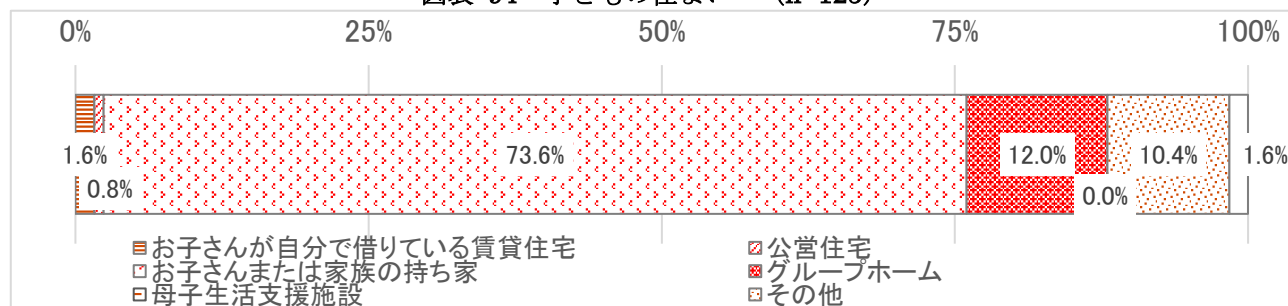
図表 93 子どもの日中の過ごし方 (n=125)



9. 子どもの住居の種類

子どもの住居の種類について、「子どもまたは家族の持ち家」が最多の73.6%で、次いで「グループホーム」が12.0%だった。

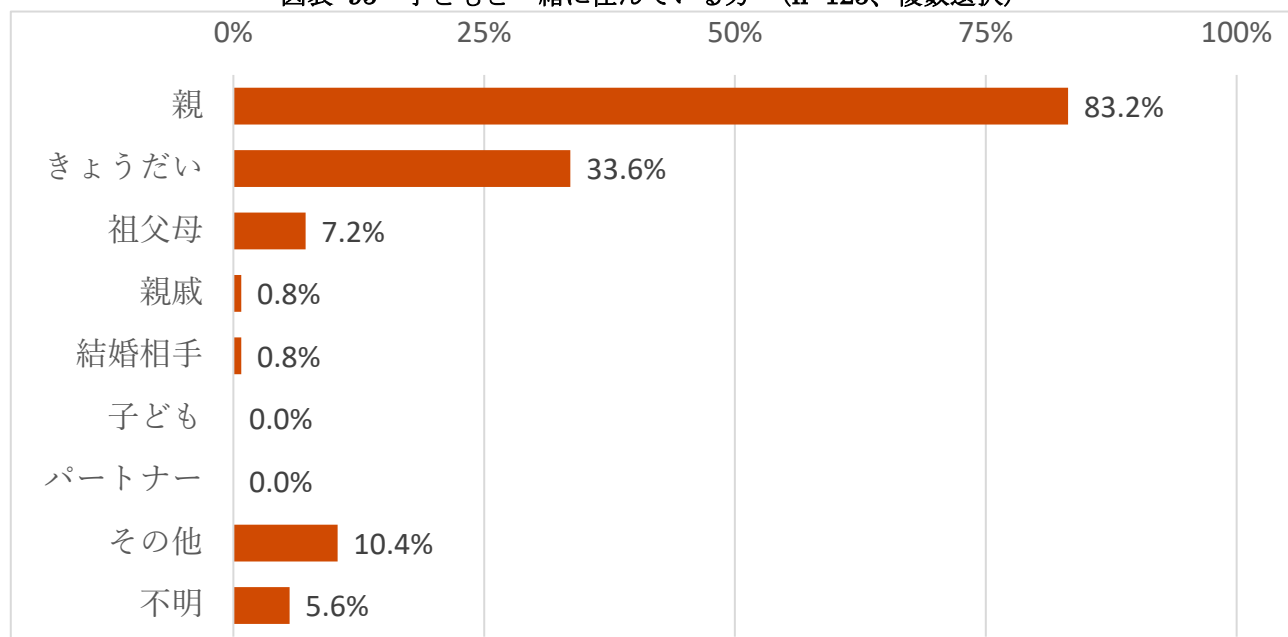
図表 94 子どもの住まい (n=125)



10. 子どもの同居人

子どもの同居人について、「親」が最多の83.2%で、次いで「きょうだい」が33.6%だった。

図表 95 子どもと一緒に住んでいる方 (n=125、複数選択)

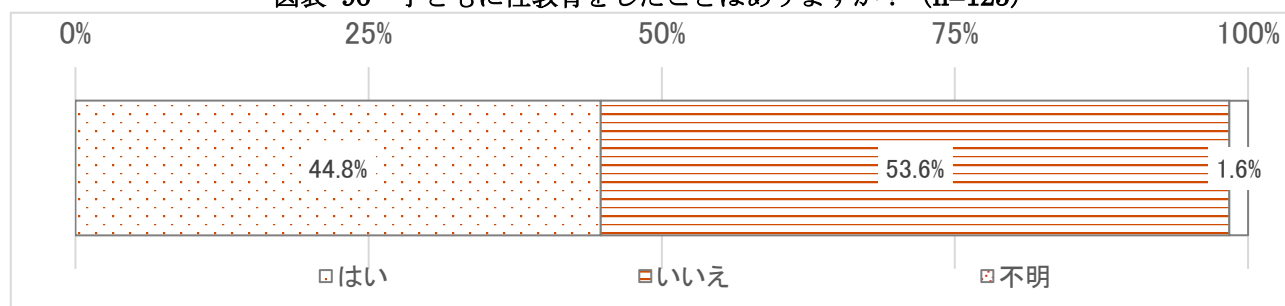


Ⅱ. 基本情報について

11. 子どもに性教育をした経験

子どもに性教育をした経験について、「いいえ」が最多の 53.6%で、次いで「はい」が 44.8%だった。

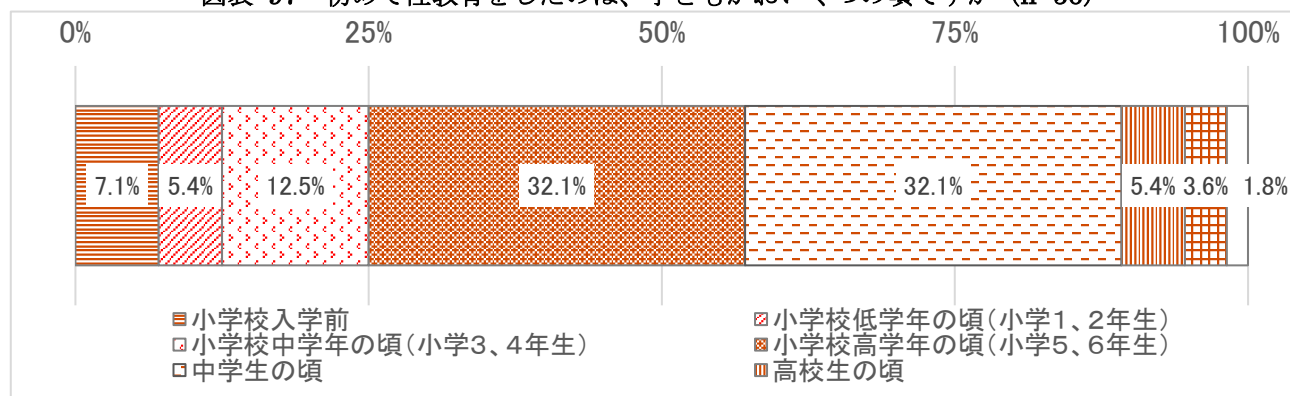
図表 96 子どもに性教育をしたことはありますか？ (n=125)



12. 子どもにはじめて性教育をした年齢

子どもにはじめて性教育をした年齢について、「小学校高学年の頃（小学5、6年生）」「中学生の頃」が最多の 32.1%だった。

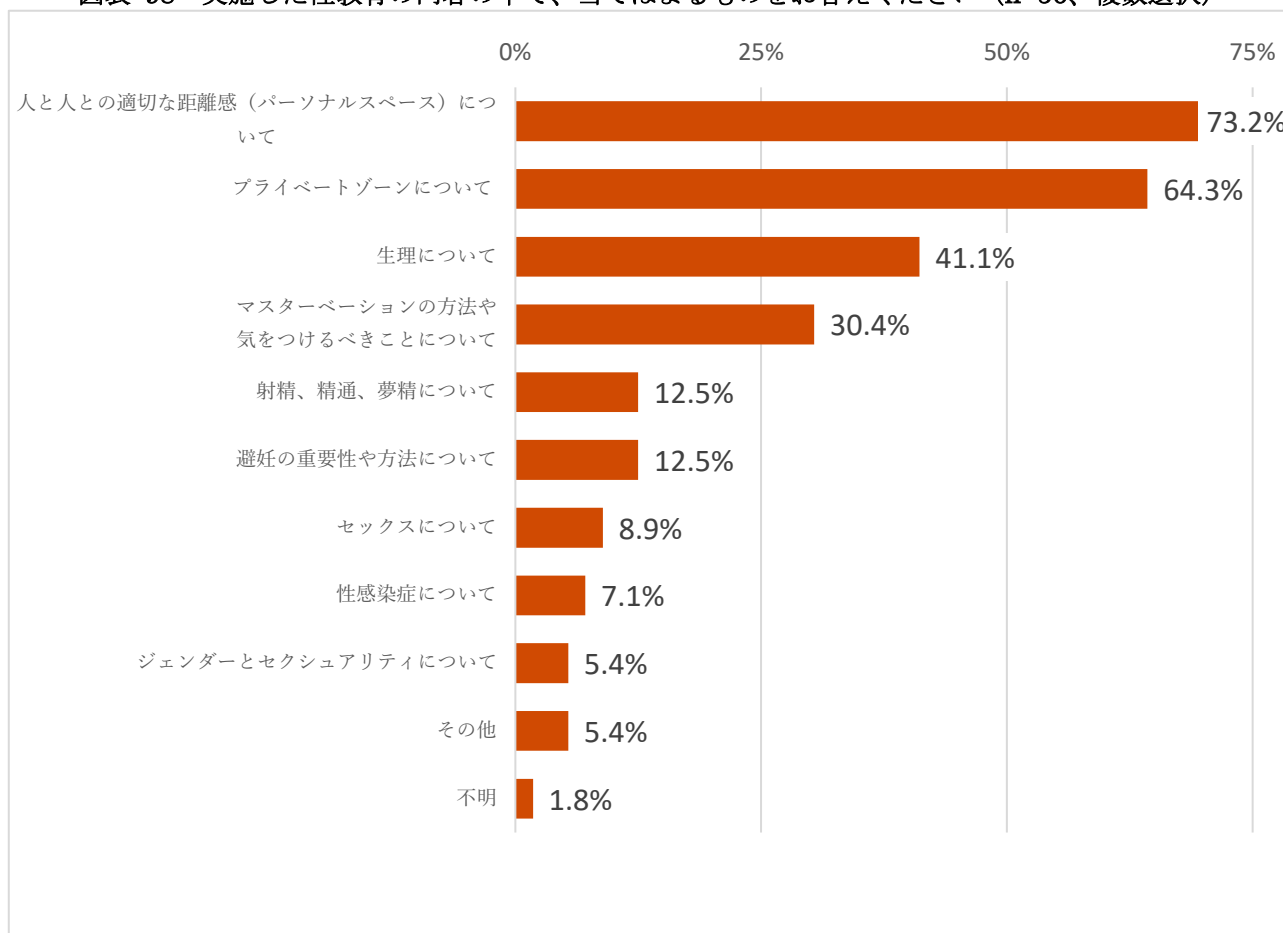
図表 97 初めて性教育をしたのは、子どもがおいくつの頃ですか (n=56)



13. 性教育の内容

性教育の内容について、「人と人との適切な距離感（パーソナルスペース）について」が73.2%、次いで「プライベートゾーンについて」が64.3%だった。

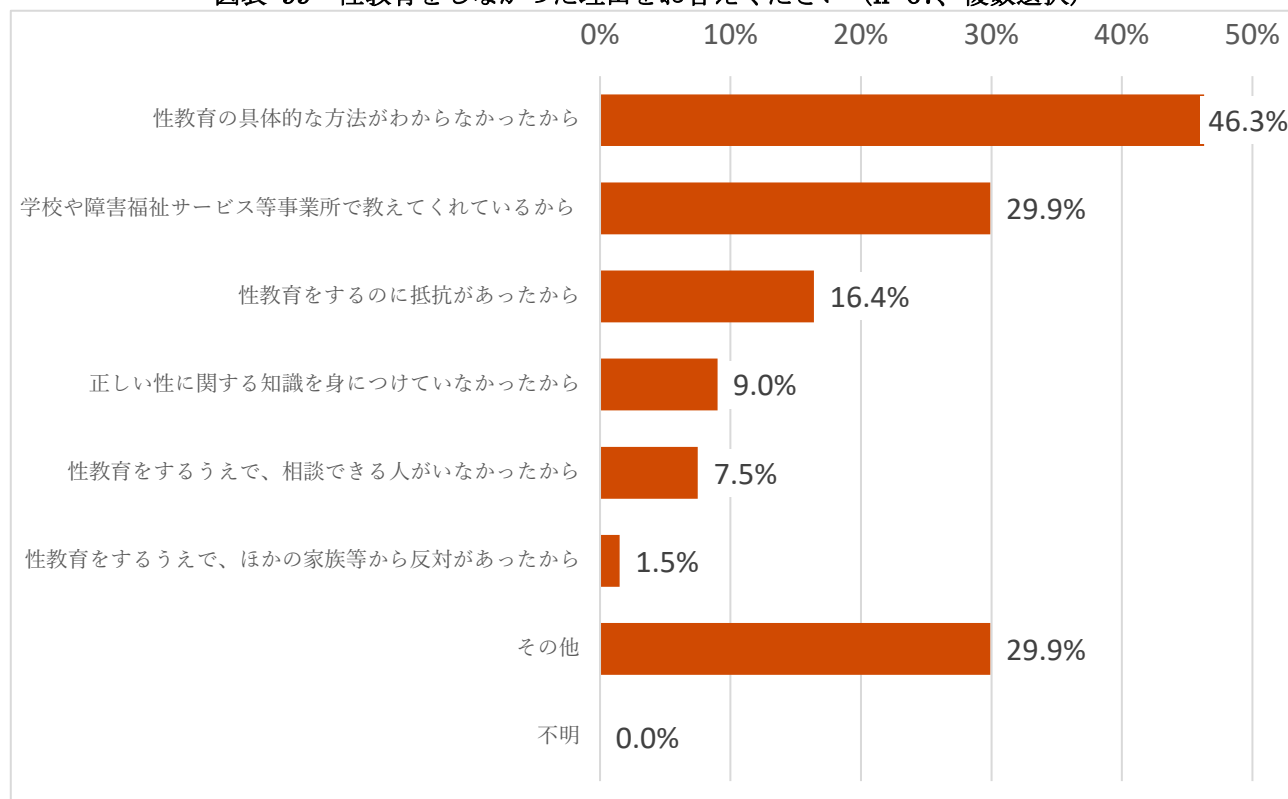
図表 98 実施した性教育の内容の中で、当てはまるものをお答えください（n=56、複数選択）



14. 性教育をしなかった理由

性教育をしなかった理由について、「性教育の具体的な方法がわからなかったから」が最多の46.3%、次いで「学校や障害福祉サービス等事業所で教えてくれているから」「その他」が29.9%だった。

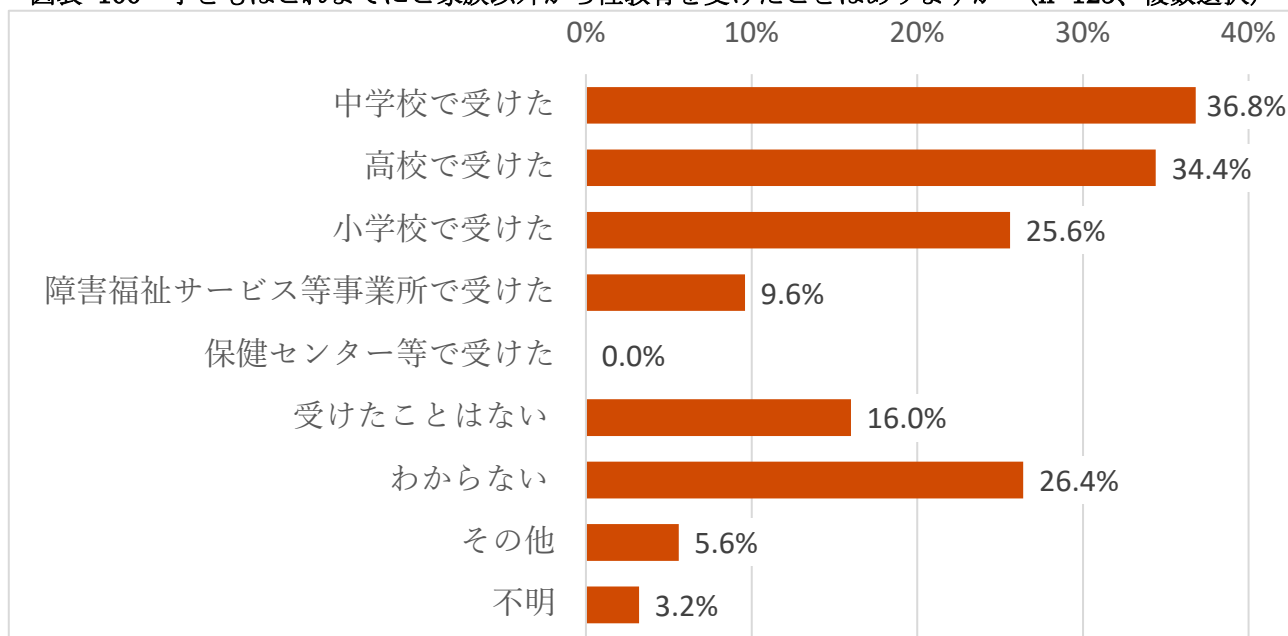
図表 99 性教育をしなかった理由をお答えください（n=67、複数選択）



15. 子どもが家族以外から性教育を受けた経験

子どもが家族以外から性教育を受けた経験について、「中学校で受けた」が最多の36.8%、次いで「高校で受けた」が34.4%だった。

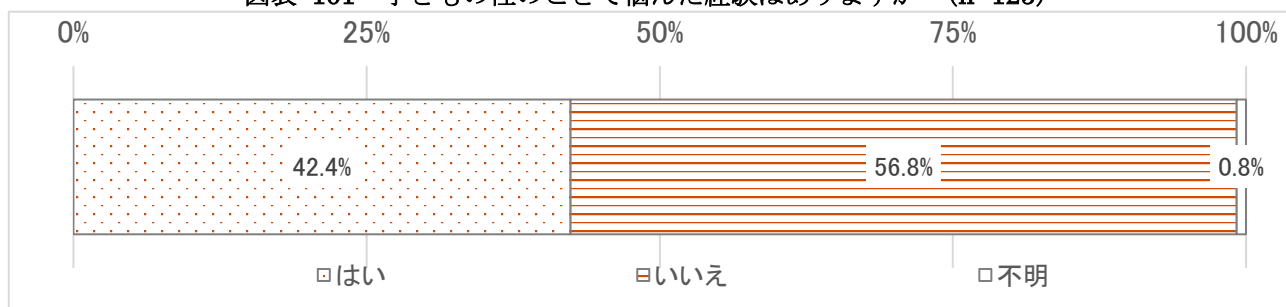
図表 100 子どもはこれまでにご家族以外から性教育を受けたことはありますか (n=125、複数選択)



16. 子どもの性のことで悩んだ経験

子どもの性のことで悩んだ経験について、「いいえ」が最多の56.8%で、次いで「はい」が42.4%だった。

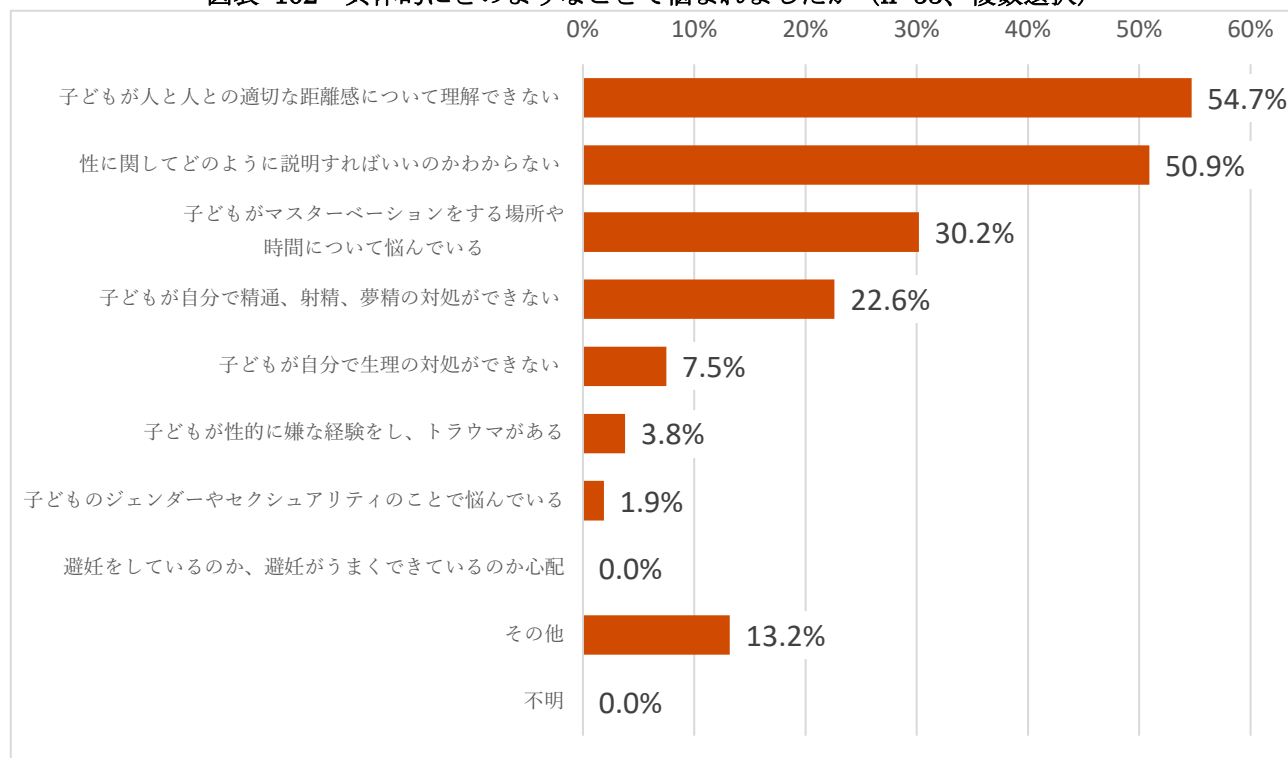
図表 101 子どもの性のことで悩んだ経験はありますか (n=125)



17. 子どもの性のことで悩んだ内容

子どもの性のことで悩んだ内容について、「子どもが人と人との適切な距離感について理解できない」が最多の 54.7%で、次いで「性に関してどのように説明すればいいのかわからない」が 50.9%だった。

図表 102 具体的にどのようなことで悩まれましたか (n=53、複数選択)

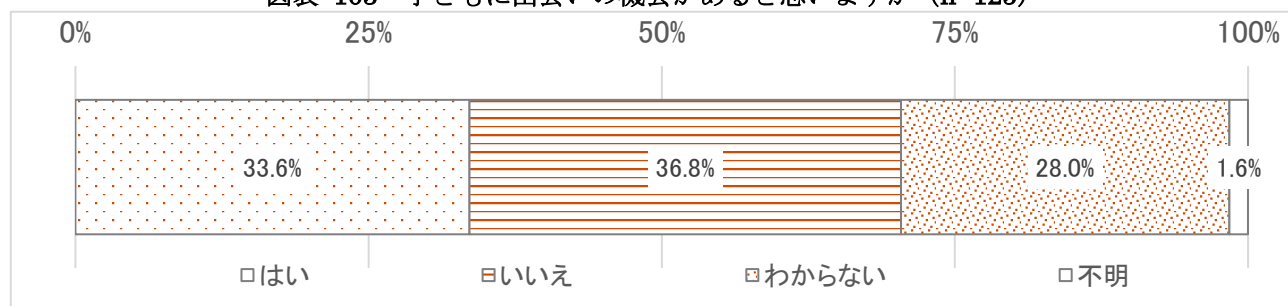


Ⅲ. お子さんの出会い・恋愛について

18. 子どもの出会いの機会について

子どもの出会いの機会があるかについて、「いいえ」が最多の 36.8%、次いで「はい」が 33.6%、「(不明・空欄)」が 28.0%だった。

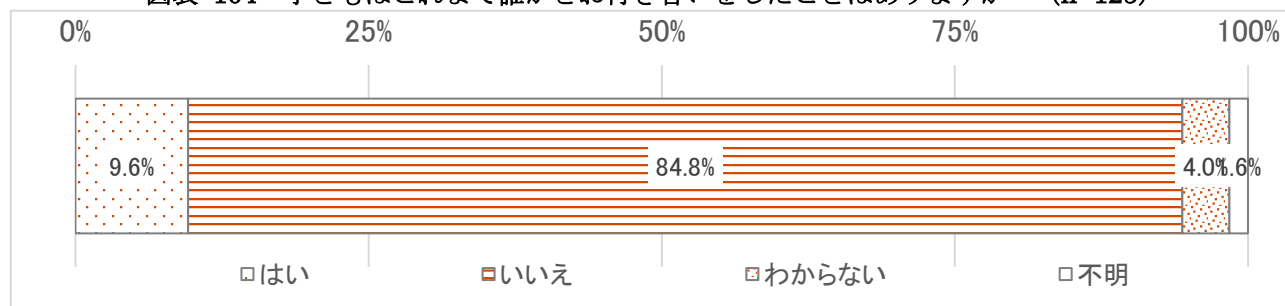
図表 103 子どもに出会いの機会があると思いますか (n=125)



19. 子どもの交際経験

子ども交際経験について、「いいえ」が最多の84.8%だった。「はい」は9.6%、「わからない」は4.0%だった。

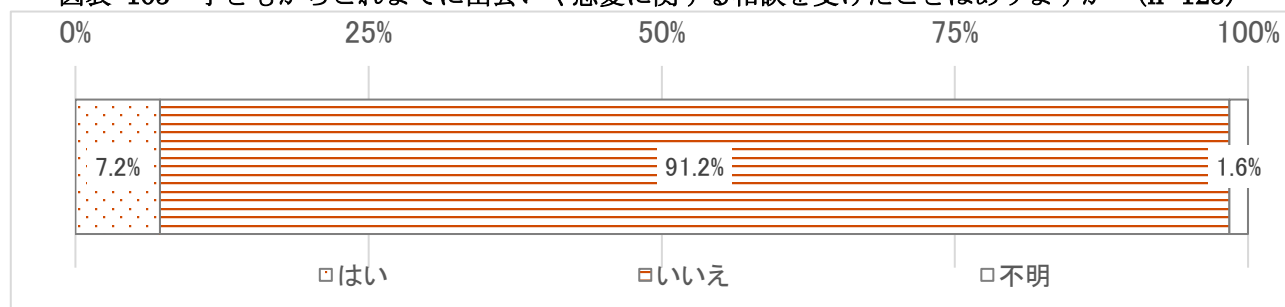
図表 104 子どもはこれまで誰かとお付き合いをしたことはありますか (n=125)



20. 子どもからの出会いや恋愛に関する相談

子どもからの出会いや恋愛に関する相談を子どもから受けたかについて、「いいえ」が91.2%、「はい」が7.2%だった。

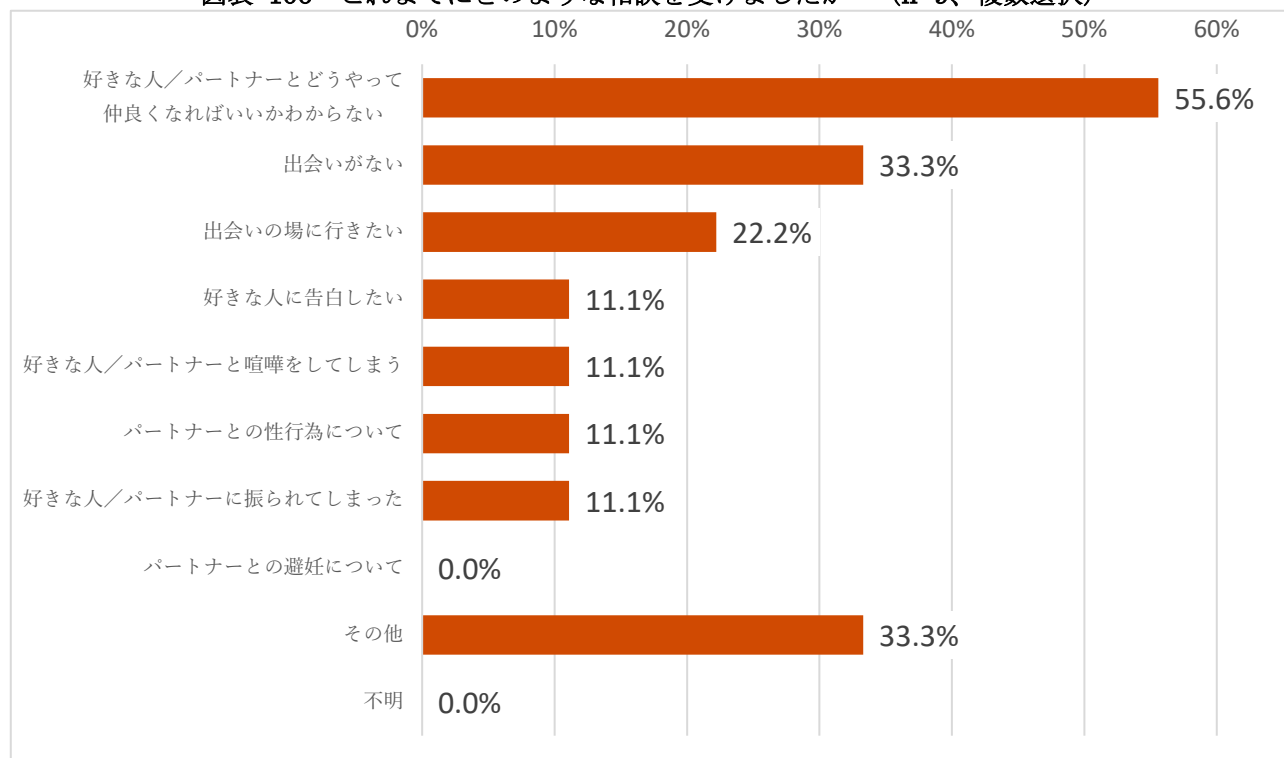
図表 105 子どもからこれまでに出会いや恋愛に関する相談を受けたことはありますか (n=125)



21. 子どもからの出会いや恋愛に関する相談内容

子どもからの出会いや恋愛に関する相談内容について9名に聞いたところ、「好きな人／パートナーとどうやって仲良くなればいいのかわからない」が55.6%、次いで「出会いがない」が33.3%だった。

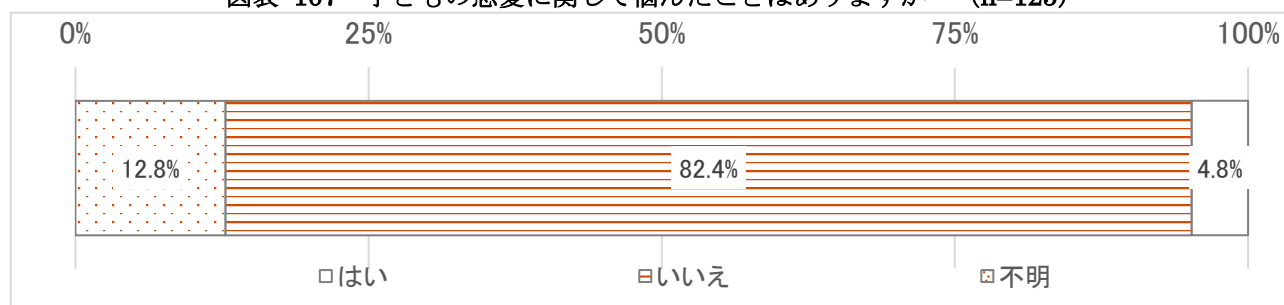
図表 106 これまでにどのような相談を受けましたか (n=9、複数選択)



22. 子どもの恋愛に関して悩んだ経験

子どもの恋愛に関して悩んだ経験があるかについて、「いいえ」が最多の82.4%で、次いで「はい」が12.8%だった。

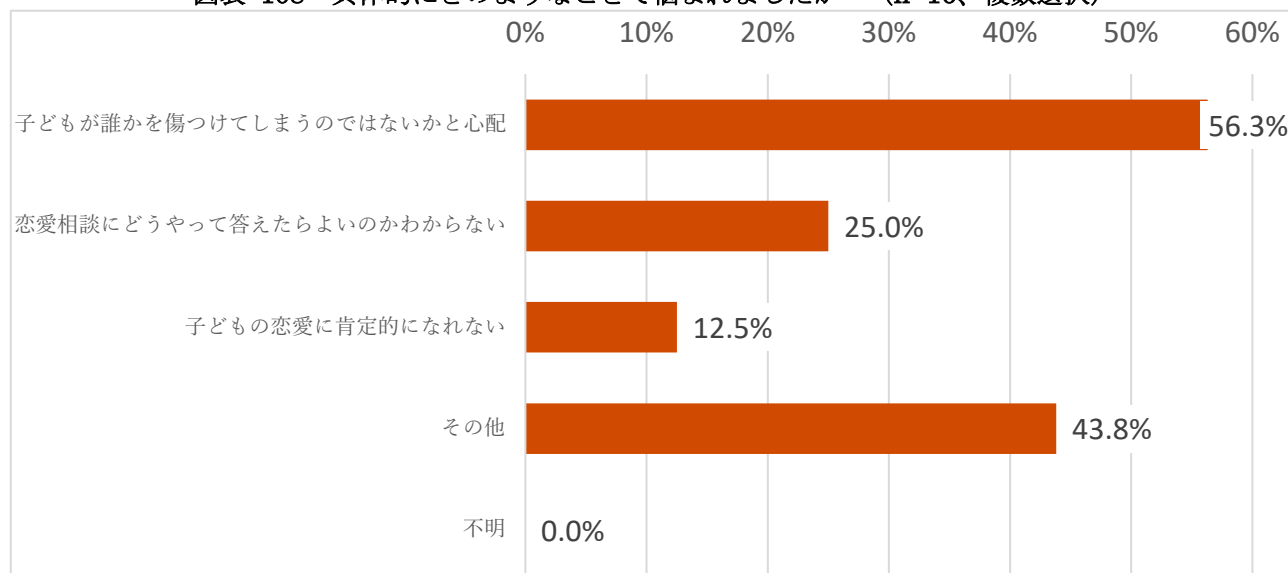
図表 107 子どもの恋愛に関して悩んだことはありますか (n=125)



23. 子どもの恋愛に関して悩んだ内容

子どもの恋愛に関して悩んだ内容について、「子どもが誰かを傷つけてしまうのではないかと心配」が最多の 56.3%で、次いで「その他」の 43.8%だった。

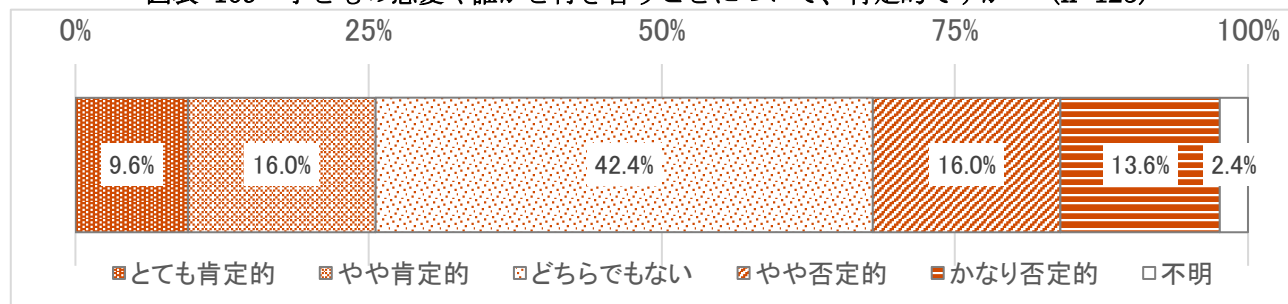
図表 108 具体的にどのようなことで悩まれましたか (n=16、複数選択)



24. 子どもの恋愛や交際についての意識

子どもの恋愛や交際への意識について、「どちらでもない」が最多の 42.4%で、「やや否定的」「かなり否定的」合わせて 29.6%、「とても肯定的」「やや肯定的」合わせて 25.6%だった。

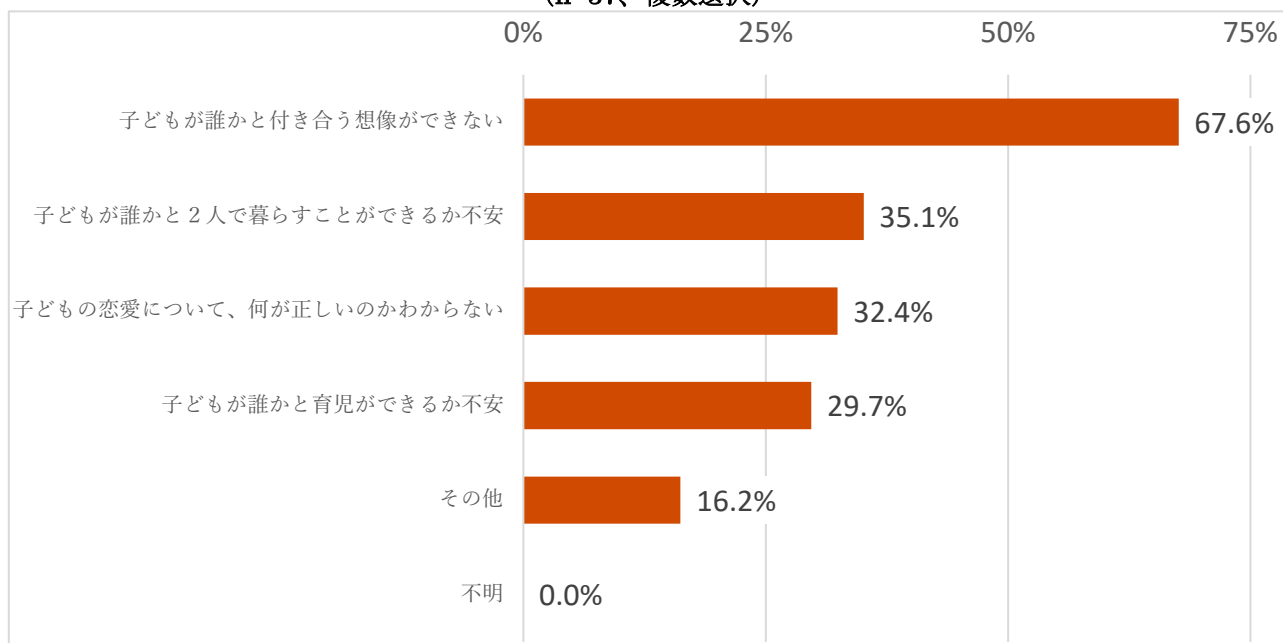
図表 109 子どもの恋愛や誰かと付き合うことについて、肯定的ですか (n=125)



25. 否定的な理由

子どもの恋愛や交際に否定的な理由について、「子どもが誰かと付き合う想像ができない」が最多の 67.6%で、次いで「子どもが誰かと 2 人で暮らすことができるか不安」が 35.1%だった。

図表 110 「やや否定的」または「かなり否定的」である理由をについてお答えください
(n=37、複数選択)

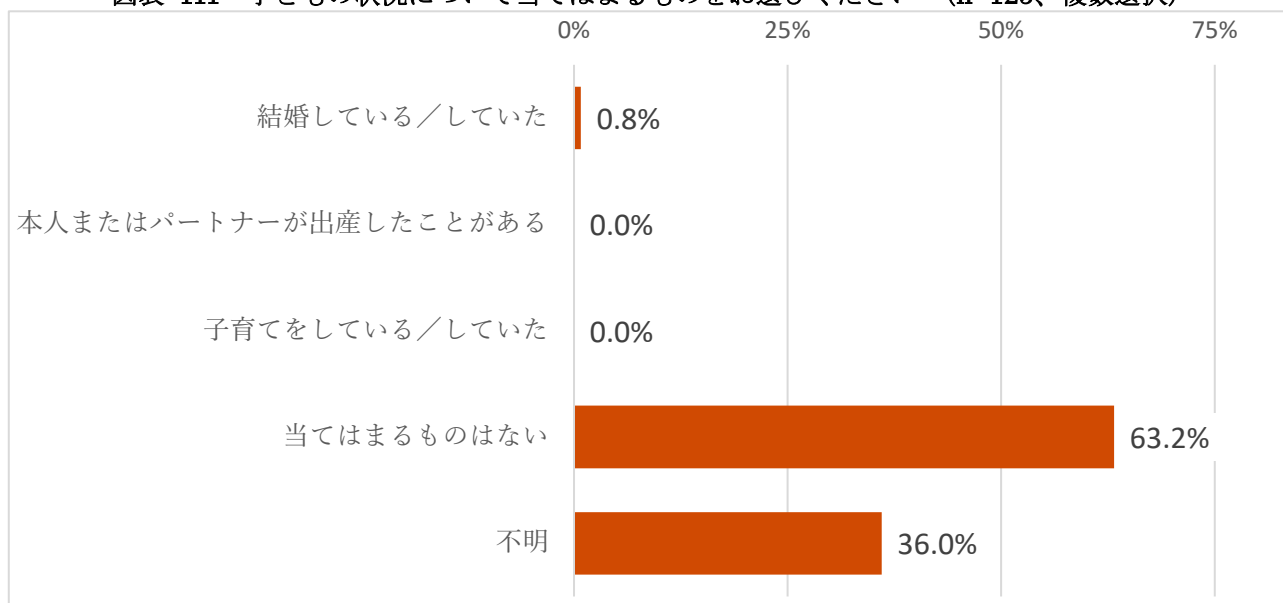


IV. お子さんの結婚・妊娠・出産・子育てについて

26. 子どもの状況

子どもの状況（結婚や出産の経験）について、「当てはまるものはない」が最多の 63.2%だった。

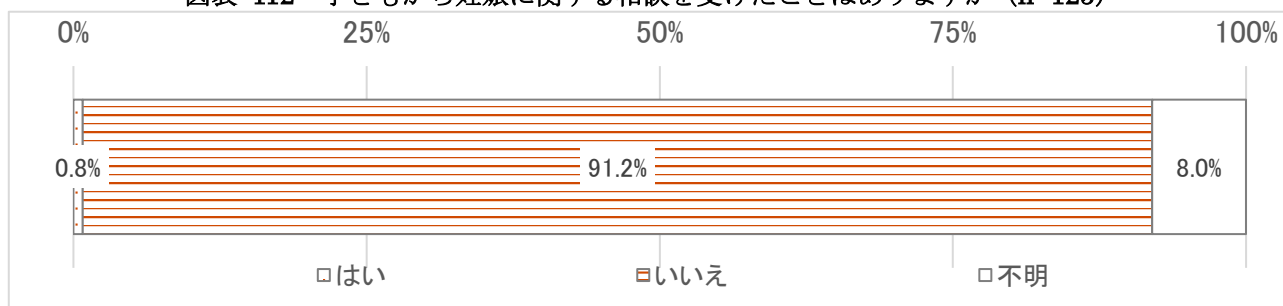
図表 111 子どもの状況について当てはまるものをお選びください (n=125、複数選択)



27. 妊娠に関する相談を受けた経験

子どもから妊娠に関する相談を受けた経験について、「いいえ」が 91.2%だった。

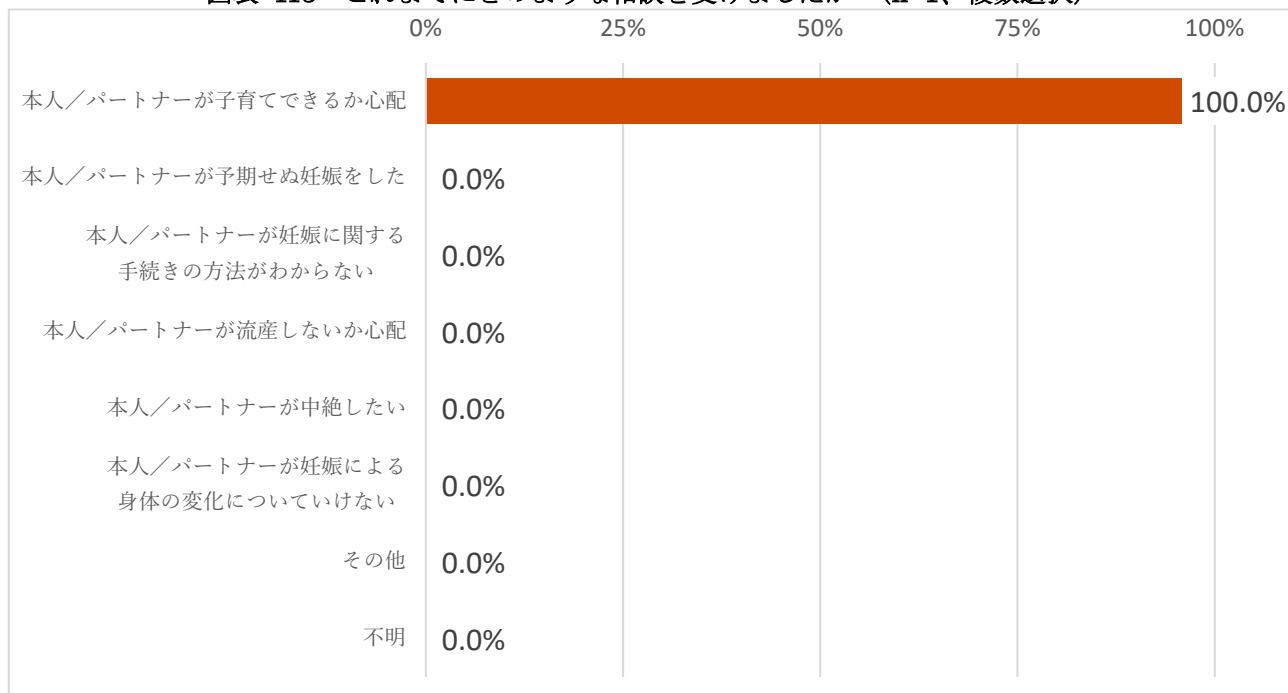
図表 112 子どもから妊娠に関する相談を受けたことはありますか (n=125)



28. 妊娠に関する相談内容

妊娠に関する相談内容について1名に聞いたところ、「本人／パートナーが子育てできるか心配」という回答だった。

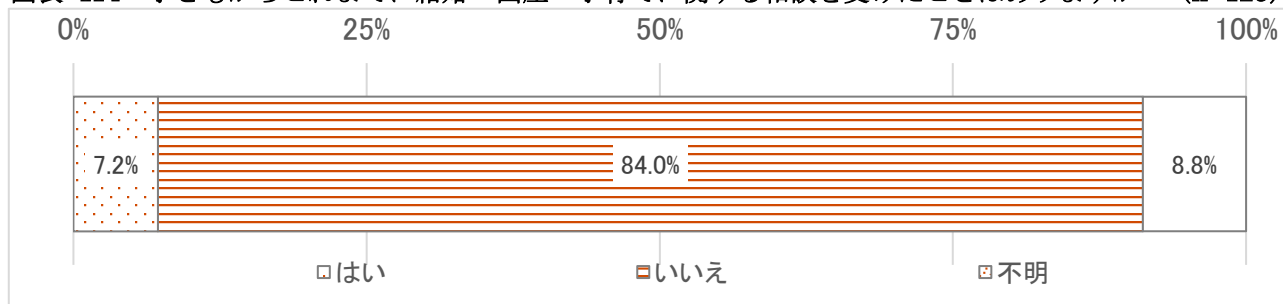
図表 113 これまでにどのような相談を受けましたか (n=1、複数選択)



29. 結婚・出産・子育てに関する相談を受けた経験

結婚・出産・子育てに関する相談を受けた経験について、「いいえ」が最多の 84.0%で、「はい」は 7.2%だった。

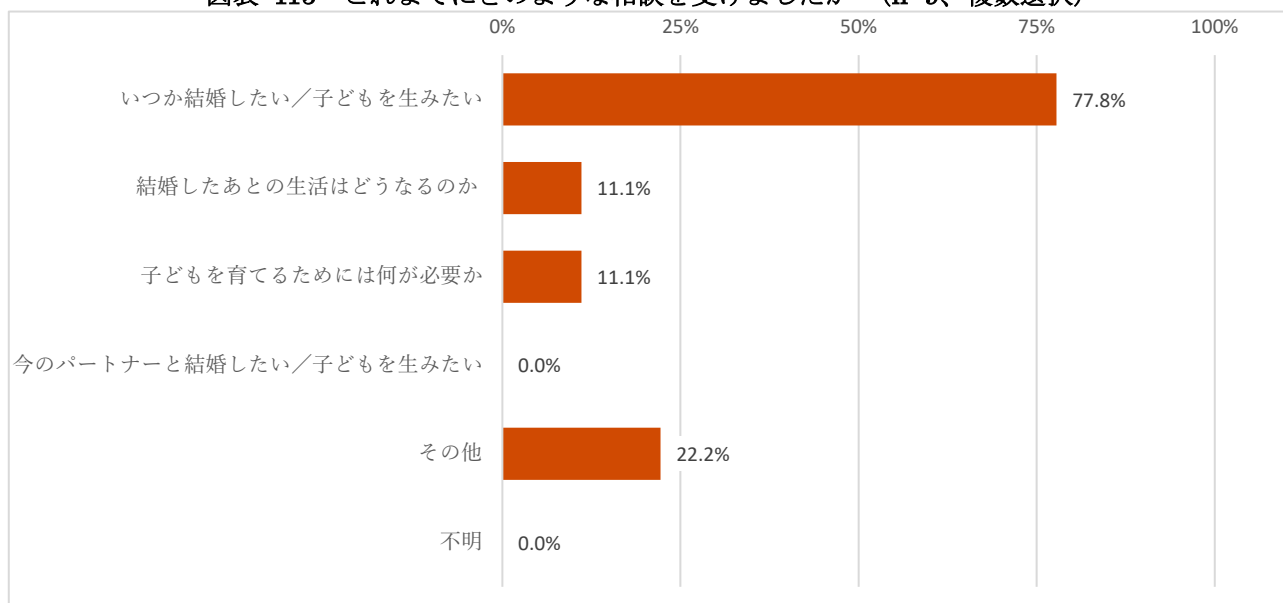
図表 114 子どもからこれまでに結婚・出産・子育てに関する相談を受けたことはありますか (n=125)



30. これまでに受けた結婚・出産・子育てに関する相談内容

これまでに受けた結婚・出産・子育てに関する相談内容について、「いつか結婚したい／子どもを生みたい」が最多の 77.8%だった。

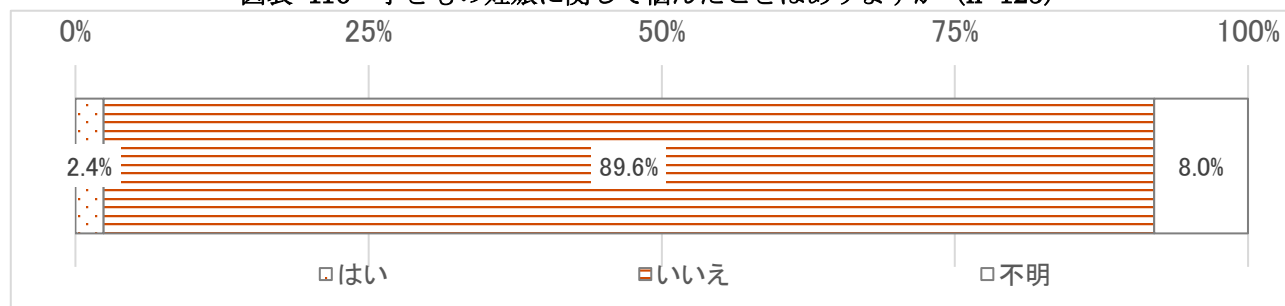
図表 115 これまでにどのような相談を受けましたか (n=9、複数選択)



31. 子どもの妊娠に関して悩んだ経験

子どもの妊娠に関して悩んだ経験について、「いいえ」が最多の 89.6%で、「はい」は 2.4% だった。

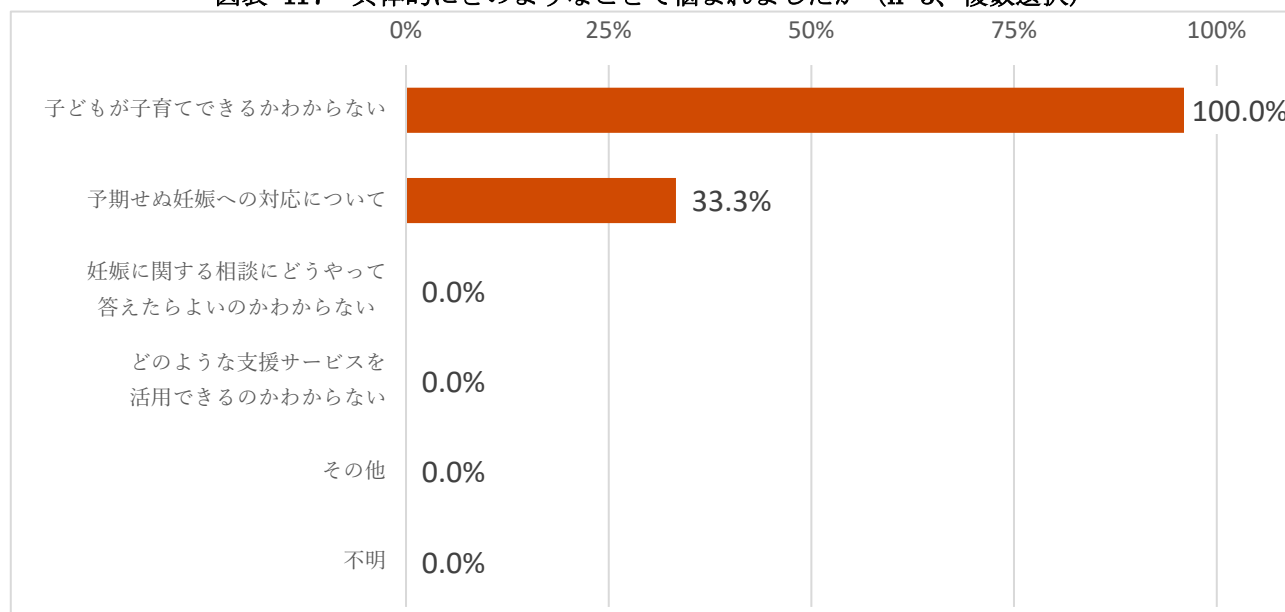
図表 116 子どもの妊娠に関して悩んだことはありますか (n=125)



32. 子どもの妊娠についての悩みの内容

子どもの妊娠に関する悩みについて 3 名に聞いたところ、「子どもが子育てできるかわからない」と 3 名 (100.0%) が答え、「予期せぬ妊娠への対応について」と 1 名 (33.3%) が答えた。

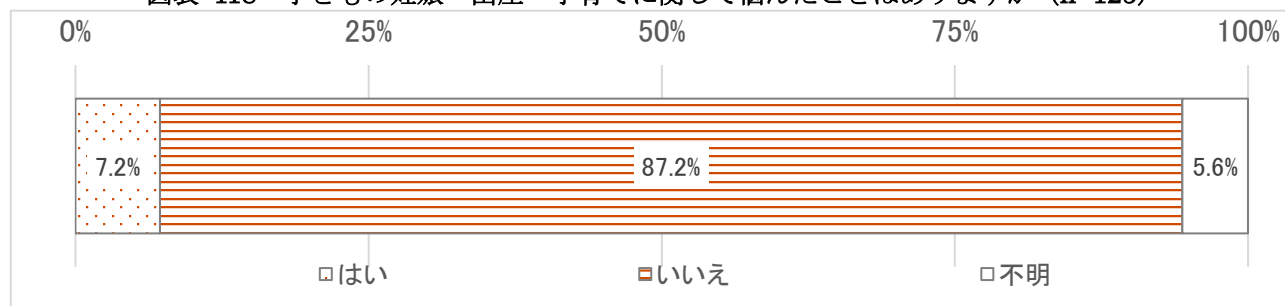
図表 117 具体的にどのようなことで悩まれましたか (n=3、複数選択)



33. 子どもの妊娠・出産・子育てに関して悩んだ経験

子どもの妊娠・出産・子育てに悩んだ経験について、「いいえ」が最多の 87.2%で、次いで「はい」が 7.2%だった。

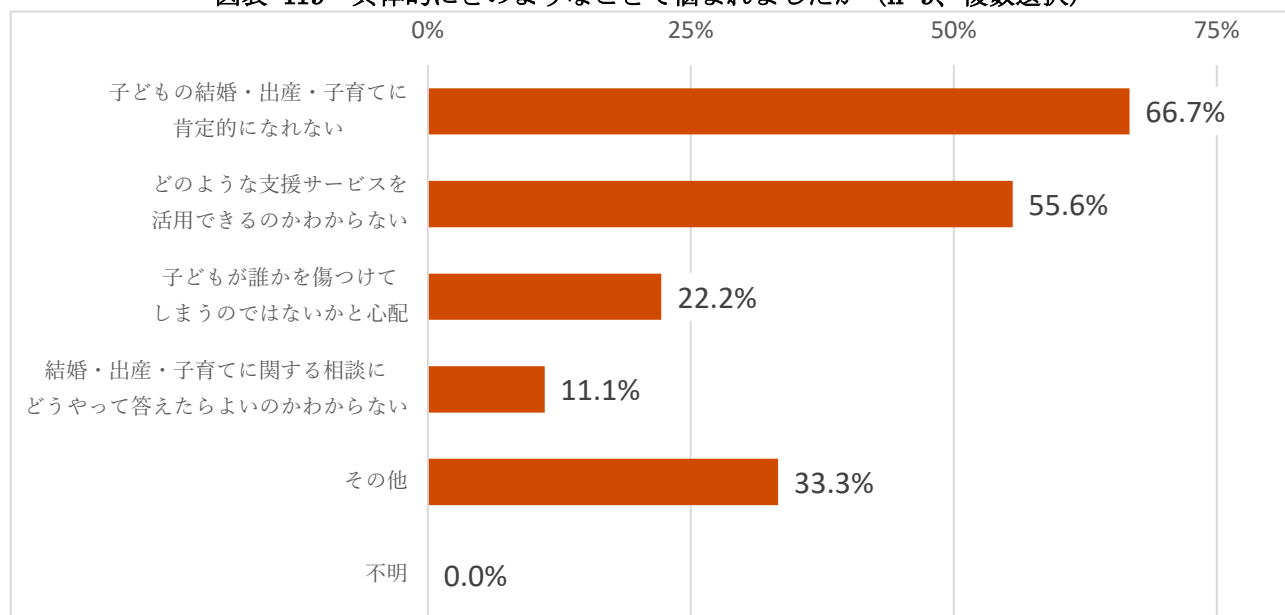
図表 118 子どもの妊娠・出産・子育てに関して悩んだことはありますか (n=125)



34. 子どもの妊娠・出産・子育てについての悩みの内容

子どもの妊娠・出産・子育てについての悩みの内容は、「子どもの結婚・出産・子育てに肯定的になれない」が最多の 66.7%で、次いで「どのような支援サービスを活用できるのかわからない」が 55.6%だった。

図表 119 具体的にどのようなことで悩まれましたか (n=9、複数選択)

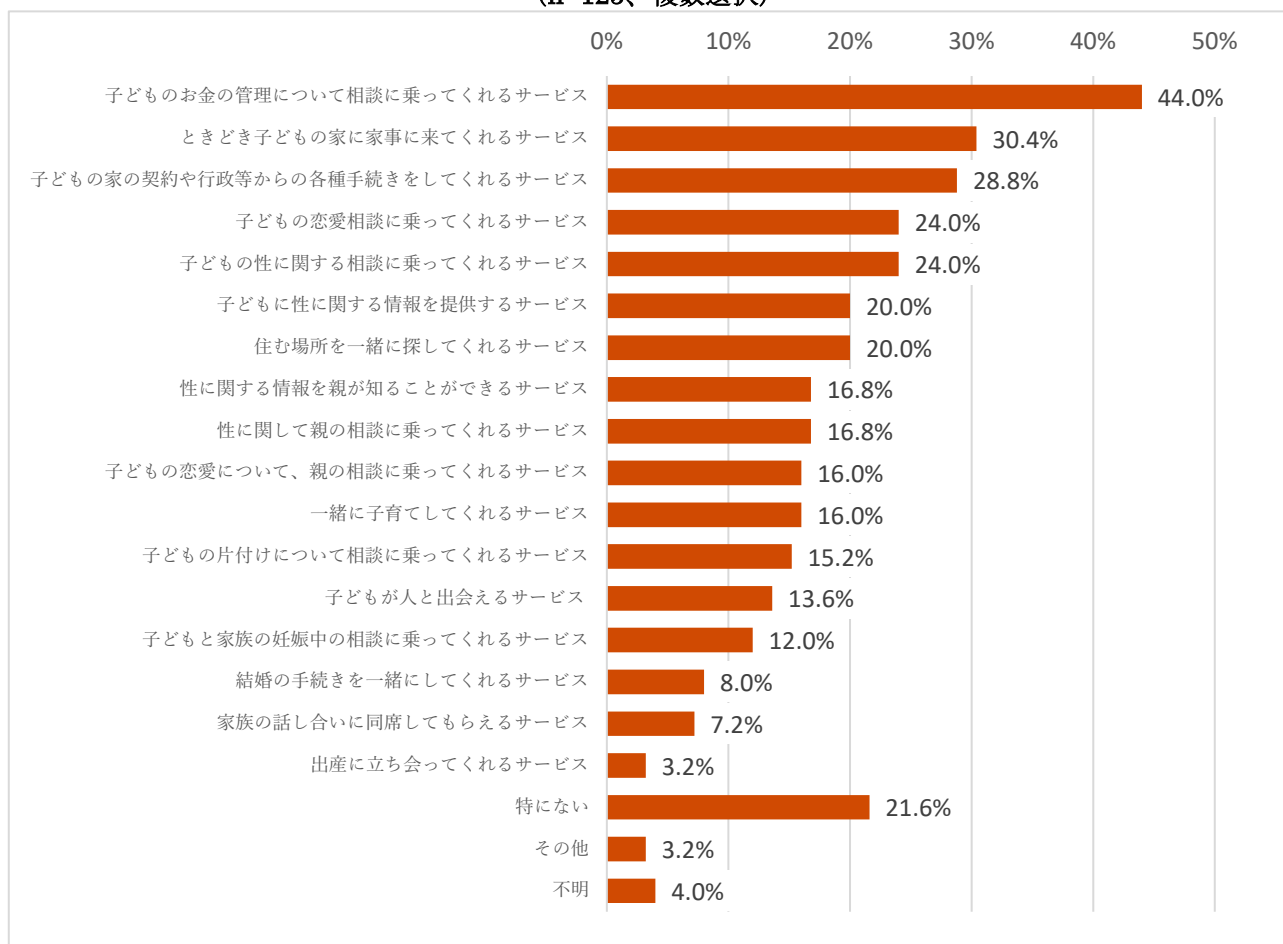


V. これまでに受けた支援や今後受きたい支援について

35. 子どもの性・出会い、恋愛、結婚等で受きたい支援

子どもの性・出会い、恋愛、結婚等で受きたい支援について、「子どものお金の管理について相談に乗ってくれるサービス」が最多の 44.0%で、次いで「ときどき子どもの家に家事に来てくれるサービス」が 30.4%だった。

図表 120 今後子どもの性、出会い、恋愛、結婚等について受きたい支援をお答えください
(n=125、複数選択)



3. ヒアリング調査

本章では、知的障害者本人、知的障害者を子に持つ親、知的障害者への支援を行う障害福祉サービス等事業所に対して実施した、ヒアリング調査の内容及び調査結果について記載する。

(1) 調査概要

調査目的、調査対象、調査項目は下記のとおりである。

① 調査目的

アンケート調査で把握した性教育、恋愛、結婚等の支援現場の実態や、知的障害者本人や親の悩みなどの内容を深掘って調査するとともに、成果物であるハンドブック及び支援の手引きに関する意見収集を行うために実施した。

② 調査対象

本ヒアリング調査の対象は、アンケート調査でヒアリング調査に協力すると回答した対象から選定し、図表 121 のとおりである。選定にあたっては、提供する障害福祉サービス、地域、性に関する支援の実施状況、年代や障害支援区分、収入源等のバランスを考慮している。

なお、本調査対象のうち、知的障害者本人及び親については、ご本人から同意を得られたものについてのみ実施した。

図表 121 ヒアリング調査対象（知的障害者本人）

#	対象者名	性別	年代	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人
1	A	女性	30代	知的	非該当	自身の就労	自分や家族の持ち家	親、きょうだい、祖父母
2	B	女性	30代	知的	区分なし	自身の就労、障害年金	自分や家族の持ち家	親、きょうだい
3	C	男性	40代	知的	区分2	自身の就労、障害年金、障害者手当	グループホーム	-
4	D	男性	40代	知的	区分2	自身の就労、障害年金、障害者手当	グループホーム	-
5	E	男性	50代	知的	非該当	自身の就労、障害年金	自分や家族の持ち家	親
6	F	男性	70代	(不明)	(不明)	障害年金	自分で借りているマンションやアパート	なし

図表 122 ヒアリング調査対象（障害福祉サービス等事業所）

#	事業所名	提供サービス	性教育の実施	性に関する情報の提供方法
1	社会福祉法人 G	居宅介護	あり	- 利用者への性教育に関するプログラム・研修等の開催 - 利用者の家族への性教育に関するプログラム・研修等の開催 - 利用者への性教育に関する個別相談
2	社会福祉法人 H	施設入所支援	あり	- 利用者への性教育に関するプログラム・研修等の開催 - 利用者への性教育に関する個別相談
3	社会福祉法人 I	グループホーム	あり	- 利用者への性教育に関する個別相談 - 利用者の家族への性教育に関する個別相談
4	社会福祉法人 J	就労継続支援 (B 型)	なし	なし

図表 123 ヒアリング調査対象（知的障害者を子に持つ親）

#	対象者名	関係性	子の情報					
			年代	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人
1	K	母	(非公開)	身体、知的、精神	非該当	親の収入	(非公開)	親
2	L	母	20 代	知的	区分 5	親の収入	子または家族の持ち家	きょうだい
3	M	父	20 代	知的	区分 3	親の収入、障害年金	子または家族の持ち家	親、きょうだい、祖父母
4	N	母	30 代	知的	区分なし	親の収入、障害年金	子または家族の持ち家	親

③ 調査項目

各ヒアリング調査項目は図表 124 のとおりである。

図表 124 ヒアリング調査項目

調査対象	分類	具体的な調査項目
知的障害者本人	基本情報	- 性別、年齢、障害種別、障害支援区分 - 療育手帳の所有有無、療育手帳の等級 - 日中の過ごし方の詳細 - 結婚や子育ての経験の有無
	実態調査の深掘り	- これまでに性、恋愛、結婚などについて悩んだこと - これまでに性、恋愛、結婚などについて受けた支援サービス 性、恋愛、結婚などについての支援サービスの希望
	ハンドブック及び支援の手引き	- ハンドブックなどで知りたい情報 - もっと早くに知りたかった情報、若い頃に知りたかった情報
親	基本情報	- 子どもの性別、年齢、障害種別、障害支援区分 - 子どもの療育手帳の所有有無、療育手帳の等級 - 子どもの日中の過ごし方の詳細
	実態調査の深掘り	- 子どもの性、恋愛、結婚などについての親としてのこれまでの悩み - 子ども自身が抱える性、恋愛、結婚などについてのこれまでの悩み - これまで子どもから受けた性、恋愛、結婚などについての相談内容 - これまでに子どもの性、恋愛、結婚などについて受けた支援サービス - 今後、子どもの性、恋愛、結婚などについての支援サービスで必要だと考えるもの
	ハンドブック及び支援の手引き	- ハンドブック及び支援の手引きについて不足している内容 - ハンドブック及び支援の手引きについての分かりづらい点 - ハンドブック及び支援の手引き掲載への掲載を希望する情報 - その他ハンドブック及び支援の手引きに対するご意見
障害福祉サービス等事業所	基本情報	事業所における提供サービスの詳細
	実態調査の深掘り	- 性・恋愛・結婚などに関する支援の提供状況 - 性・恋愛・結婚などに関する支援を提供する上での課題 - 性・恋愛・結婚などに関する支援を提供する上でのメリット
	ハンドブック及び支援の手引き	- ハンドブック及び支援の手引きについて不足している内容 - ハンドブック及び支援の手引きについての分かりづらい点 - ハンドブック及び支援の手引き掲載への掲載を希望する情報 - その他ハンドブック及び支援の手引きに対するご意見

（２）知的障害者本人へのヒアリング調査結果

本調査の結果を以下に記載する。なお、以下の情報は本人からの聞き取り情報を中心にまとめたものである。

① A

1. 基本情報

図表 125 Aの基本情報

性別	年齢	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
女性	30代	知的	分からない	自身で働いて稼いだお金	自分や家族の持ち家	親、きょうだい	働いている

① その他の基本情報

- 療育手帳は持っているが等級は分からない。
- 障害年金についても受給しているか分からない。
- 清掃に関する仕事をしている。
- 時折役所から電話が来て、親と一緒に役所を訪ね、仕事の状況などの話をすることがある。
- 結婚はしておらず、子どももいない。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 特に生理についてこれまで悩んできた。生理になる度に、布団が真っ赤になり、トイレに行く回数も多くなってしまう。２日目から寝込むほど生理痛が酷くなる。
- 生理のことで悩み地域の病院を受診したところ、大きな病院を紹介され、受診した。
- 当時は定期的に病院に通っていたが、現在も腹痛などがあるときに婦人科に通っている。病院は初診時には親と一緒に行き、２回目からは１人で行っている。
- 身体そのものに対して不安があり、不安があるときには親に相談している。

② 恋愛について

- 同僚や親に秘密にして会社の同僚と１０年以上付き合っており、交際相手にも障害がある。
- これまで喧嘩をしてもお互いがすぐ謝って仲直りができるため、恋愛に関する悩みはあまりない。

③ 結婚について

- 結婚願望はあまりなく、その理由としては自身の年齢が高いため、結婚する気が起きない。周囲の友人も同じようなことを言っている。
- 友人の中には結婚したい人もいるが、家族が了承しないと聞く。

④ 希望する支援

- 職場の人の中にはナプキンを包まずにそのまま捨ててしまう人もおり、清掃時に大変な思いをするため、ナプキンの捨て方や使い方を教えるような支援があると良い。
- 障害者の出会いの機会について、障害者は初め緊張する人が多いと思われるため、自分はこの障害があるとかを説明できるような話し合いの場があると良い。たとえば、障害者が集まるような広場があると良いのではないかな。

⑤ その他

- 親の死後のことも考えると、グループホームにいつかは住んでみたいと考える。グループホームに住んでいる友達もいる。そのためにも、グループホームの体験利用を使ってみてみたいが、まだ使ったことはない。1人暮らしは怖いと感じる。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- ハンドブックが何かは分からないが、あったら見てみたい。
- 障害者への理解について掲載し、周囲の人に障害者について知ってもらいたい。知っていれば手助けしてくれる人もいると考える。

② 若い頃に知りたかった内容

- 生理についての情報を早めに知りたかった。たとえば、ナプキン以外にも月経カップがあることを知っていれば、生理を漏らさずに済んだかもしれない。

② B

1. 基本情報

図表 126 Bの基本情報

性別	年齢	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
女性	30代	知的	区分なし	自身で働いて稼いだお金、障害年金	自分や家族の持ち家	親、きょうだい	働いている

① その他の基本情報

- 療育手帳は持っており、等級は B である。
- 障害年金は受給している。
- 障害者雇用で働いている。
- 車の運転もするが、長距離は難しい。
- 結婚もしておらず、子どももいない。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- これまで特に悩みはなかった。

② 恋愛について

- マッチングアプリや婚活イベントを利用してみたい気持ちはあるが、遠くに行かなければいけない状況だと参加がしづらい。また、賃金も低いため、参加費用が高いと思うとなかなか難しい。周囲からそういうイベントがあるという情報自体もあまり聞かない。
- 出会いはあるがその先につながらないという状況である。たとえば、職場で紹介を受けて、実際に会って食事をしたこともある。しかし、障害があると伝えたと、会ってくれなくなったり、連絡が取れなくなったりする。周囲でも同じような悩みがあるという話はかなり聞いており、障害があることを黙って付き合っている人もいる。

③ 結婚について

- 結婚願望はある。

④ 希望する支援

- 家族や友人以外の人に相談できると良い。たとえば、結婚生活の中での支援、子どもができたときに何を準備すれば良いかの相談先があると良い。

⑤ その他

- 知的障害が軽度の人にとっては、相談ができるような場所はない。軽度ならではの悩みがある考える。
- 周囲の人の中にも、知的障害があることを隠したがることが多く、隠さなくても人と普通に付き合える世界にしていけたら良いと考える。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 初めてのセックスは女性側が痛いと聞くが、それがどのくらい痛いかわからないため少し怖い。
- お互いの同意のもとでセックスをしましょうということが書かれていると良い。好きな人同士でするものだということも、書けると良いのではないかと考える。
- 交際するにあたって、すぐにセックスをしてしまうのではなく、食事を一緒にして、手をつないで、キスをしてという段取りについても説明があると良い。

② 若い頃に知りたかった内容

- 生理痛がどのくらいつらいかわからないと怖いため、どれくらい痛いかわかるような情報が欲しかった。

③ C

1. 基本情報

図表 127 Cの基本情報

性別	年齢	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
男性	40代	知的	区分2	自身で働いて稼いだ お金、障害年金、障害 者手当	グループホーム	-	働いている

① その他の基本情報

- 療育手帳は持っており、等級は B である。
- てんかんの持病がある。
- 令和6年からグループホームにおり、それまでは親と実家に住んでいた。
- 結婚もしておらず、子どももいない。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 性について親や周りの人に相談したことはなかった。親とは日常的に連絡を取っているが、現時点で悩みがないため、相談することもない。

② 恋愛について

- マッチングアプリを使ったことがあるが、覚えのない電話番号から電話が来るようになり、騙されたと感じた。
- マッチングアプリを使用しても出会えないという悩みが過去あった。相手とマッチングまではでき、チャット等でやりとりをすることも1人程度とはあった。親から障害があるから結婚できないと言われ、マッチングアプリの使用はやめた。
- 友人に告白をしたこともあるが、友人のままでいたいと言われた。
- 恋愛についても友人に相談したことはない。
- グループホームにいるが、出会いの場ではない。

③ 結婚について

- 結婚願望はあり、子どもも欲しいと考える。

④ 希望する支援

- 障害者のことをよく分かってくれる相談先があると良い。たとえば、デートに付き添ってほしいときに付き添ってくれるサービスがあると良い。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 学校の保健体育の教科書にてんかん発作のことが掲載されていなかったため、てんかん発作のことが分かると良い。
- 子どもにとってもセックスなどについて、分かりやすく伝わると良い。

② 若い頃に知りたかった内容

- 若い頃は友人とよく喧嘩していたため、仲直りの方法を早く知りたかった。
- 友人や好きな人とどこで出会うか、どうやって出会うかの方法を知りたかった。

④ D

1. 基本情報

図表 128 Dの基本情報

性別	年齢	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
男性	40代	知的	区分2	自身で働いて稼いだ お金、障害年金、障害 者手当	グループホーム	-	働いている

① その他の基本情報

- 療育手帳は持っており、等級は4度である。
- 運送会社で働いている。
- 通勤寮にいたこともあり、その後グループホームでの生活を10年以上している。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 特に伝えたいことはない。

② 恋愛について

- これまでに出会いはほとんどなく、交際経験もない。誰かを好きになったこともない。いきなり女性と付き合うことになってはどうすればいいか分からないため、グループホームの職員など周囲の人に助けてもらわないと不安がある。
- 将来的には、仕事ばかりせず、仕事しながら家族を支えていきたいと考えている。そのためにも、早く彼女を作って、デートして同棲生活をしてみたいと考える。同棲をすることで、様子見をするべきだとも考えている。出会いがないことが悩みである。
- 日常的にグループホームの職員に助けてもらっているため、今後もし交際して、結婚までするようなことになって、グループホームの職員に支援してもらいたい。
- 女性と付き合うことになったら、デートスポットは分かるため、デートはできると思うが、お金の工面が心配である。現在はグループホームでお金を預かってもらっており、使いすぎないようにしている。
- 休日も用事があったり、グループホームの門限もあったりするため、出会う機会はない。
- 職場に女性はいるが、コンプライアンスが厳しいため、出会いの場ではない。

③ 結婚について

- 結婚願望はあるものの、事情があるためハードルが高い。また、結婚はお金がかかると理解している。
- 親も高齢になってきており、私が結婚しないことについて心配している可能性はあると考える。

④ 希望する支援

- 希望するサービスは思い浮かばない。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- お付き合いについてのことが最も重要だと考える。
- セックスのことについて掲載してほしい。女性との触れ合い方、女性が気持ち良いと感じるかどうか、女性がセックスを通して自分を好きになってくれるのかどうかについて知りたい。ラブホテルについても重要である。
- デートしたときにおすすめのデートスポットについても掲載すると良い。

② 若い頃に知りたかった内容

- 若い頃は仕事のことばかり考えていたため、そこまで考えたことはない。

⑤ E

1. 基本情報

図表 129 Eの基本情報

性別	年齢	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
男性	50代	知的障害	非該当	自身で働いて稼いだ お金、障害年金	自分や家族の持 ち家	親	働いている

① その他の基本情報

- 療育手帳は持っており、等級は4度である。
- 療育手帳を取得したのは10代後半の頃で、小児検診で障害の可能性があると言われていたものの、父に障害への理解がなかったため、学童期は手帳を取得せず通常学級に通っていた。
- 特例子会社でオフィスビルの清掃に関する仕事をしている。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 覚えていないだけかもしれないが、学校で性教育を受けた記憶はない。
- パーソナルスペースについては自然と知った。
- 20代前半の頃の交際相手に、妊娠しない体だからコンドームを付けないでほしいと言われ、不安になった経験がある。性について悩んだ際には、そういう話をする人が周囲にいなかった。
- 避妊の方法や必要性についてはインターネットで知ったと考える。病気をしないため、そして妊娠を防ぐためにすることだと理解している。相手が妊娠してしまったら責任が取れないと考えている。もし相手に中絶させるようなことになった場合、相手を傷つけることにもなり、トラウマになってしまうかもしれない。

② 恋愛について

- パートナーがいないことについて悩んだことがある。職場の同僚のほとんどが男性であり、女性がいたとしても既婚者が多い。
- 20代前半の頃に、就労定着支援で出会った相手と1年以上の交際経験はあり、相手の浮気などで悩んだことはある。悩んだ際の相談相手は特におらず、親に話すこともないと考えていた。
- 交際相手には身体障害があった。また、言葉をうまく発することもできず、コミュニケーションで悩んだこともあった。

- 現在は恋愛をしたいという希望も薄れ、友人や同僚として仲良くしたいという気持ちにとどまるような状況である。自分が望んでいても、相手が望まなくては交際することとできない。
- 交際するとお金がかかるが、現在の収入ではデートをするような余裕がなく、金銭面のことを考えると、恋愛に積極的な気持ちにはなれない。恋愛への希望が薄れている原因としては、出会いがないということよりも、経済的な不安の方が大きい。
- 今アプローチを受けても、相手に変な思惑があるのではないかと考えてしまう。友人の中にも高額請求を受けるなどの詐欺に遭ったり、金銭的トラブルに巻き込まれたりしている人がいる。
- マッチングアプリについても使用することに不安がある。職場恋愛などから始まり、散歩したり食事したりするような、自然な流れで出会えると良い。

③ 結婚について

- 20代前半の交際相手からは結婚したいと言われたこともあった。しかし、障害特性のためか、自分はそのまで深いことは当時考えられておらず、交際そのものに真剣に向き合っていた。交際が長く続いていたら結婚について考えていたかもしれない。
- 30代の頃は結婚願望もあったが、出会いもなく、結婚願望も次第に薄れてきている。
- 若い頃は漠然と子どもが欲しいという願望もあったが、責任を取ることができるかということを考えると、自信がない。

④ 希望する支援

- 交際していた頃は深く考えていなかったもので、必要な支援などは特に思い浮かばない。

⑤ その他

- 通常学級に通っていた頃、人付き合いがうまくいかず、友人とも長続きしないことに困っていた。卒業後まで続く関係性の友人があまりいない。
- 今回のアンケート調査についてプライベートな情報を収集したため、支援が必要な人のために支援者がそばにいる環境も重要だとは思いますが、回答内容が支援者などに見える方法で実施することに違和感を覚えた。今後同様のアンケートを実施する場合には、ひとりひとりに合わせた環境の用意について検討いただきたい。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 生理についてどういう配慮が必要なのか、男性にとってもためになるような情報があると良い。

② 若い頃に知りたかった内容

- 特にない。

⑥ F

1. 基本情報

図表 130 Gの基本情報

性別	年齢	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
男性	70代	分からな い	分からない	障害年金	マンションやア パート	1人暮らし	スポーツセンタ ーに通っている

① その他の基本情報

- 療育手帳を持っているか分からない。
- 障害年金についても受給しているが、金銭面は別居のきょうだい管理している。
- 住んでいるマンションやアパートも、別居のきょうだいと相談して契約している。
- 結婚しており、妻は他界している。妻はアルコール依存症だった。
- 息子には脳性まひがあり、医療機関に住んでいる。面会は可能だが、息子はめったに家には帰ってこない。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 昔、セックスをしていた頃、子どもができるからセックスをしてはいけないと実家から注意を受けたことがある。もし子どもが生まれたら養育費や教育費を支払って育てることはできるのかと言われ、できないと答えたこともある。
- 性、恋愛、結婚生活、子育てすべてに関して悩みがあった際には常に実家に相談してきた。いつでも電話で相談したら話を聞いてくれる。親がいた頃には親に相談していたが、現在は別居のきょうだい相談相手となっている。

② 恋愛について

- 特に話すことはない。

③ 結婚について

- 妻とは結婚相談所で知り合った。子どもができた際には、実家から責任を取って結婚しなさいと言われ、結婚することになった。
- 妻はアルコール依存症になり、病気にもなって他界した。

④ 希望する支援

- 実家がすべて相談に乗ってくれるため、特に希望する支援はない。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- セックスをして（避妊ができず）子どもができて困ってしまうなら、あまりセックスをしない方が良いということを、上手な表現で掲載してほしい。

② 若い頃に知りたかった内容

- 実家と常に相談してきたため、特にない。

(3) 障害福祉サービス等事業所へのヒアリング調査結果

本調査の結果を以下に記載する。

① 社会福祉法人 G

1. 基本情報

図表 131 社会福祉法人 G の基本情報

提供サービス	契約者数	性教育に関する内容		
		実施 有無	情報提供方法	情報の内容
居宅介護	30 名程度 (区分 1～3：約 2 割、 区分 4～6：約 8 割)	あり	- 利用者への性教育に関するプログラム・研修等の開催 - 利用者の家族への性教育に関するプログラム・研修等の開催 - 利用者への性教育に関する個別相談	- パーソナルスペース - プライベートゾーン - セックス - その他（障害者対応可の性風俗サービスに関する情報提供）

① その他の基本情報

- 知的障害や身体障害がある方の家事援助なども行っており、就労継続支援 B 型や放課後等デイサービスなども法人内では実施している。
- 自身（ヒアリング対応者）としては普段成人の方と関わることが多く、発達障害と知的障害の重複がある方や、障害支援区分 3～5 の方への支援が主である。
- 担当者制ではなくシフト制を導入しており、月々の利用日時で担当者のシフトを決めている。あえて支援者が固定化されないようにしている。

2. 性、恋愛、結婚等に関する支援について

① 性について

- 性に関する相談を受けることは多い。ヘルパーとして利用者と 1 対 1 で過ごすため、利用者の性に関する行動に気づきやすい立場であると認識している。たとえば、エスカレーターの下から女性のスカートの中を覗き込もうとしたような事例や、利用者と銭湯に一緒に行って、利用者が女兒や長髪の男児に興味を抱いて追いかけてしまうという事例もこれまでにあった。適宜他の担当者にもその旨共有するようにしている。
- 利用者を被害者にしないだけでなく、加害者にならないようにすることも支援者としての重要な役割であると考えている。

- 成人向けの DVD を一緒に借りに行ったり、知的障害者でも利用可能な性風俗サービスを担う業者につなげたり、同業者に相談したりするようなこともしている。性風俗サービスへのつながりは、移動支援や行動援護とは別建てで行っている。
- 実際に性風俗サービスにつなげた方については、以前女性職員が目薬を差す補助をした際に、女性職員の胸部に顔を近づけるということがあり、対応方針を検討し、意思をくみ取った結果、性風俗サービスにつなげることとなった。その際には、本人の気持ちを重視し、射精が必要なのか、ハグをしたいのか、など丁寧に確認して対応した。
- 性風俗サービスを利用するようになった方には、お金の使い方やコミュニケーション面での変化が見られた。本人が無駄遣いだと思われるようなお金の使い方が減り、噂話をするようなことも少なくなった。人には知られたくないような情報があるということを本人が理解されたからなのか、支援者と AV の好みなどについて話をするのが好きであったが、他の人の好みを他言することはなくなった。また、本人の忘れ物を支援者が取りに行った際に、ありがとうという思いやりの言葉も見られたことから、他者のプライバシーや他者への思いやりの部分で、コミュニケーション面での変化が見られたと考えている。
- 性風俗サービスへのつながりについては、性風俗サービスの話をしたい利用者、したくない利用者があり、利用したい方と利用したくない方もいる点を念頭に置いて、慎重に対応する必要があると考えている。
- 支援者同士が集まり、性に関する意見交換会を以前実施したが、支援者の中にも利用者の性の部分に触れたくない方もいるため、その気持ちは尊重したいという話を共有した。支援者にもそれぞれの成育歴や宗教観がある中で、支援者が持つ拒否感も大事にしていきたいという話である。
- 利用者との日々のコミュニケーションは必要不可欠である。利用者から相談があった際には、傾聴し、味方でいる姿勢を示すことが重要である。孤独感や寂しさから性被害者になってしまうこともあるため、事前に話をしてもらえような信頼関係を築くことが重要である。信頼関係を築くためには、肯定的・共感的に伝えることは重要である旨、職員間では共有している。たとえば、良くないとされることをした際に、行動はよくなくてもそれをやりたかった心をまずは受け止めることが考えられる。また、細かいことに関しても利用者を選択してもらうことも重要である。

② 恋愛について

- カップルとして同棲している方もおり、デートに同行し、場面によっては補助するような支援も行っている。

③ 結婚について

- 結婚されている方の家事援助をする中で、パートナーとの離婚に関する相談を受けることもある。

④ 支援を提供する上での課題

- サービス担当者会議では情報共有が重要ではあるが、風俗の利用頻度や趣味嗜好等の、利用者の性に関する部分をどこまで情報共有するかどうかについては、慎重に対応していく必要がある。当たり前のように情報共有しないことが、会議参加者全員に必要な心掛けだと考える。
- 支援者の中にも利用者の性の部分に触れたくない方もいるため、その気持ちは尊重したいということについて、支援者への気持ちの確認方法や説明方法は法人ごとに委ねられており、統一的な対応方法は検討できていない状況である。だが、気持ちの尊重ということに関する共通認識は図られている。
- 性教育の役割をどう担うかについては難しい問題である。たとえば、知的障害者にマスターベーションを教えるということについて、家族にも拒否感があり、学校の教員も集団では教えても、個々人に実践的に教えるのは難しい。以前、シングルマザーから、入浴介護中に息子にマスターベーションの方法を教えてほしいという相談もあったが、教えるノウハウがなく、断ったことがあった。本人にとってトラウマ的な経験にならないかということや、マスターベーションは、人にしてもらうのではなく自分でするものであるため、教え方がわからないということが理由だった。
- 就労支援事業所の男女が交際する場合には、就労支援事業所の職員もその交際方法に業務外でどこまで介入すればいいか、悩むところだと考える。ガイドヘルパーとしてそういった事例に関わることはあるが、事業所としての収入が増えるわけでもない。
- 移動支援だけの利用者の場合、相談支援専門員のような人生相談も含めて寄り添えるような支援者との交流がないことも多く、性や男女交際に関する相談を受けた際に対応に困る部分がある。
- 障害の有無に関わらず、気持ちに揺らぎがあることが多い中で、利用者の言葉をどこまで意思決定支援として寄り添うべきなのかが難しいと感じることもある。たとえ

ば、離婚したいと言っていた利用者が、翌週には気持ちが変わり、仲直りしていることもある。

- AVや漫画では、「嫌」と言っているが実際は喜んでいるという描写があり、それをどのように利用者に理解してもらうかが非常に難しい。
- 中度から重度の知的障害者の恋愛、結婚、性交等の経験については、家族、支援者、本人までもが、人生の選択肢に含まれない、関係ないと思っている方も多いように感じており、そのことも課題だと考える。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 特になし。

② その他意見

- 性に関する動画を支援者と利用者で一緒に見ながら話し合えるような資料や教材があると、支援現場でも役に立つと考える。特に性器やマスターベーションに関する内容については、動画があると良い。
- 動画でなくとも、印刷して使えるようなイラスト資料などがあると支援現場でも使いやすい。手作りの性器のぬいぐるみを見たこともある。
- 性に関することをポジティブに捉えられるよう、利用者本人、その家族、関わる支援者に伝えるのは難しいと感じる。どのような声かけが必要になるのかが分からない。

② 社会福祉法人 H

1. 基本情報

図表 132 社会福祉法人 H の基本情報

提供サービス	契約者数	性教育に関する内容		
		実施 有無	情報提供方法	情報の内容
施設入所支援	10 名程度	あり	- 利用者への性教育に関するプログラム・研修等の開催 - 利用者への性教育に関する個別相談	- パーソナルスペース - マスターベーション - プライベートゾーン - 射精、精通、夢精 - 生理 - ジェンダーやセクシュアリティ - 避妊 - 性感染症

① その他の基本情報

- 同法人内で成人を対象とした施設入所支援及び障害児入所施設を運営している。

2. 性、恋愛、結婚等に関する支援について

① 性について

- 障害児入所施設では 10 年程前から性教育を開始し、現在は月に 1 度行っている。利用者の障害支援区分に幅があり、理解力にも差があるため、統一した支援をすることは難しく、軽度障害や高学年を対象としたチームと、重度障害や低学年を対象としたチームに分けて性教育を実施している。
- 施設内で男子同士の性被害や性の処理問題、プライベートスペースの確保が難しいことなどを背景として、性教育を開始した。性教育では、生きていく中で身近な題材について扱っている。性感染症などについては、理解が難しい内容でもあるため、高校を卒業するような利用者を対象に情報提供している。
- 性教育を開始した当初は、参考となる資料も少なく、自作の資料の文字量が多く、理解してもらいづらいものであった。また、性教育の時間が長いと次第に利用者も飽きてきてしまった。そのため、資料の文字数を少なくし、イラストを入れたり、時間も毎回 15 分程度にしたりなどの工夫をした。
- 性教育に関してさらに理解を深めてもらうため、その日一番印象に残った内容を利用者に書いてもらい、回を重ねて反復することを意識している。何度も繰り返すこと

で、パーソナルスペースについて理解が進んできており、「パーソナルスペース」という用語も利用者には広まってきている。利用者の通学先でも性教育を実施していると思われるため、施設側でも性教育を実施することで、更なる反復学習に繋がっている可能性がある。

- パーソナルスペースについては、両手を広げて実演したり、1対1で試してもらったりすることで、どこまで近づくと嫌だと感じるかを体験してもらうような方法を取っている。この方法は高校3年生程度の方々に実施しており、利用者の中には、明確に嫌と言えない人もいた。
- 性教育で取り扱う内容は年間カリキュラムで定めている。性教育を始めた当初は自身（ヒアリング対応者）が1人で作成していたが、現在は若手職員も含めて3名程度でカリキュラムを作成し、既存資料を改良しながら使用している。その日一番印象に残った内容を踏まえ、理解度を測定し、資料を改良することもしている。
- 「近づきすぎではダメだよ」と伝えても、本人に理解してもらい、行動として定着するのが難しいようだ。両手を広げて人との距離を示したり、マスターベーションを人前でしている場合には、トイレや個室に誘導したりしている。
- 手を清潔にすることについては、日常生活の中で教えるようにしている。
- 利用者の生理の周期については、利用者自身がカレンダーに書き込んだり、職員でも記録したりしている。

② 恋愛について

- 恋愛をすることは自然なことであるため、制限はしていないものの、不適切な行動が見られた場合には適宜介入して、交際方法などについて教えることもある。施設内で交際している利用者はいるが、児童ということもあり、手紙交換、手をつなぐという交際方法が多いのが実態である。
- 女性側が自己肯定感を高め、自立し、いざというときに拒否することができなければ、恋愛に依存してしまったり、性被害に遭ったり、望まない妊娠をしたりすることに繋がると考える。自己肯定感を高め、いざというときに断れるような教育をすることが重要であり、日常生活の中でも「選んでいいんだよ」「断ってもいいんだよ」と声掛けをすることを意識している。
- 障害児支援施設の退所後、同じ施設にいた者同士でSNSを通じて繋がり、交際に発展するようなことがある。女性側が親に頼れず、男性に依存するようになり、妊娠・出産するが、子育てもうまくいかず、離婚や育児放棄に繋がるようなケースもある。

- 障害児支援施設を退所しても、20 歳までの方にはアフターフォロー事業があるため、その中で対応することが可能である。アフターフォロー事業が終わっても、繋がりはあるため、相談が来ることもある。
- 成人の施設入所支援では、男性と女性で棟を分けているため、恋愛に関するような相談内容も利用者からないと認識している。

③ 結婚について

- 特になし。

④ 支援を提供する上での課題

- 支援現場ではどこも人材不足だと考える。職員の出勤の増減などシフトを組むときに工夫している。
- 再教育を 10 年実施する中で、パーソナルスペース以外の内容について理解と定着を図るのは難しいと考える。性被害、性加害の予防を考えたカリキュラムを組んでおり、SNS の使い方などについて取り扱うことが難しい。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 生理の周期や妊娠しやすい日などについての理解がないため、望まない妊娠に繋がったり、妊娠に気づかなかつたりすることがある。スマートフォンのアプリでも生理の周期を確認できるため、そのような記載があると良い。

② その他意見

- 視覚的に分かりやすい資料があると良い。大きな画面を皆で共有しながら学んだ方が分かりやすい。

③ 社会福祉法人Ⅰ

1. 基本情報

図表 133 社会福祉法人Ⅰの基本情報

提供サービス	契約者数	性教育に関する内容		
		実施 有無	情報提供方法	情報の内容
グループホーム	10名程度 (区分1～3：約1割、 区分4～6：約9割)	あり	- 利用者への性教育に関する個別相談 - 利用者の家族への性教育に関する個別相談	- パーソナルスペース - プライベートゾーン

① その他の基本情報

- 女性専用のグループホームである。

2. 性、恋愛、結婚等に関する支援について

① 性について

- 性に関して、職員を対象とした研修は特に実施していない。
- パーソナルスペースに関するトラブルは多いため、来年度外部講師を招き、利用者と職員を対象とした研修を企画している。
- 生理周期の把握が必要な利用者に対しては、生理に関する支援を行っている。生理前後に服薬する必要がある人、生理用ナプキンを着用できない人などにも支援している。

② 恋愛について

- これまで、出会い、好きな人、交際相手が欲しいなどといった相談を受けたことはあるが、どう答えてよいか分からないという話を職員間で共有したことがある。
- 自治体が主催するお見合いパーティーに参加したいという利用者がおり、利用者の親が反対して、お見合いパーティーに参加するのに必要な身分証明書を隠し、参加できないようにしたということがあった。その利用者にはアイドルになりたいという夢があり、アイドルになれるという詐欺のようなものに騙されそうになったことがこれまでにあるため、親も心配している状況である。
- インターネット上で知り合った人と交際していると言っている利用者はいる。その他、動画配信をしている利用者があり、インターネット上で出会った同性に会う利用

者もいた。職員間においても、利用者の家族に対しても、適宜情報共有をしながら、インターネットやSNSのリスクについては対応している。

- インターネット上のリスクについては、口頭だけだと理解が難しい利用者もいるため、警察が発行している啓発ポスターや、インターネット上のトラブルに巻き込まれたニュースなどを見せながら説明をすると、理解してくれるようだ。

③ 結婚について

- 特にない。

④ 支援を提供する上での課題

- 利用者のご家族は、心配な気持ちから、恋愛に対して否定的な気持ちを持つ方が多い。障害者同士で結婚している人もいるという話をしたり、相談支援専門員に入ってもらったりしているがなかなか難しい。家族が反対しているため、グループホームとしても、利用者に対して、親に相談しようということしか言えないような現状もある。利用者の意思と家族の意思が異なる場合の対応について一番悩んでいる。
- 性教育を利用者に実施したいと考え、来年度には研修も予定しているが、職員のスキル不足が性教育に関する課題としては大きいと考える。手洗いなどの衛生に関する研修時間はもともと用意されているため、時間が確保できないわけではなく、伝え方が分からないというのが根本的な課題だと考える。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 必要な情報は網羅されているため、特に追加してほしいものはないと考える。

② その他意見

- 利用者にとってどう説明すればよいか分からないことが多いため、ハンドブックや支援の手引きを活用させていただきたい。また、職員の言うことは受け止めてもらいづらいが、ハンドブックなどの資料を見せて説明すると受け止めてもらえるというようなこともあると考える。

③ 社会福祉法人 J

1. 基本情報

図表 134 社会福祉法人 J の基本情報

提供サービス	契約者数	性教育に関する内容		
		実施 有無	情報提供方法	情報の内容
就労継続支援（B型）	40名程度 (区分1～3：約3割、 区分4～6：約6割、 区分なし：約2割)	なし	・ なし	・ なし

① その他の基本情報



2. 性、恋愛、結婚等に関する支援について

② 性について

- 利用者を集めて勉強会を行うようなことはしておらず、交際の中で心配なことが生じた場合に個別に対応をしている。
- 職員研修は行っていないが、情報共有と対応方法の検討のための話し合いの機会はある。
- SNS でやりとりしていた相手の求めに応じて裸の写真を送ってしまった利用者がいた。相手は家族も事業所も知らない人であった。家族が「スマートフォンを持たせるべきでなかった」と考え、その後その利用者はスマートフォンを所持していない。

③ 恋愛について

- 利用者が交際する中で困りごとが生じることは多々あり、当人同士で解決することが難しいものが多いと考えている。これらのケースは、日常の相談支援で話を聞いたり、職員が利用者との会話の中で把握したりすることが多い。必要に応じて事情を把握し、利用者の生活の場であるグループホームや家族などと連携して対応している。
- 恋愛は本人の自由であると考えている。明らかに交際は控えたほうが良い場合であっても、「別れた方が良い」という趣旨の発言は控えるように心掛けている。
- 利用者同士で同棲することになった例があった。女性側の家族が支援しながら実現できており、作業所の様子は適宜家族にも共有していた。2人の生活が乱れ、作業所に

遅刻してしまう、というような場合にも家族と対応方法を相談していた。2人は現在別れているが、金銭の貸し借りによるトラブルも別れてから生じていた。

- 利用者同士で交際した例は他にもある。男性の利用者がもともと交際していた女性の利用者ときちんと別れずに、別の利用者と交際し始め、利用者同士でトラブルになってしまうような事例もあり、そのような場合には適宜助言をしている。
- 学生時代の同級生から連絡があり、詐欺に遭った利用者がある。被害金額も大きく、司法書士も巻き込んで対応に当たっている。利用者本人が会いに行き、相手にスマートフォンを渡してしまったことで、同意したとみなされるようだ。スマートフォンによって出会いの機会が広がっていきやすいことについて、外で他人と会って被害に遭わないかを懸念している。気を付けるべき点について伝えることしかできないと考えている。
- SNS上のトラブルもある。利用者が、別の利用者の不利益になるようなことに言及していたり、行事がないにもかかわらず、行事があると言っていたりする事例がこれまでにあった。

④ 結婚について

- 利用者と家族の意思が異なる場合には、事業所としては中立的な立場として、それぞれの意見を言ってもらう機会を提供するようにしている。利用者本人から家族に意思を説明する機会を提供し、そのためには何を解決しなければいけないかなどの整理をしている。
- 自宅から通所している男性の利用者が結婚したいと相談した事例があった。その際は、家族含めて金銭面での支援が必要である状況であったため、まず金銭的な問題を解決しなければならないという話をした。

⑤ 支援を提供する上での課題

- 性的な知識がない場合に、どこまで利用者に伝えるかについて悩む部分である。情報提供は必要であると考えますが、利用者がどこまで理解できるかは説明してみないと分からない点も多い。
- 作業所から離れ、一般就労することになった場合には、支援の継続が難しくなるため、一般就労する前に何についてどこまで伝えるかという点で課題を感じている。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 十分な内容が記載されていると感じた。
- 交際経験がないと、断ることができず、トラブルに発展することがある。特に同意に関して分かりやすく記載していただけると良い。

② その他意見

- 支援現場で役立つ資料だと考える。

（３）知的障害者を子に持つ親へのヒアリング調査結果

本調査の結果を以下に記載する。

① K

1. 基本情報

図表 135 Kの基本情報

関係性	年代	子の情報							
		子の性別	子の年代	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
母	40代	男性	（非公開）	身体、知的、精神	非該当	親の収入	（非公開）	親	通う場所がある

① その他の基本情報

- 私（母）は看護師、保健師、養護教員として勤務している。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 学校で性教育を受けてはいるものの、問題発生時の対処方法が分からない、適切な場所に相談に行けないということもあるかもしれないと、親としては心配に思う。
- 通院や入院など病院の中で友人関係などの出会いがある場合もある。病院の中で人間関係の構築の仕方や恋愛や結婚等について主治医や相談員等と話し合う方もいる。
- 性教育については、抽象的で想像したり理解したりするのが難しいような場合だと、内容を受けとめられないこともあるかもしれない。被害に遭わないようにするために話をすることで、本当に被害に遭ったような気持ちになってしまったり、気持ち悪いと思ってしまうたりすることもあり、そういった話がつらくなることもあるかもしれない。
- 生理用ナプキンを自分でつけることができない場合や清潔を保てるようナプキンを適切な頻度で交換することが難しい方もおり、学校教員や支援員が支援に入る。
- 家庭でも小学校等での性教育は、本人の理解度や活動範囲に合わせて段階的に本人の理解度や実践状況に合わせてやっていけたらよいと思う。
- 本人の状況に合わせて、本人の行動範囲や交友関係も見守りも大切だと考える。
- 本人の対処状況によっては、産婦人科や療育の主治医や福祉サービス事業所等とも連携して、本人の心身を守れるよう統一した性的教育や生殖器の変化に合わせたケアが

必要だと思う。子どもの活動場所に親がずっといる訳ではないので、家族だけでは対応できない。学校や福祉サービス事業所等の協力をお願いしたいと思う。

- 性に関することは当事者や家族のプライバシーを守り、周囲にも配慮出来るよう、家族や支援者等は、そのような場面では介入をして、その子も周囲の人も守れるようにできたらと思う。
- 性教育については、恥ずかしい、侮辱された気持ちになるなど、侵襲性が高いテーマを取り扱うことになる。そのような気持ちを持つことを防ぎながら、本人が受け止めていけるように、支援者は真面目に尊厳を持って対応する必要があると考えている。支援の現場では性に関するような内容をどう扱ってよいかは、学校や通所の福祉サービス事業所等で具体的に支援計画が本人や家族と共有されたら、年齢や理解度に応じたケアしやすいかもしれない。そして、そのケアが途切れることなく継続的に実施されるとよいと思う。
- 性に関して軽々しく扱うことがあってはならず、人権や尊厳が守られるよう、職員間で共有するときもプライバシー等に配慮すべきである。また、相談しづらいと思われないう、留意して取り扱うべき内容である。

② 恋愛について

- 今は特になし。

③ 結婚について

- 今は特になし。

④ 希望する支援

- 性に関しては、一回限りの教育機会とするのではなく、理解して行動に移せるようになり、継続できるよう伴走するような支援が必要だと考える。
- さまざまな関係機関や病院などで性に関して周知ができるよう、啓発ポスターのようなものが掲示されていると良いと考える。
- 親や大人を巻き込んだ継続した居場所づくりができると良いのではないかな。

⑤ その他

- 特になし。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 困ったことがあったら教えてほしいということを、まず支援者が知的障害者本人に伝えることが重要であるとする。どこに相談すべきであるかも書くといいのではない。
- 視覚的で簡潔であると情報が理解し行動に移しやすいかもしれない。
- うまく説明できない、思いを言葉にしづらい方もおり、支援者や窓口が身近で普段からよく関わっているところからアクセスしやすいとありがたい。
- 一人で相談や受診に行くより、同伴支援を行う相談員等がいて下さると実行に移しやすく、適切な対処ができるかもしれない。

② その他意見

- 今回のハンドブックの内容から、その対象は、一人で手に取って読み、行動ができる、ある程度理解できる方と感じた。
- 支援級や支援学校に在籍されていた方などにとっては難しい内容になっている部分もあるとも考える。そういった方には子ども向けの性教育に関するテキストから段階的に用いて支援すると良いかもしれない。
- 支援者と一緒に読むという方法は良いと考える。普段から関わっているような支援者や家族等身近な信頼関係のある方と使用するのが良いとも考える。また、内容を咀嚼し、理解するのに時間がかかる方もいる。ハンドブックは、支援者も一つ一つの内容について丁寧に取り組んでほしいと考える。時間を置いて振り返りの機会を設けることも重要であると思う。
- 受け入れられる許容範囲を考慮しつつ、ハンドブックを使って性の学びを進めていけると良い。生理の話を聞くと、妊娠などが怖くて生理や、自分や他者の体のこと等を受けとめられなくなる方もいるかもしれない。その方の理解度や受け止め方に応じて段階的に学びが進められるような構成になっていると良い。
- さまざまな用語や言い回しがあると混乱が生じてしまうため、簡単な用語に統一すると良いのではないかと。
- 産婦人科、障害福祉サービス等事業所、精神科病院、刑務所などさまざまな場所にいる方を想定し、これらの場所にいる支援者にもハンドブックを周知したら良いと考える。

② L

1. 基本情報

図表 136 Lの基本情報

関係性	年代	子の情報							
		子の性別	子の年代	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
母	50代	男性	20代	知的	区分5	障害年金	自分や家族の持ち家	親、きょうだい	週3通所

① その他の基本情報

- 息子が2人おり、次男（以下「本人」という。）に重度知的障害を伴う自閉症がある。
- 3か所の事業所に週1ずつ通い、それ以外は自宅で過ごしている。
- 文字が分かるため、視覚支援が有効である。
- 本人に伝えたいことがある場合には、一語文で表現する。
- 私（母）も作業所や地域活動支援センターで勤務している。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 一語文の使用が主であるため、本人が何に悩んでいるかは想像することしかできないが、親としては20代の男性として見て、マスターベーションについても、一人の空間ですのであれば、してはいけないことではないとしている。
- マスターベーションに関しては、手順が分からない、ティッシュを使わない、下着の中に射精してしまう（その後洗濯に出さない）等が見受けられ、衛生面では課題があると考えている。
- 射精した後の下着をそのまま履くのはやめてほしいと伝えてはいるものの、自主的に履き替えることはあまりなく、マスターベーションを数回することを見越しているのではないかと想像できる。
- マスターベーションの補助具を使わせようかと考えている母親も周囲にはいるが、ハマってしまい何個も必要になるのではないかと懸念から、その存在を伝えていない。
- マスターベーションなどの性的なことについては、他の親ともオープンに話しているが、本人より下の年齢の子がいる親には生々しいと思われるかもしれないため、話さないようにしている。

- 接触するわけではないが、女の子をじっとみていることがあり、周囲に変に思われな
いか心配になることがある。
- 中軽度の知的障害者には悩みも多いと考える。通所事業所では、利用者のボディタッ
チが多いこともあり、「触らないでください」ということを伝えている。

② 恋愛について

- 特になし。

③ 結婚について

- 特になし。

④ 希望する支援

- 本人は人間関係を求めているタイプではないため、出会いの場は必要ではないが、障
害者全体を考えると出会いの場は必要だと思う。休みの日に行く場所がなく、お金も
ないが誰かと喋りたいということで、勤務先の作業所や地域活動支援センターに来る
方々も多い。
- 今後本人が生きていくために必要なことは多くある。10代から20代にかけて2年間
程度グループホームの利用を試してみたが、無断で実家に帰ってくることが多く、利
用を中断している。

⑤ その他

- 聴覚過敏等の感覚過敏があり、小さい頃は外に連れていけないことも多かった。現在
もイヤーマフを付けていることがある。
- イヤーマフを付けた上で、テレビを大音量で観るのが好きなようで、将来実家から離
れて暮らすかもしれない、その場所ではそういった過ごし方が容認されるのかを考えると
心が痛い。
- 高校2年生までは、学校は行かなくてはいけないところだと思っていたようだったが、
重度障害の子もいる支援学校に通っており、尿をかけられるなどのいじめに遭っ
ていたようだった。修学旅行に行きたくないという意思表示を初めてしてから、学
校に通えなくなった。親としては、本人のその意思を尊重し、学校にもその旨伝えて
いた。人がいない教室に通うところから始め、卒業式には「行きます」という選択肢
に丸をつけて、出席した。その経験から「嫌」と言ってもいいことを理解した。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 人との距離感について掲載してほしい。
- SNS のマナーについても掲載してほしい。SNS に関するトラブルは周囲でも非常に多く、文章のみのやりとりにおけるエチケットが分かるようになってほしいと考えている。たとえば、相手からの返事がないのにたくさん送信してしまったり、返事が来ると「交際できている」と思い込んでしまったりなどがある。
- また、SNS やインターネット上で物を売られそうになったり、契約させられそうになったりということもある。職場でも、やりとりできることに喜びを感じて、いつ会うのかなどの話を聞く中で、実は危ないことに巻き込まれていることが発覚したことがある。
- 身体障害者用トイレを2人で使ってしまう方も周囲にはいるため、本来の使い方を説明する必要があると考える。

② その他意見

- 本が分厚いと本人も読まないため、ハンドブック程度のページ数であると良い。
- 取組自体が素晴らしく、完成したら職場でも周知していきたい。

③ M

1. 基本情報

図表 137 Mの基本情報

関係性	年代	子の情報							
		子の性別	子の年代	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
父	60代	男性	20代	知的	区分なし	自身で働いて稼いだお金、障害年金	自分や家族の持ち家	親、きょうだい	働いている

① その他の基本情報

- 息子が2人おり、長男（30代）には発達障害、次男（20代）には知的障害がある。
- 長男はアルバイトで生活しており、次男は事業所に通っている。
- 私、妻、長男、次男の4人で暮らしている。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 長男が個人のPCで「卑猥な動画」を見てしまうことが多く、親としては少し困っている。ただその動画は自分の部屋で見ているようで、PCのデスクトップ画面に、その動画を再生するようなアプリのアイコンがあって認識した。
- 長男・次男から性に関する相談を受けたことはなく、性に関して周囲を困らせる行動は特段これまで見受けられていない。
- 家族は自宅だと服を着ないで過ごすこともあり、男女の身体の違いは自然と理解しているのではないかと考える。
- 親の会の本人部会で性に関する情報を私から1度説明したことがある。その会には次男が参加していた。その1回の会で、好きになること、人への近づき方、同意をもらう方法、避妊の方法などについて話した。参加者は「それくらい知っているよ」というような反応で、学校で性教育を受けているようだった。

② 恋愛について

- 恋愛は素敵なことであるため、長男・次男に経験してほしいと考えている。
- 長男が仕事で稼いだお金をキャバクラで浪費してしまうことがあり、親としては、異性との違う出会い方があれば良いと考えている。キャバクラに行くようになったきっかけはおそらくインターネットの情報である。長男に交際経験はこれまでないと思う。

- 長男にも次男にも人との距離感をつかみづらいという障害特性がある。兄に関しては、他人に近すぎる傾向があり、これまで数回トラブルになったこともある。たとえば、以前インターネット上で知り合った同性の人のところに泊まりに行くようなこともあった。その後は会っていないようだが、関係性をうまく作れなかったと長男は言っていた。そういうときは親として、あまり追及しないようにしており、経験値を積んで理解してもらいたいと考えている。
- 次男は、通っている作業所で、同性の友人に対して好感を覚えており、恋愛対象として誰かを見ているようなことはないを考える。この件については以前作業所の支援者との3者面談で話があった。

③ 結婚について

- 長男あるいは次男が将来結婚したり、子どもを育てたりすることになった場合、心配なのは経済的なことである。それ以外は、なるようにしかならないと考えているため、そこまで心配はしていない。

④ 希望する支援

- 出会いに関するコミュニティを作ったり紹介したりするようなサービスがあると良いのではないかと。
- 障害者同士だとコミュニケーションが進みづらいというようなこともある。障害者と健常者の場合、障害種別が異なる場合などだとコミュニケーションも進むのではないかと考えているため、そういう交流の場があれば良い。

⑤ その他

- 障害の有無にかかわらず、社会一般的に未婚率が上がっていたり、晩婚化が進んでいたりする。障害者だから特別結婚していないというわけではないのではないかと考える。
- 一方、健常者であればマッチングアプリなどの手段も活用可能だが、知的障害があると携帯を使いづらい方もいるため、健常者より出会いの機会が限られるとも言える。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 人との距離感のつかみ方や、挨拶を大切にすることなどを記載すると良い。
- 交際する場合には第三者に伝えたり、相談したりするように働きかけられると、支援が必要な時に対応しやすくなると考える。

② その他意見

- ハンドブックは良くできていると考える。
- 恋愛対象が異性の場合、異性と握手することから、性教育に関する取り組みを始めてみるのも良いと考える。

④ N

1. 基本情報

図表 138 Nの基本情報

関係性	年代	子の情報							
		子の性別	子の年代	障害種別	障害支援区分	収入源	居住場所	同居人	日中の過ごし方
母	60代	男性	30代	知的	区分なし	自身で働いて稼いだお金、障害年金	自分や家族の持ち家	親	働いている

① その他の基本情報

- 息子（以下「本人」という。）には学習障害がある。
- 本人は清掃に関する仕事をしている。
- 私、夫、本人の3人で暮らしている。

2. 性、恋愛、結婚等に関する悩みや支援

① 性について

- 本人に性の問題があるかについては認識していない。本人がマスターベーションをしているのかも分からない。シーツが汚れていたこともなく、そのような様子を見たこともない。
- 部屋の掃除をする際に性的な写真を見つけることもあるが、本人は「要らない」というので処分している。興味があるためそのような雑誌を購入しているのではないかと考えている。
- 本人に確認したところ、性教育を学校で受けたかどうかについては覚えていないとのことだった。

② 恋愛について

- これまで本人に恋愛経験はないと認識している。本人が高校生の時、好きな人がいるような様子はあったが、おそらく交際するには至っていないと考える。
- 本人には出会いもなく、女性とどのようにコミュニケーションを取ればいいのか分からないのではないかと考えている。たとえば職場に通勤する途中にいる近所の女性とは仲良く会話する関係性で人気者だが、若い女性とはうまくコミュニケーションが取れない。若い女性とコミュニケーションが取れないのは、相手の趣味、好きなこと、大切にしていること、好きな食べ物などを聞いて話を広げていくことができないことが背景にあるのではないかと考えている。

- 職場の人間関係については本人から相談を受けたことがあるが、女性との付き合い方などについては相談を受けたことがない。おそらく母親に恋愛の話はしづらいのと思う。本人が高校生の時には、大学生がサポートにボランティアとして入るようなことがあった。そのような、お兄さん、お姉さんのような関係性の人には相談がしやすいのではないだろうか。
- 知的障害者が集まる会にも本人は参加しており、役も持っているが、その会で出会う人を恋愛対象としては見ていないように見受ける。

③ 結婚について

- 本人は結婚したい、子どもがほしいという希望があるようだが、地域の出会いイベントには参加したくないようだ。そのイベントは障害者以外の方も参加するものである。参加したくない理由は恥ずかしさなのか、自身がないからなのかは分からない。
- 本人が望んでいるのであれば、結婚や出産も親として支援したいと考えている。本人は姪っ子（本人から見ているところ）のこともとても可愛がっているため、子どもは好きだと思う。

④ 希望する支援

- 子育ては障害がなくても難しい。知的障害があるのであれば、より日々の支援が必要となる。24時間サポートできるようなところはないと考えているものの、そのようなサービスがあれば良い。
- 知的障害者同士で結婚して出産した事例について聞いたことがある。現在は子どもと離れて暮らしているようで、本人たちは自分自身が何に困っているか分からずに相談に行かないことが多いのだと考える。利用できるサービスがあったとしても、そのサービスについて理解したり、利用するまでの手続きに難しさがあつたりするため、そのサービスまでつなげる役割を担う人がいることが重要である。その事例では、ヘルパーや保健師が定期的に家を訪問しているとのことだったが、相談支援事業所なども含めて定期的に気に掛けるような体制を構築する必要がある。
- 事業所には人材不足という課題があるのではないかと考えている。ただ人手を増やすのではなく、障害に対する理解や思いがあるような支援者を育成していくことが重要である。

⑤ その他

- 特にない。

3. ハンドブック、支援の手引き

① 掲載してほしい内容

- 体の変化やセックス、妊娠することについて、他の生物や動物と同様にそれらは自然なことであるという説明の仕方が、親としては実施しやすいと考える。
- 避妊をすること、その方法についても重要である。知的障害があると、理解できていない場合であっても「うん」と答えてしまう方がいる。コンドームなど実物を用いながら説明をすることが重要だと考える。

② その他意見

- 息子本人だけでなく他の障害者にもこういうハンドブックがあることを伝えられると良い。

4. シンポジウムの開催

令和7年1月27日に実施した「知的障害者の性や恋愛・結婚等についてのシンポジウム～自身が望む生き方の実現のために～」の実施概要、事後アンケートの結果について記載する。

(1) シンポジウムの実施概要

シンポジウムは、より多くの方からの参加を受け付けるため、対面及びオンラインのハイブリッド開催とした。

図表 139 シンポジウムの実施概要

項目	内容
シンポジウム名	知的障害者の性や恋愛・結婚等についてのシンポジウム ～自身が望む生き方の実現のために～
開催日程	令和7年1月27日（月） 14～17時
参加者	知的障害者の性や恋愛・結婚等の実態や支援方法に関心がある方
開催目的	- 知的障害者本人の意思を尊重した情報提供や支援の在り方への機運を高めること - 特に知的障害者の性教育、恋愛、結婚等に関する支援の重要性を認識すること
開催方法	対面開催（定員100名程度）とオンライン配信（Zoom配信）の ハイブリッド開催
開催場所	Otemachi One Tower 18階 Seminar Room 01+02 （東京都千代田区大手町1-2-1）
周知方法	周知用のリーフレットをもとに、幅広い団体に周知への協力を依頼
プログラム	- 開会挨拶（厚生労働省） - 事務局からのご説明（PwCコンサルティング合同会社） - 基調講演「知的障害者の性や恋愛・結婚等について～自身が望む生き方の実現のために～」 （京都教育大学 総合教育臨床センター 講師 門下祐子 氏） - プレゼンテーション（社会福祉法人南高愛隣会、社会福祉法人愛育会） - パネルディスカッション （進行：日本社会事業大学 専門職大学院 教授 曽根直樹 氏、 パネリスト：京都教育大学 総合教育臨床センター 講師 門下祐子 氏、 社会福祉法人南愛隣会、社会福祉法人愛育会）
申込者数	1,385名

なお、本シンポジウムには1,385名からの申し込みがあった。①当日のオンライン配信（Zoom配信）では機材トラブルによって、冒頭配信が見られない状況になった方がいたこと、②アーカイブ配信への希望が申込者から多く寄せられたことを背景に、3月3日（月）～24日（月）の期間限定で、申込者を対象としたアーカイブ配信を実施した。期間中、アーカイブ配信の各動画は200回近く再生された。

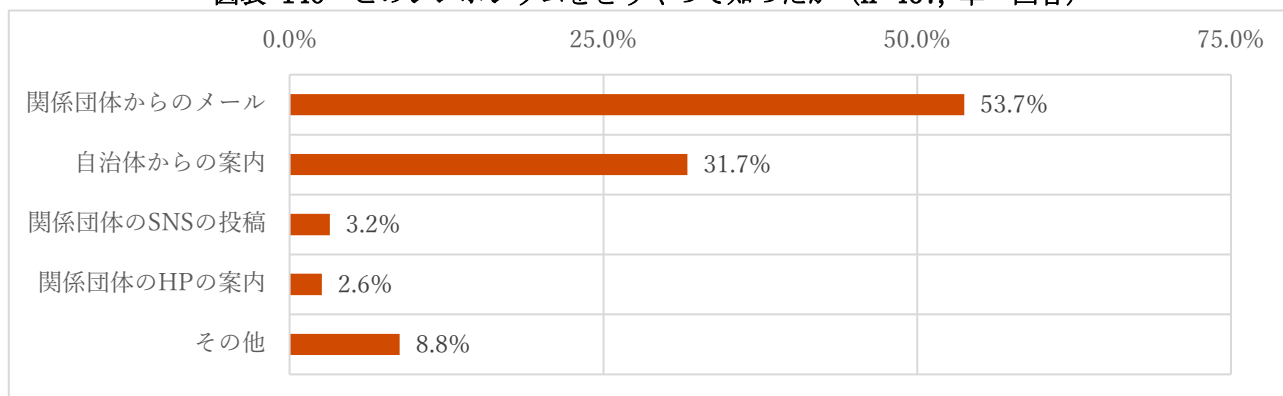
(2) 事後アンケートの結果

I. シンポジウムを知った方法・回答者の属性

本シンポジウムを知った経路としては、「関係団体からのメール」が約5割と最多、次いで「自治体からの案内」が約3割であった。回答者の属性としては、「障害福祉サービス等の支援者」が約7割、次いで「障害児支援の関係者」が約1割であった。

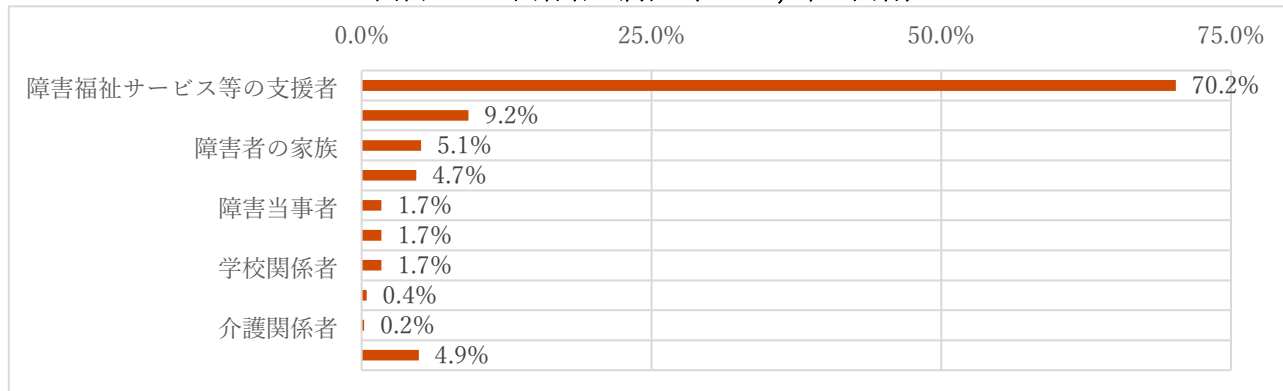
1. シンポジウムを知った方法

図表 140 このシンポジウムをどうやって知ったか (n=467, 単一回答)



2. 回答者の属性

図表 141 回答者の属性 (n=467, 単一回答)

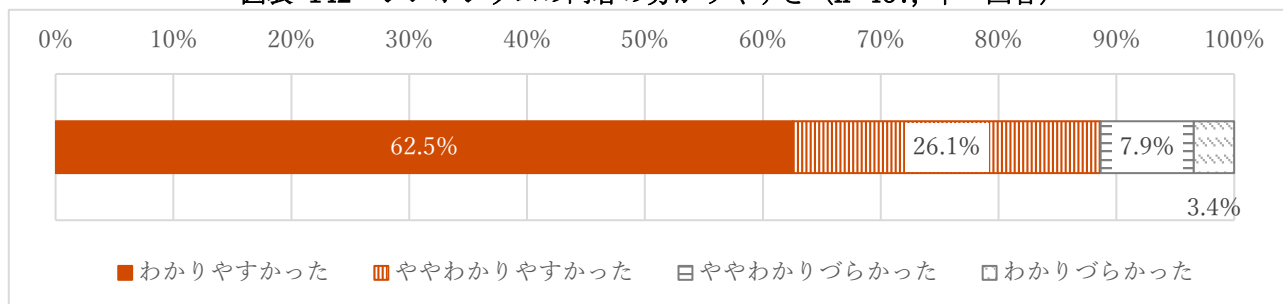


Ⅱ. シンポジウムの内容のわかりやすさ・満足度

シンポジウムの内容のわかりやすさは約9割が「わかりやすかった／ややわかりやすかった」と回答し、内容の満足度についても約9割が「満足している／やや満足している」と回答した。

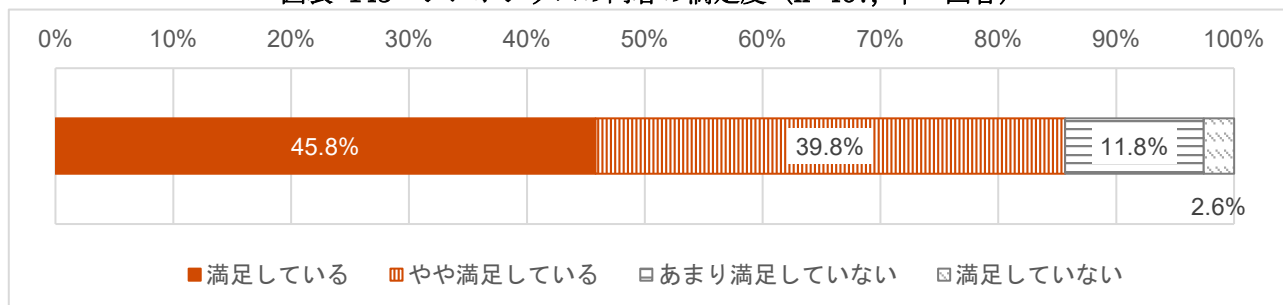
1. シンポジウムの内容のわかりやすさ

図表 142 シンポジウムの内容の分かりやすさ (n=467, 単一回答)



2. シンポジウムの内容の満足度

図表 143 シンポジウムの内容の満足度 (n=467, 単一回答)

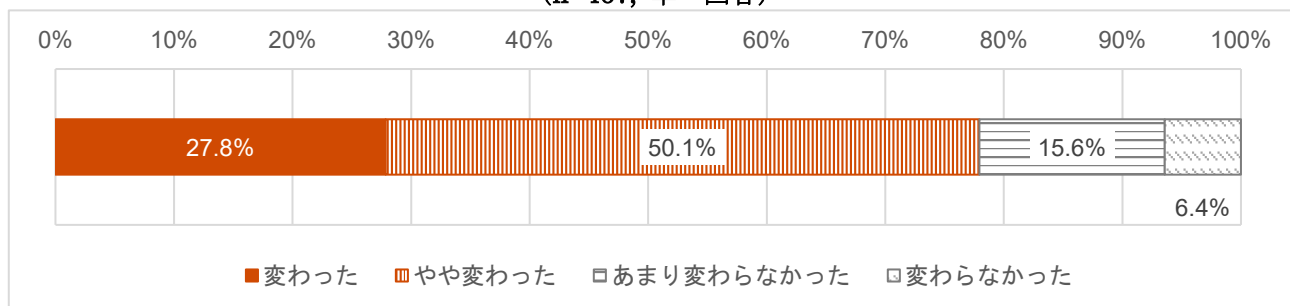


Ⅲ. シンポジウムを踏まえた認識の変化・ハンドブックの活用意向

シンポジウムを踏まえた認識の変化について、「やや変わった」が約5割と最多、次いで「変わった」が約3割であった。ハンドブックや支援の手引きの今後の活用意向については、約97%が「思った／やや思った」と回答した。

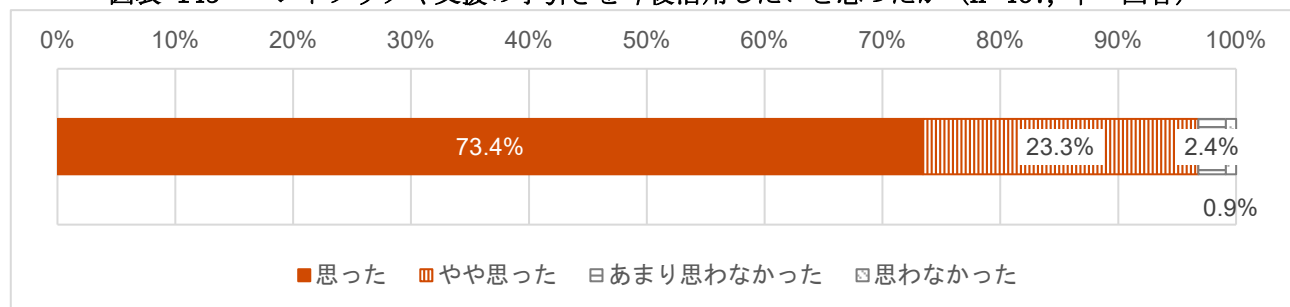
1. シンポジウムを踏まえた認識の変化

図表 144 シンポジウムの内容を踏まえて、知的障害がある人の性や恋愛に対する認識は変わったか (n=467, 単一回答)



2. ハンドブックの活用意向

図表 145 ハンドブックや支援の手引きを今後活用したいと思ったか (n=467, 単一回答)



5. ハンドブック及び支援の手引き

本事業で作成したハンドブック及び支援の手引きについて記載する。

(1) ハンドブック及び支援の手引きの概要

①対象者・目的・活用方法

ハンドブック及び支援の手引きの対象者、目的、活用方法は以下のとおりである。

図表 146 ハンドブック及び支援の手引きの概要

	ハンドブック	支援の手引き
名称	人とのかかわり・からだ・恋愛・セックスを学びたい人のハンドブック	
対象者	知的障害者	- 知的障害者の支援者 - 知的障害者の家族
目的	知的障害者をはじめとする全ての人が、自分自身も他者の体のこと、恋愛やセックスを含む人との関わりなど、生きていく上での基本となる「性」について学ぶ	- 知的障害者本人、家族、支援者それぞれが、自分自身や他の人の権利や幸せについて考え、対話するきっかけにすること - 性に関する学びを、知的障害者本人、家族、支援者が一緒に行うことで、性に関してみんなで前向きに受け止めること
活用方法	- ひとりで読むこともでき、支援者や家族と一緒に読んで対話のきっかけにすることもできる - 該当箇所のみ読むということもできるよう、適宜項目ごとに分けて学ぶことができる	ハンドブックを活用する中で、説明の方法や日常支援において分からない点、疑問に思った点などを解消し、ハンドブックをより効果的に活用することができる

②構成

ハンドブック及び支援の手引きの構成は以下のとおりである。

本構成及び内容を作成するにあたり、アンケート調査結果を参考にしつつ、ヒアリング調査結果における知的障害者本人、親、支援者への意見聴取も行った。

図表 147 ハンドブックの構成

大項目	小項目
自分のことは自分で選んでいい	• 自分たちの思いがあるんだ ➤ 選ぶことを支援してもらえる • やり直してもいい？ ➤ やり直しも大切な経験
からだの権利	• 「腕1本分離れよう」と言われても... ➤ からだの感覚はそれぞれちがう • 断るのは勇気がいるね ➤ お互いの「いや」を受けとめあえる関係づくり
からだのこと	• 「生理」ってこんなこと ➤ 生理で起こるからだの不調 • どんなときにさわる？ ➤ 自分の性器をさわるのは...
いろいろな人間関係	• 好きな人とのふれあい ➤ セックスをするときには • いろいろな家族がいる ➤ 暮らし方の例 ➤ 好きな人との暮らし方

支援の手引きでは、ハンドブックにある4コマ漫画の解説を入れたり、シンポジウムの「パネルディスカッション」のプログラム中に募集した質問への回答という建付けでQ&Aコーナーなどを設けたりした。

図表 148 支援の手引きの構成

大項目	小項目
自分のことは自分で選んでいい	• 本人の意思を尊重すること • 意思決定支援
からだの権利	• 一人ひとりに「からだの権利」がある • 一人ひとりのパーソナルスペース • リボンゲーム • 同意 • サイコロゲーム • 予期せぬ事態のときには
からだのこと	• 「生理」の伝え方 • 「生理」の対応方法の伝え方 • 「射精」の伝え方 • 「マスターベーション」の伝え方 • 男女のからだの仕組みの違い
いろいろな人間関係	• 好きな人とのふれあい・性行為（セックス） • 避妊方法 • 出合いの支援 • 恋愛相談への対応 • 活用できる制度・サービス • いろいろな人間関係があること

6. まとめ

アンケート調査及びヒアリング調査のまとめを本章で示す。

(1) アンケート調査結果のまとめ

① 事業所における性に関する情報提供の実態

事業所における性に関する情報提供としては、利用者への性教育を実施していると答えた事業所が約半数と多かったものの、その取組の実態についてはヒアリング調査で深掘りすることとした。また、性教育に関する支援で実施しているものとしては、利用者への個別相談での対応が最も多く、利用者複数人に対して性に関するプログラムや説明会、学習会を実施しているような事業所は少数にとどまる結果となっている。

- ✓ 事業所への調査において、性教育に関する支援を実施しているかについて、「はい」が約5割
- ✓ 事業所への調査において、性教育に関する支援で実施しているものについて、「利用者への性教育に関する個別相談」が最多の約8割で、「利用者の家族への性教育に関する個別相談」は3割、「利用者への性教育に関するプログラム・研修・説明会等の開催」が約2割、「利用者の家族への性教育に関するプログラム・研修・説明会等の開催」が約1割

② 性に関する情報提供で取り扱っている内容

性教育については、支援者や親が、知的障害者本人のパーソナルスペースやプライベートゾーンに関する事柄について悩んだことがあるということを背景に、パーソナルスペースやプライベートゾーンのような内容を優先的に提供しているのではないかと考えられる。

- ✓ 知的障害者本人への調査において、性について知ったこととしては、「ほかの人に近づきすぎてはいけないことについて」が最多の約5割で、次いで「見られたりさわられたりしたくない体の大切な部分について」が約4割
- ✓ 親への調査において、親が実施した性教育の内容としては、「人と人との適切な距離感（パーソナルスペース）について」が約7割、次いで「プライベートゾーンについて」が約6割
- ✓ 親への調査において、子どもの性のことで悩んだ内容について、「子どもが人と人との適切な距離感について理解できない」、「性に関してどのように説明すればいいのかわからない」が約5割
- ✓ 事業所への調査において、性教育の実施内容について「パーソナルスペースについて」が約9割で、次いで「プライベートについて」「生理について」が各7割でそれ以外の項目は4割未満

また、パーソナルスペースやプライベートゾーンのような内容が優先的に情報提供されている背景としては、その他のセックスや避妊、マスターベーション、射精、ジェンダー等については具体的な説明方法が分からないということもあると考えられる。これらの包括的な性教育の実施を促進するためには、性支援に関する職員教育や親への情報提供等の取組を促進する必要がある。その際には、地域の保健師等の関係者とも連携することが考えられる。

- ✓ 親への調査において、親が性教育をしなかった理由について、「性教育の具体的な方法がわからなかったから」が最多の約5割
- ✓ 事業所への調査において、性教育に関する支援の課題として、「機会や人的リソースが不足している」が約7割、「性支援に関する職員教育の機会が無い」が約6割、「利用者の状況に応じた性教育を行う方法がわからない」が約5割

③ 出会いの機会

当事者からの悩みとしては出会いの機会がないことや、希望としては出会いの機会を提供してほしいという結果が出ているものの、事業所としてはどのような出会いの機会を提供すればよいかわからず、機会や人的リソースが不足している点も課題となっている点が明らかになった。どのような出会いの機会が求められているのかについては、ヒアリング調査で深掘りを行った。

- ✓ 知的障害者本人への調査において、付き合い始めるときや付き合いときの悩みについて、「恋人になる人と出会う機会がない」が最多の5割強で、次いで「どうやって仲良くなればいいのかわからない」が5割弱
- ✓ 知的障害者本人への調査において、普段の生活で恋人になる人に出会う機会について、「ない」が最多の4割、次いで「わからない」が約3割
- ✓ 知的障害者本人への調査において、同棲していない理由や同棲の悩みについて、「同棲したいと思える相手と出会っていない」が最多の約6割
- ✓ 知的障害者本人への調査において、結婚についての悩みについて、「結婚したいと思える相手と出会っていない」が最多の約8割
- ✓ 知的障害者本人への調査において、子どもを生むことや育てることで悩んだこと・悩んでいることについて、「パートナーがいらない・出会っていない」が最多の約8割
- ✓ 知的障害者本人への調査において、これからしてほしい支援としては、「恋人や結婚相手になる人と出会う機会をつくってくれる」が約3割
- ✓ 事業所への調査において、出会いに関する支援を実施しているかについて、「いいえ」が訳10割
- ✓ 事業所への調査において、出会いに関する支援の課題について、「出会いに関する具体的な支援方法がわからない」が最多の5割強、次いで「出会いに関する支援を行う機会や人的リソースが不足している」が5割弱

④ 性教育、恋愛、出会いに関する支援を実施する上での課題

性教育、恋愛、出会いに関する支援を実施する上での課題としては以下のような結果となっており、具体的な支援方法が分からないこと、機会や人的リソースが不足していることが挙げられ

た。当該課題を踏まえた支援現場での工夫の方法については、ヒアリング調査で深掘りを行った。

- ✓ 親への調査において、子どもに性教育をした経験について、「いいえ」が約5割
- ✓ 親への調査において、性教育をしなかった理由について、「性教育の具体的な方法がわからなかったから」が最多の約5割
- ✓ 事業所への調査において、性教育及び恋愛に関する支援を実施しているのは約5割
- ✓ 事業所への調査において、出会いに関する支援を実施しているのは1割にも満たない
- ✓ 事業所への調査において、性教育に関する支援の課題としては、「機会や人的リソースが不足している」が約7割、「性支援に関する職員教育の機会が無い」が約6割、「利用者の状況に応じた性教育を行う方法がわからない」が約5割
- ✓ 事業所への調査において、出会いに関する支援の課題としては、「具体的な支援方法がわからない」、「機会や人的リソースが不足している」がそれぞれ約5割
- ✓ 事業所への調査において、恋愛に関する支援の課題としては、「具体的な支援方法がわからない」、「機会や人的リソースが不足している」が約5割

⑤ 結婚・妊娠・出産・子育ての支援における課題

結婚・妊娠・出産・子育ての支援において、金銭的な不安に係る課題が多く寄せられており、知的障害者の経済的支援に関する助成制度等の活用や関係する支援機関の利用を進めていくために、自治体との連携を促進するための方策が必要である。なお、本調査では、結婚・妊娠・出産・子育てに関する回答数が少なく、知的障害者が結婚するような事例があまりないこともその背景として考えられる。

- ✓ 知的障害者本人への調査において、同棲していない理由や同棲の悩みについて、「同棲した後のお金のことが不安」が5割
- ✓ 知的障害者本人への調査において、結婚についての悩みとして、「結婚した後のお金のことが不安」が約3割
- ✓ 親への調査において、子どもの性、出会い、恋愛、結婚等で受けた支援について、「子どものお金の管理について相談に乗ってくれるサービス」が最多の約4割
- ✓ 事業所への調査において、結婚・妊娠・出産・子育てについて、支援会議等を通じて連携している母子保健・児童福祉の支援機関等は「市町村の母子保健・子育て支援部局」が最多の約5割
- ✓ 事業所への調査において、結婚・妊娠・出産・子育ての課題としては、「経済的な面における自立に向けた見通しが立たない」が最多の約6割、「障害者の子育てを支える見守り・相談を行う支援機関が乏しい」が約5割

(2) ヒアリング調査結果のまとめ

① 事業所における性に関する情報提供の実態

事業所における性に関する情報提供としては、パーソナルスペースやプライベートゾーンのような事柄に関するトラブルが発生した際に、利用者への個別対応として、それらに関する情報提供を行っているという話が多かった。

なお、利用者複数人に対して性に関するプログラムや説明会、学習会を実施しているような事業所では、利用者が実際に理解し、行動変容が見られるようになるまで、繰り返し学びの機会を提供することが必要だという意見が挙がった。また、それらのプログラム等を実施していない事業所からは、実施したいと考えているものの、そのノウハウがないという声が寄せられた。外部の有識者を招いて講義を行うような取組を検討している事業所も見られ、事業所によって取り組み状況は様々であった。

② 性に関する情報提供で取り扱っている内容

性教育については、アンケート調査の結果と同様に、親も事業所も、パーソナルスペースやプライベートゾーンのような内容を優先的に提供しているという結果が得られた。それ以外の内容については、どのように説明すればよいか分からないという課題があることもヒアリング調査で改めて明らかになったところである。

また、パーソナルスペースについては、安心できる距離感がひとりひとり異なるという教え方というよりは、腕を広げて距離を測り、これ以上近寄ってはいけないという教え方をしているという事業所もあった。これは、知的障害者本人による性加害や性被害を予防するために実施しているということであり、抑制の文脈で語られることが支援現場ではあるということが推察される。

③ 出会いの機会

当事者からは、出会いの場が欲しいという声が寄せられた。具体的には、恋愛したいと思えるような相手と出会える場が欲しいということや、知的障害者何名かで集まって話し合ったり、悩みを相談したりするような場や機会がもっと増えてほしいということであった。

親からも、知的障害者本人にとって出会いの場は必要であると考えられるという声が聞かれた。出会いの場は、必ずしも恋愛を念頭に置いた出会いの場である必要はなく、地域の中で居場所だと感じられるような集まりがあると良いということであった。また、人との関わりを広げたいかどうかは人によって異なるため、必ずしも知的障害者全員が出会いの場を必要としているわけではないという意見も挙がった。

④ 性教育、恋愛、出会いに関する支援を実施する上での課題・ハンドブックの活用及び周知

性教育、恋愛、出会いに関する支援を促進していくための課題としては、人的リソースが不足しているというよりは、具体的な支援方法がわからないことの方が大きいという意見が事業所から挙げられた。

本事業で作成したハンドブックに対し、「期待している」、「作成されたらぜひ活用して周知していきたい」というような声を、知的障害者本人、親、事業所へのヒアリングでも頂戴した。ハンドブックや支援の手引き等のツールを活用いただきながら、取組を促進していただきたい。

また、ハンドブック及び支援の手引きについては、特別支援学校や定時制・通信制の高校でも取り扱ってほしいという意見が親へのヒアリングで得られた。ハンドブック及び支援の手引きについては、学校や自治体とも連携した周知活動が重要だと言える。

⑤ 恋愛に関する支援についての知的障害者本人からの希望

マッチングアプリの使用や出会いのイベントへの参加について、知的障害者本人が希望した場合であっても、親が心配であるということを理由に、本人の行動を制限してしまったり、制限するような助言をしてしまったりするような実態があることが明らかになった。また、事業所からも、知的障害者本人と親との間で意思が異なる場合の対応について悩みがあるということや、事業所の外で起こりかねない犯罪に巻き込まれないよう、日常的な働きかけに努めているという声が挙がった。

(3) 考察

① 性教育の実態及び取組促進について

性教育を事業所内で実施しているかについては、事業所によってその取組の状況は様々であることが明らかになった。個別相談に留まる場合や、複数人の利用者に対するプログラムや勉強会等を実施しているような場合など、実施内容に関しても様々であり、その情報提供の仕方についても、性犯罪に巻き込まれないようにするという目的で実施している場合もあれば、豊かな生活という目的で性サービスへのつながりを行っているような例も見られた。

知的障害者本人、事業所、親いずれのヒアリングにおいても、知的障害者の友人や利用者、知り合いが性犯罪や詐欺に巻き込まれたという話を聞いたことがあるという声が多く、それらへの不安や予防のために性教育を実施するような事業所が多いことが推察される。一方、検討委員会においては、性に関してポジティブな側面に着目し、知的障害者本人が幸せになれるよう、事業所職員や親が性に関する情報提供に取り組んでいくべきだという意見が挙げられた。そのような取組を通じて、結果的に事業所職員や親も含めた皆が幸せになることにつながるのではないだろうか。

包括的性教育のように、人権をベースとし、互いを尊重し、より豊かな人間関係を築くことを目指すため、性教育のポジティブな側面に焦点を合わせた支援現場での対応が重要であると考えられる。支援現場では、具体的な性教育の実施方法がわからないという声も多く聞かれたことから、性教育への取組を進めるため、本事業で作成したハンドブックや支援の手引きを活用することなどが考えられる。

② 出会い及び恋愛に関する実態及び取組促進について

出会いや恋愛に関しては、知的障害者本人からは希望がある一方、事業所職員や親からは、犯罪に巻き込まれるのではないかなどの懸念から、出会いや恋愛に関する行動を制限したり、制限するような声掛けをしてしまったりするような実態が明らかになった。なお、知的障害者本人からも、犯罪に巻き込まれることへの不安の声がヒアリングでは聞かれたところである。検討委員会では、「出会いや恋愛がうまくいかないことも貴重な経験である」という意見や、「犯罪に巻き込まれてしまうことを非常に懸念しており、マッチングアプリなどの活用についても不安が大きい」という様々な意見が挙げられたところである。

出会いや恋愛に関する支援についても、知的障害者本人の自己決定権を尊重することが前提である。そのことを踏まえ、マッチングアプリや出会いの場の活用に関して、知的障害者本人と話し合い、ハンドブックの内容や、インターネット上の情報、ニュース報道などを踏まえ、どのように活用すればよいか、困ったときにはどこに相談すれば良いかなどを本人と支援する側が共有することが重要であると考えられる。

(1) 知的障害者本人へのアンケート調査

アンケートへのご協力^{きょうりよく}のお願い^{ねが}

わたしたちの会社^{かいしゃ}は、知的障害^{ちてきしょうがい}がある方にアンケートを^{ねが}お願いしています。

・アンケートでは、質問^{しつもん}を^よ読んで、当てはまるものを^{こた}答えてください。

① このアンケートは、性教育^{せいきょういく}、恋愛^{れんあい}、結婚^{けっこん}の支援^{しえん}について、今よりも良くなるように、^{くに}国の役所^{やくしょ}で^{かんが}考えるための資料^{しりょう}になります。アンケートの結果^{けっか}は、誰^{だれ}が^{こた}答えたかわからないようにまとめて、わたしたちの会社^{かいしゃ}のホームページで公表^{こうひょう}します。あなたの名前^{なまえ}や住^すんでいる場所^{ばしょ}や地域^{ちいき}、利用^{りよう}している事業所^{じぎょうしょ}などがほかの^{ひと}人に^し知られることはありません。

② 「協力^{きょうりよく}したくない」という場合^{ばあい}は、^{こた}答えなくてもいいです。

^{こた}答えなかったからといって、あなたが嫌^{いや}な思^{おも}いをすることはありません。

もし^{こた}答えづらい質問^{しつもん}があれば、回答^{かいとう}しなくてもかまいません。

^{きょうりよく}協力^{きょうりよく}してくださるとうれしいです。

<わたしたちからの約束^{やくそく}>

① アンケートの結果^{けっか}は、誰^{だれ}が^{こた}答えたかわからないようにまとめて、わたしたちの会社^{かいしゃ}のホームページで公表^{こうひょう}します。あなたの名前^{なまえ}や住^すんでいる場所^{ばしょ}や地域^{ちいき}、利用^{りよう}している事業所^{じぎょうしょ}などがほかの^{ひと}人に^し知られることはありません。

② アンケートに^{こた}答えたかどうかや^{こた}答えた内容^{ないよう}が、事業所^{じぎょうしょ}の職員^{しょくいん}や両親^{りょうしん}・家族^{かぞく}に^し知られることはありません。

③ アンケートは他の^{ほか}人と相談^{そうだん}しながら回答^{かいとう}してもかまいません。

④ 「協力^{きょうりよく}したくない」という場合^{ばあい}は、^{こた}答えなくてもいいです。^{こた}答えなかったからといって、あなたが嫌^{いや}な思^{おも}いをすることはありません。

⑤ もし^{こた}答えづらい質問^{しつもん}があれば、回答^{かいとう}しなくてもかまいません。

⑥ アンケートを途中でやめたい場合^{ばあい}は、いつでもやめられます。

⑦ この アンケートに 回答する ことについて 不安が あったり、体 調が 悪くなったりした 場合には 問い合わせ 先に ご相談 ください。回答後も 相談は 受け付けます。

「協力してもいい」という方は、つづきを読んでください。

<注意点>

答えてくれた人への お礼の お金は ありません。

協力 しても いい という 方は、 アンケートに 答えて ください。

アンケート 提出後の 回答の 撤回は できません。

※ アンケート結果は 社内の 人しか 見れない 場所に 5年間 保管し、その後 廃棄します。廃棄する 場合には 紙の 回答用紙は シュレッダーで 切って 見えないようにし、ウェブ回答は データを 削除 します。

<しめきり>

2024年12月13日

<回答方法>

紙の 調査票 か 右の二次元バーコードか URL

(<https://forms.office.com/r/XbT3HFEaR7>)

から 答えて ください。



【調査実施主体・問い合わせ先】

P w C コンサルティング合同会社 公共事業部

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

担当：東海林 崇、吉野 智、青木佑夏、藤井 瞭

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー 19階

以上

当事者調査（実態調査）にご同席いただく方へのお願い

この度は、当事者調査にご同席及びご協力をただけること、誠にありがとうございます。

本調査で皆様の率直なご回答を賜れますよう、下記の通りご協力いただきますようお願い申し上げます。

1. 事前準備

① 調査票のご用意

- ・ 弊社から紙の依頼状及び調査票を郵送させていただきます。調査を実施される当事者会等には依頼状及び調査票のご持参をお願いいたします。

② プライバシーが確保できる場所のご用意

- ・ 調査を実施する際には、ご回答者様のご状況に合わせ、プライバシーを確保できる場所を予めご用意いただきますようお願いいたします。

2. 調査当日の支援

① 必要に応じた調査実施時の介助等

- ・ ご回答者様のご状況に合わせ、調査回答時に同席するかどうかは、ご回答者様が本音をご回答しやすい方法をとっていただくようお願いいたします。
- ・ ご回答者様が調査について質問がある場合には、適宜その質問にご回答いただき、回答の誘導は絶対にしないようお願いいたします。

② 問い合わせの対応

- ・ ご回答者様による質問で、ご回答が難しい内容については、事務局担当：青木（[080-4180-0949](tel:080-4180-0949) 又は jp_rennaikokkon_survey@pwc.com）までご連絡をお願いいたします。

3. 調査後の対応

① 調査票のご提出

- ・ 紙の調査票にご回答いただいた場合には、返信用封筒にて下記宛先まで郵送していただけますと幸いです。

<宛先>

東京都中央区新富 1-14-3 株式会社リサーチワークス内

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

以上

わたくしたちの会社は、知的障害がある方にアンケートをお願いしています。

このアンケートの結果は、性教育や恋愛・結婚の支援などについて、
いまよりもよくなるように、国の役所で考えるための資料になります。

アンケートは、誰が答えたかわからないようにまとめて、
わたくしたちの会社のホームページで発表します。

あなたの名前などの個人情報ほかの人に知られることはありません。
また、アンケートに答えたかどうかや答えた内容を
わたくしたちがほかの人に教えることはありません。

「協力したくない」という場合は、答えなくてもいいです。
答えなかったからといって、あなたが嫌な思いをすることはありません。

＜注 意 点＞

- ・ 答えてくれた人への お礼の お金は ありません。
- ・ アンケートに答えている途中で「やっぱり 協力 しない」と やめても いいです。

アンケートを出した後に やめることは できません。

※ 最後の質問で 別の日の調査に 協力 する（質問④に「1 はい」）と答えて
連絡先を書いた人は、後からでも やめられます。

「協力 してもいい」という人は、
次のページからのアンケートに 答えてください。
もし 答えづらい質問があれば、答えなくても 大丈夫です。
よろしく お願いします。

えら ばんごう こた
選んだ番号に ○をつけて 教えてください。

ほか えら ぐたいてき ないよう か
「その他」を選んだら、具体的な内容を 書いてください。

おし
< 1. あなたのことに ついて 教えてください >

せいべつ
① あなたの性別

- 1 男性 2 女性 3 その他 4 答えたくない

ねんれい
② あなたの年齢

さい
_____ 歳

しょうがい しゅるい あ ぜんぶ
③ あなたの障害の種類 (当てはまるもの 全部に ○)

- 1 身体障害 2 知的障害 3 精神障害
4 その他 _____

しょうがいしえんくぶん しょうがいふくし じゅきゅうしゃしょう か
④ あなたの障害支援区分 (「障害福祉サービス受給者証」に書いてあります。)

- 1 区分1 2 区分2 3 区分3 4 区分4
5 区分5 6 区分6 7 非該当 8 区分なし

かね え せいかつ あ ぜんぶ
⑤ あなたは どのように お金を得て 生活していますか? (当てはまるもの 全部に ○)

- 1 自分が働いて稼いだお金 2 パートナーが働いて稼いだお金
3 障害年金 4 障害者手当 5 生活保護
6 その他 _____

⑥ 日 中（昼間）は ^{にっちゅう ひるま} どのように ^す 過ごしていますか？

- 1 ^{はたら} 働 いている 2 ^{はたら} 働 いていないが、^{かよ ばしよ} 通 う場所がある

3 ^{ほか} その他

⑦ どのようなところに ^す 住んでいますか？

1 マンションやアパートなどで ^{か へや} 借りた部屋

2 ^{けんえいじゅうたく しえいじゅうたく} 県 営 住 宅 や市 営 住 宅 など ^{か へや} で 借りた部屋

3 ^{じぶん かぞく も いえ} 自分や家族が持っている家

4 グループホーム

5 ^{ぼ し せい かつ し えん し せ つ} 母子 生 活 支 援 施 設

6 ^{ほか} その他

⑧ いま ^{だれ} 誰 と ^す いっしょに 住んでいますか？（^あ 当てはまるもの ^{ぜんぶ} 全部に ○）

1 ^{おや} 親 2 きょうだい 3 ^{じぶん こ} 自分 の 子 ども

4 おじいちゃん や おばあちゃん 5 ^{しんせき} 親 戚

6 パートナー（^{けっこん} 結 婚 は して いない） 7 ^{けっこんあいて} 結 婚 相 手

8 ^{ほか} その他

＜2. 性^{せい}について あなたの悩み^{なや}や 考^{かんが}えを 教^{おし}えてください＞

※「性^{せい}」は、男^{だんせい}性や女^{じょせい}性の からだのことのほか、
恋^{れんあい}愛や結^{けっこん}婚といった 人^{にんげん}間^{かん}関^{かん}係^{けい}のことなどを 意^い味^みしています。

⑨ 性^{せい}について 悩^{なや}んだことが ありますか？

- 1 はい 2 いいえ

⑩ 【⑨で「1 はい」を選^{えら}んだ人^{ひと}だけ 答^{こた}えてください】

性^{せい}について 悩^{なや}んだことの内容^{ないよう}を 教^{おし}えてください。(当^あてはまるもの 全^{ぜんぶ}部^ぶに ○)

1 ほかの^{ひと}人^{ちか}に 近^{ちか}づきすぎてはいけないことについて

2 マスターベーション(自^{じぶん}分の性^{せい}器^きなどをさわって 気^き持^もちよくすること)について

3 見^みられたり さわられたりしたくない 体^{からだ}の大^{たい}切^{せつ}な部^ぶ分^{ぶん}について

4 (男^{だんせい}性の)性^{せい}器^きから精^{せい}子^しが出^でること(射^{しゃ}精^{せい}など)について

5 (女^{じょせい}性の)生^{せい}理^りについて

6 自^{じぶん}分の性^{せい}別^{べつ}のことや 好^すきになる相^{あい}手^ての性^{せい}別^{べつ}のことについて

7 避^ひ妊^{にん}(妊^{にん}娠^{しん}しないようにすること)について

8 性^{せい}感^{かん}染^{せん}症^{しょう}(セックスなどでうつる病^{びょう}気^き)について

9 セックスについて

10 そ^{ほか}の他

⑪ いままでに どんなところで（誰^{だれ}から）性^{せい}について 知^しりましたか？

（当^あてはまるもの 全^{ぜん}部^ぶに ○）

- 1 学^が校^{っこう}の授^{じゅ}業^{ぎょう} 2 親^{おや} 3 友^{とも}だち 4 施^し設^{せつ}の職^{しょく}員^{いん}
- 5 本^{ほん}や雑^{ざつ}誌^し、テレビなど 6 インターネットの記^き事^じ
- 7 S N S（ユーチューブ、ティックトック、X^{えっくす}（ツイッター）、インスタグラムなど）
- 8 そ^{ほか}の他 _____

⑫ 性^{せい}について 知^しったことのう^あち、当^あてはまるもの 全^{ぜん}部^ぶに ○をつけてください。

- 1 ほ^{ひと}か^{ちか}の人^{ひと}に 近^{ちか}づきすぎてはいけないことについて
- 2 マスターベーシ^{じぶん}ョン（自^{せい}分の性^{せい}器^きなどをさ^きわ^もって 気^き持^もちよ^きくするこ^も）の
- 方^{ほう} 法^{ほう}や 気^きをつ^きけるこ^きについて
- 3 見^みられ^みたり さ^みわられ^みたりしたく^みない 体^{からだ}の^{たい}大^{たい} 切^{せつ}な部^ぶ分^{ぶん}について
- 4 （男^{だん} 性^{せい}の）性^{せい}器^きから精^{せい}子^しが^で出^しること（射^{しゃ} 精^{せい}など）について
- 5 （女^{じょ} 性^{せい}の）生^{せい}理^りについて
- 6 自^じ分^{ぶん}の性^{せい} 別^{べつ}のこ^すとや 好^あき^{いて}に^{せい}なる相^{せい}手^{べつ}の性^{せい} 別^{べつ}のこ^すについて
- 7 避^ひ妊^{にん}（妊^{にん} 娠^{しん}しないよ^{たい}うに^{せつ}するこ^{ほう}）の 大^{たい} 切^{せつ}さや 方^{ほう} 法^{ほう}について
- 8 性^{せい} 感^{かん} 染^{せん} 症^{しょう}（セックスなど^{びょう}で^きうつる病^{びょう} 気^き）について
- 9 セックスについて
- 10 そ^{ほか}の他 _____

⑬ ふだんの生活で 恋人になる人に出会う機会は ありますか？

- 1 ある 2 ない 3 わからない

⑭ 恋人を探すために S N S やマッチングアプリを使ったことは ありますか？

- 1 ある 2 ない 3 わからない

⑮ 【⑭で「1 ある」を選んだ人だけ 教えてください】

S N S やマッチングアプリで 困ったことは ありましたか？

- 1 ある 2 ない

⑯ 【⑮で「1 ある」を選んだ人だけ 教えてください】

S N S やマッチングアプリで 困ったことは 何ですか？（当てはまるもの 全部に ○）

- 1 使い方がわからない 2 うまく出会えない
3 だまされそうになった 4 怖い思いをした・しそうになった
5 その他

⑰ いままでに 婚活（結婚相手を見つける）イベントや

恋人になる人と出会うためのイベントに 参加したことは ありますか？

- 1 ある 2 ない

⑱ ⑰のようなイベントに 参加しようとしたとき、

障害者だからという理由で 参加させてもらえなかったことは ありますか？

- 1 ある 2 ない

①⑨【①⑧で「1 ある」を選んだ人だけ 教えてください】

どうして 参加できませんでしたか？（当てはまるもの 全部に ○）

1 家族が 反対した 2 支援員などが 反対した

3 イベントの人に 断 られた

4 その他 _____

②⑩ あなたは 恋愛をしたいと 思っていますか？

1 はい 2 いいえ 3 いま恋愛や結婚をしている

②⑪【②⑩で「1 はい」か「3 いま恋愛や結婚をしている」を選んだ人だけ 教えてください】

好きな人と付き合いはじめるときや 付き合うときの 悩みを 教えてください。

（当てはまるもの 全部に ○）

1 恋人になる人と出会う機会が ない

2 どうやって仲良くなればいいのか わからない

3 周りの人が 反対する

4 相談できる人が いない

5 セックスをするときなどに 気をつけることが わからない

6 悩みは ない

7 その他 _____

②②【②②で「2 いいえ」を選んだ人だけ 教えてください】

れんあい おも りゆう なん あ ぜんぶ
恋愛をしたいと思わない理由は 何ですか？（当てはまるもの 全部に ○）

1 ふだんの生活に満足していて、恋愛は必要ないと感じるから

2 ふだんの生活に余裕がないから

3 周りの人が 反対するから

4 恋愛で嫌なことがあったから

5 その他

②③ あなたは 同棲したいと 思っていますか？

どうせい けっこん いっしょ す
「同棲」は、結婚はしていないけど パートナーと一緒に 住むことです。

1 はい（いまは していない）

2 いいえ

3 いま同棲している

②④【②③で「1 はい（いまは していない）」を選んだ人だけ 教えてください】

どうせい りゆう どうせい なや おし
同棲していない理由や 同棲についての悩みを 教えてください。

あ ぜんぶ
（当てはまるもの 全部に ○）

1 同棲したいと思える相手と 出会っていない

2 周りの人が 反対する

3 どうやって同棲すればいいか わからない

4 相談できる人が いない

5 同棲した後の お金のことが不安

6 お金のこと以外で 同棲した後の 生活のことが不安

7 悩みは ない

8 その他

②⑤ あなたは ^{けっこん}結 婚したいと ^{おも}思っていますか？

1 はい (いまは していない)

2 いいえ

3 ^{けっこん}いま結 婚している

②⑥ 【②⑤で「1 はい (いまは していない)」を選んだ人だけ 教えてください】

^{けっこん}結 婚していない理由や ^{りゆう}結 婚についての^{なや}悩みを ^{おし}教えてください。

^あ(当てはまるもの ^{ぜんぶ}全部に ○)

1 ^{けっこん}結 婚したいと思える相手と ^{おも}あいて ^であ 出会っていない

2 ^{まわ}周りの人が ^{ひと}反 対する ^{はんたい}

3 どうやって^{けっこん}結 婚すればいいか わからない

4 ^{そうだん}相 談できる人が ^{ひと}いない

5 ^{けっこん}結 婚した後の ^{あと}お金のことが^{かね}不安 ^{ふあん}

6 ^{かね}お金のこと以外で ^{いがい}結 婚した後の ^{けっこん}生 活のことが^{あと}不安 ^{せいかつ}

7 ^{なや}悩みは ^{ふあん}ない

8 ^{ほか}その他

②⑦ 【②③で「3 ^{どうせい}いま同 棲している」を選んだ人と

②⑤で「3 ^{けっこん}いま結 婚している」を選んだ人だけ 教えてください】

^{どうせい}同 棲や^{けっこん}結 婚で ^{なや}悩んだこと・^{なや}悩んでいることを ^{おし}教えてください。

^あ(当てはまるもの ^{ぜんぶ}全部に ○)

1 ^{まわ}周りの人に ^{ひと}反 対された ^{はんたい}

2 ^{かね}お金が足りなくて ^た大 変なときがある ^{たいへん}

3 ^{かたづ}片付けが うまくできない

4 ^{あいて}相手と ^{なか}仲が悪くなるときがある ^{わる}

5 ^{そうだん}相 談できる人が ^{ひと}いない

6 ^{なや}悩みは ^{ふあん}ない

7 ^{ほか}その他

②⑧ あなたは 将 来 子^{しょうらい こ}どもがほしいと 思^{おも}っていますか？

- 1 はい (いまは いない) 2 いいえ 3 もう子^こどもがいる

②⑨ 【②⑧で「1 はい (いまは いない)」か「3 もう子^こどもがいる」を選^{えら}んだ人^{ひと}だけ
答^{こた}えてください】

こ 子^こどもを う 産^うむことや そだ 育^{そだ}てることで なや 悩^{なや}んだこと・ なや 悩^{なや}んでいることを おし 教^{おし}えてください。
(あ 当^あてはまるもの ぜんぶ 全部^{ぜんぶ}に ○)

1 パートナーが いない・ 出^で会^あっていない

2 どうやったら子^こどもができるか わからない

3 まわ 周^{まわ}りの人^{ひと}が はんたい 反^{はん}対^{たい}する

4 じぶん 自^じ分^{ぶん}が こ 子^こどもを そだ 育^{そだ}てられるか わからない

5 こ 子^こどもを そだ 育^{そだ}てるための かね 金^{かね}がない

6 こ 子^こどもを う 産^うむことについて そうだん 相^{そう}談^{だん}できる人^{ひと}が いない

7 こ 子^こどもを そだ 育^{そだ}てるときに たよ 頼^{たよ}れる人^{ひと}が いない／わからない

8 なや 悩^{なや}みは ない

9 ほか 其^{ほか}他^{ほか}

- ③⑩ した ひょう しえん 下の 表 の支援について、あなたの経験や考 えを 教えてください。
あ
 (当てはまるものに ○をつけてください。)

しえん ないよう 支援の 内 容	してもらった こと が ある	してもらって よかった	これから してほしい
こいびと けっこんあいて 恋人や結 婚相手になる人 と出会う機会を ひと で あ きかい つくってくれる			
れんあい そうだん 恋 愛の相 談に のってくれる			
かね かんり そうだん お金の管理の相 談に のってくれる			
へ や かたづ そうだん 部屋の片付けの相 談に のってくれる			
か じ てつだ 家事を手伝ってくれる			
つ あ どうせい けっこん 付き合うことや 同 棲・結 婚のことなどについて かぞく はな あ いっしょに 家族と話 し合ってくれる			
せい しょうほう おし 性についての 情 報 を 教えてくれる			
せい そうだん 性についての相 談に のってくれる			
けっこん てつづ てつだ 結 婚の手続きを 手伝ってくれる			
す ばしょ さが 住む場所を いっしょに探 してくれる			
いえ けいやく やくしょ てつづ てつだ 家の契 約や役 所の手続きなどを 手伝ってくれる			
にんしんちゅう そうだん 妊 娠 中 の相 談に のってくれる			
こ う 子どもを産むときに いっしょにいてくれる			
こそだ てつだ 子育てを 手伝ってくれる			

- ③⑪ うえ ひょう しえん 上の 表 にある支援のほか、れんあい どうせい けっこん しゅっさん こそだ 恋 愛や同 棲・結 婚、出 産・子育てなどについて
しえん 支援してもらったことがあれば した か 下 に書いてください。

- ③② ^{まえ}前のページの^{ひょう}表^{しえん}にある支援^{れんあい}のほかに、恋愛^{どうせい}や同棲^{けっこん}・結婚^{しゅっさん}、出産^{こそだ}・子育てなど
について、支援^{しえん}してもらってよかったことがあれば^{した}下に^か書いてください。

- ③③ ^{まえ}前のページの^{ひょう}表^{しえん}にある支援^{れんあい}のほかに、恋愛^{どうせい}や同棲^{けっこん}・結婚^{しゅっさん}、出産^{こそだ}・子育てなど
について、これから支援^{しえん}してほしいことがあれば^{した}下に^か書いてください。

- ③④ このアンケートのことなどについて、あなたの^{おも}思いや^{かんが}考^ええを
^{べつ}別の日に^ひわたしたちが^{すこ}もう少し^{くわ}詳しく^き聞いてもいいですか？

1 はい 2 いいえ

- ③⑤ 【③④で「1 はい」を選^{えら}んだ人^{ひと}だけ書^かいてください】

あなたの^{なまえ}お名前と^{れんらくさき}ご連絡先^{おし}を教えてください。

^{なまえ}
名前

^{でんわばんごう}
電話番号

メールアドレス

アンケートはこれで^お終わりです。 ありがとうございます。

(2) 事業所へのアンケート調査

令和6年11月吉日

障害福祉サービス等事業所 御中

PwC コンサルティング合同会社

**「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」
事業所調査へのご協力のお願い**

拝啓 時下ますますご清栄のことと心からお喜び申し上げます。

この度、弊社は厚生労働省「令和6年度障害者総合福祉推進事業」の採択を受け、「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」を実施することとなりました。

本調査研究においては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育て等を含め、知的障害者への適切な情報提供や相談支援等の実施に向け、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の実態や課題等を把握するための調査を実施することとしています。また、本事業においては、知的障害者が支援者や家族とともに性教育等についての情報を入手することができる学習素材も作成します。

つきましては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の充実に向けた検討や、より良い学習素材の作成のための参考とするため、本調査に対する回答についてご協力いただくようお願いいたします。

敬具

記

依頼事項

下記の調査概要をご参照のうえ、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

調査概要

1. 調査目的

障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態及び課題を把握し、今後の支援の充実に向けた検討やより良い学習素材の作成の参考とする

2. 対象

障害福祉サービス等事業所

3. 調査方法

Excel でのご回答（メールでのご送付及びご回答）

4. 調査期間

令和6年11月14日～令和6年12月11日

5. 回答の公表について

ご回答いただいた内容は集計し、その結果を PwC コンサルティング合同会社のホームページ上に開示いたします。その際に、個人、住居名、事業所名、地域が特定されることはありません。回答後に回答を撤回したい場合には記入済みの同意撤回書を下記調査実施主体にお送りください。

6. 結果の公表について

本調査結果は、障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態を把握し、本事業における学習素材の作成及び厚生労働省における知的障害者への支援の在り方についての検討に活用されます。

【調査の送付先・お問い合わせ先】

株式会社リサーチワークス

TEL : [REDACTED] (平日 10～17 時)

メール : [REDACTED]

【調査実施主体】

PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

担当：東海林崇、吉野智、青木佑夏、藤井瞭

〒100-004 東京都千代田区大手町 1 - 2 - 1 Otemachi One Tower 19 階

以上

障害者総合福祉推進事業 指定課題13
「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」
事業所調査

この度、弊社は厚生労働省「令和6年度障害者総合福祉推進事業」の採択を受け、「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」を実施することとなりました。

本調査研究においては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育て等を含め、知的障害者への適切な情報提供や相談支援等の実施に向け、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の実態や課題等を把握するための調査を実施することとしています。また、本事業においては、知的障害者が支援者や家族とともに性教育等についての情報を入手することができる学習素材も作成します。

つきましては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の充実にに向けた検討や、より良い学習素材の作成のための参考とするため、本調査に対する回答についてご協力いただくようお願いいたします。

【本調査の目的】

障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態及び課題を把握し、今後の支援の充実にに向けた検討やより良い学習素材の作成の参考とする

【調査対象】

[障害福祉サービス事業所] サービス管理責任者またはサービス提供責任者、あるいはそれに準ずる現場の職員
[特定相談支援事業所・一般相談支援事業所] 相談支援専門員

【回答期日】

2024年12月5日（木）までにご回答をお願いいたします。

■ご回答方法■

調査票（本ファイル）に入力してください。

■ご提出先■

調査票を添付し、**2024年12月5日（木）**までに以下の事務局メールアドレスまで送付してください。

メールアドレス	
---------	-------------

【お問い合わせ先】

本調査の目的や内容、データの取扱い、ご回答方法等についてご不明な点などがありましたら、以下までお問い合わせください。

メールアドレス	
---------	-------------

調査実施主体

PwCコンサルティング合同会社

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

担当者：東海林、吉野、青木、藤井

I. 基本情報

1. 貴事業所の基本情報について教えてください

Q1. 事業所の提供サービス

＜選択肢＞

- ① 居宅介護

② 重度訪問介護

③ 同行援護

④ 行動援護

⑤ 重度障害者等包括支援

⑥ 短期入所（空床型）

⑦ 短期入所（単独型）

⑧ 短期入所（併設型）※空床併設型含む

⑨ 療養介護

⑩ 生活介護

⑪ 施設入所支援

⑫ 自立生活援助

⑬ 共同生活援助（介護サービス包括型）

⑭ 共同生活援助（外部サービス利用型）

⑮ 共同生活援助（日中サービス支援型）

⑯ 自立訓練（機能訓練）

⑰ 自立訓練（生活訓練）

⑱ 自立訓練（宿泊型自立訓練）

⑲ 就労移行支援

⑳ 就労継続支援（A型）

㉑ 就労継続支援（B型）

㉒ 就労定着支援

㉓ 計画相談支援

㉔ 地域移行支援

㉕ 地域定着支援

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q2. 事業所番号（10桁）

事業所番号（10桁）										
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Q3. 事業所名

事業所名	
------	--

Q4. 所在地（都道府県）

所在地（都道府県）	
-----------	--

Q5. 所在地（市区町村）

所在地（市区町村）	
-----------	--

Q6. 運営法人の種別

<選択肢>

- ① 社会福祉法人
- ② 医療法人（社会医療法人、社団医療法人等を含む）
- ③ NPO法人
- ④ 一般社団法人・特定社団法人
- ⑤ 公益財団法人
- ⑥ 有限会社
- ⑦ 株式会社
- ⑧ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

「⑧その他」の具体的な内容

Q7. 運営法人名

運営法人名	
-------	--

Q8. 対象とする主たる障害種別（運営規定において定めている障害種別すべて）

<選択肢>

- ① 定めている ⇒ 【対象とする主たる障害種別】にご回答ください
- ② 特に定めていない

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

【対象とする主たる障害種別】

<選択肢>

- ① 身体障害
- ② 知的障害
- ③ 精神障害
- ④ 難病

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答			

※以降は、知的障害者に対する支援に関する項目となりますので
②を選択していない場合、以降のご回答は不要です

2.貴事業所の利用者及び職員等の状況について教えてください

Q9. 定員数（令和6年4月1日時点）

<選択肢>

- ① 定めている ⇒ **【定員数】**にご回答ください
- ② 特に定めていない

▼ 上記<選択肢>からあてはまるものを一つ選択してください

回答

【定員数】

定員数		人	（令和6年4月1日時点）
-----	--	---	--------------

Q10. 契約者数（令和6年4月1日時点）

契約者数		人	（令和6年4月1日時点）
------	--	---	--------------

Q11. 障害支援区分ごとの契約者数（令和6年4月1日時点）※実人数

非該当		人	（令和6年4月1日時点）
区分1		人	（令和6年4月1日時点）
区分2		人	（令和6年4月1日時点）
区分3		人	（令和6年4月1日時点）
区分4		人	（令和6年4月1日時点）
区分5		人	（令和6年4月1日時点）
区分6		人	（令和6年4月1日時点）
区分なし		人	（令和6年4月1日時点）

Q12. 職員配置状況

常勤		人
非常勤		人

Ⅱ. 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育ての支援状況の実態

1. 性教育の支援状況の実態 ※知的障害者に対する支援についてのみをご回答ください

Q1. 貴事業所では利用者に性教育に関する支援を実施していますか

※ 性教育にはパーソナルスペース、マスターベーション、プライベートゾーン、
生理、避妊、性感染症、ジェンダーやセクシュアリティ等の内容を含みます

<選択肢>

- ① はい
- ② いいえ

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q2. Q1. で「①はい」と回答した方に伺います

性教育に関する支援で実施しているものをお答えください

<選択肢>

- ① 利用者への性教育に関するプログラム・研修・説明会等の開催
- ② 利用者の家族への性教育に関するプログラム・研修・説明会等の開催
- ③ 利用者への性教育に関する個別相談
- ④ 利用者の家族への性教育に関する個別相談
- ⑤ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答				

「⑤その他」の具体的な内容

Q3. Q1. で「①はい」と回答した方に伺います
提供している性教育の内容をお答えください

<選択肢>

- ① 人と人との適切な距離感（パーソナルスペース）について
- ② マスターベーションの方法や気をつけるべきことについて
- ③ プライベートゾーン（他人に見せない、触らせない身体の箇所）について
- ④ 射精、精通、夢精について
- ⑤ 生理について
- ⑥ ジェンダーやセクシュアリティについて
- ⑦ 避妊の重要性や方法について
- ⑧ 性感染症について
- ⑨ セックスについて
- ⑩ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答									

「⑩その他」の具体的な内容

Q4. Q1. で「①はい」と回答した方に伺います
性教育に関する支援はどの程度の利用者に実施していますか

<選択肢>

- ① すべての利用者
- ② ほとんどの利用者
- ③ 一部の利用者

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q5. Q1. で「①はい」と回答した方に伺います
支援を提供することによるメリットをお答えください

＜選択肢＞

- ① 望まぬ妊娠や性感染症を防ぐことにつながる
- ② 性被害の防止につながる
- ③ 利用者が相手を尊重することを理解し、行動に移すことができる
- ④ 支援者が利用者の意思や自由を尊重することを実感することができる
- ⑤ 利用者の家族の性に関する悩みを解消することにつながる
- ⑥ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答					

「⑥その他」の具体的な内容

2. 出会いの支援状況の実態 ※知的障害者に対する支援についてのみをご回答ください

Q6. 貴事業所では利用者に出会いに関する支援を実施していますか

＜選択肢＞

- ① はい
- ② いいえ

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q7. Q6. で「①はい」と回答した方に伺います
出会いに関する支援を提供した利用者は昨年度何名ですか（実人数）

出会いに関する支援を提供した利用者数		人	（実人数）
--------------------	--	---	-------

Q8. Q6. で「①はい」と回答した方に伺います
どのような支援を実施していますか

＜選択肢＞

- ① 出会いのイベントの開催や紹介
- ② マッチングアプリの使用方法の伝達
- ③ 希望等を聞いたうえでのマッチングサービス
- ④ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答			

「④その他」の具体的な内容

Q9. Q6. で「①はい」と回答した方に伺います
出会いに関する支援はどの程度の利用者に実施していますか

＜選択肢＞

- ① すべての利用者
- ② ほとんどの利用者
- ③ 一部の利用者

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q10. Q6. で「①はい」と回答した方に伺います
支援を提供することによるメリットをお答えください

＜選択肢＞

- ① 利用者の自由や意思を尊重することに関する事業所内での共通理解を形成することができる
- ② 利用者の家族に対し利用者の自由や意思を尊重することの重要性を普及することができる
- ③ 将来の生活（生活場所の変更や地域移行、結婚等）に向けた支援に取り組みやすくなる
- ④ 支援者のモチベーション向上につながる
- ⑤ 特にない
- ⑥ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答					

「⑥その他」の具体的な内容

3. 恋愛の支援状況の実態 ※知的障害者に対する支援についてのみをご回答ください

Q11. 貴事業所では利用者に恋愛に関する支援を実施していますか

<選択肢>

- ① はい
- ② いいえ

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q12. Q11. で「①はい」と回答した方に伺います
どのような支援を実施していますか

<選択肢>

- ① コミュニケーション等に関する相談に乗る支援
- ② 結婚・出産を踏まえた、お金の管理に関する支援
- ③ 本人の希望を踏まえ、避妊方法について伝える支援
- ④ 交際状況に応じて、性に関する情報を伝える支援
- ⑤ 生理の周期の把握・管理
- ⑥ 交際について、家族との話し合いに同席する支援
- ⑦ 交際について、親の相談に乗る支援
- ⑧ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答							

「⑧その他」の具体的な内容

Q13. 貴事業所では、誰かと交際している人数はどれくらいいますか
(事業所内のカップルであれば2人、一方が事業所内であれば1人とカウント)

<選択肢>

- ① 把握している ⇒ 【交際している人数】にご回答ください
- ② 把握していない

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

【交際している人数】

誰かと交際している人数		人
-------------	--	---

Q14. Q13. で「①把握している」と回答した方に伺います
Q13. でご回答いただいた人数のうち、恋愛に関する支援を提供している/したことがあるのは何人ですか

恋愛に関する支援を 提供している/したことがある人数		人
-------------------------------	--	---

Q15. Q11. で「①はい」と回答した方に伺います
支援を提供することによるメリットをお答えください

<選択肢>

- ① 利用者の自由や意思を尊重することに関する事業所内での共通理解を形成することができる
- ② 利用者の家族に対し利用者の自由や意思を尊重することの重要性を普及することができる
- ③ 将来の生活（生活場所の変更や地域移行、結婚等）に向けた支援に取り組みやすくなる
- ④ 支援者のモチベーション向上につながる
- ⑤ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答				

「⑤その他」の具体的な内容

4. 結婚・妊娠・出産・子育ての支援状況の実態 ※知的障害者に対する支援についてのみをご回答ください

Q16. 貴事業所では利用者に結婚・妊娠・出産・子育てに関する支援を実施していますか

＜選択肢＞

- ① はい
- ② いいえ

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q17. Q16. で「①はい」と回答した方に伺います
具体的な支援の内容をお答えください

【結婚に関する支援】

＜選択肢＞

- ① 利用者本人と定期的な面談や状況の把握
- ② パートナーとの話し合い（関係性構築や今後の生活の相談）
- ③ 家族等との話し合い（話し合いのサポート、情報提供等）
- ④ 同棲・結婚生活に向けた助言や体験
- ⑤ 同棲・結婚に向けた関係機関（拳式、自治体窓口等）への連絡・付添い等の支援
- ⑥ 自立に向けた支援（経済的自立や生活能力の訓練等）
- ⑦ パートナーとの良好な関係性構築のための支援（パートナー間の暴力・暴言への助言等）
- ⑧ 性に関する知識やマナーへの助言（避妊や性感染症等に関する学習を含む）
- ⑨ 家族計画に関する助言
- ⑩ 住居探しの支援
- ⑪ 特にない
- ⑫ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答										

「⑫その他」の具体的な内容

【妊娠・出産に関する支援】

＜選択肢＞

- ① 医療機関（産婦人科等）への連絡・付添い等の支援
- ② 自治体の母子保健担当窓口や保健所への連絡・付添い・各種手続き支援
- ③ 出産についての意思決定の支援
- ④ 妊娠・出産時におけるパートナー・家族との理解協力を得られる関係性構築のための支援
- ⑤ 妊婦の出産までの健康学習
- ⑥ 住居探しの支援
- ⑦ 特にない
- ⑧ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答							

「⑧その他」の具体的な内容

【子育てに関する支援】

＜選択肢＞

- ① 定期的な訪問等による面談や状況の把握
- ② 自治体の子育て支援窓口や子育て支援サービスへの連絡・付添い・各種手続きの支援
- ③ 日常的な育児支援（沐浴、授乳、ミルクの作り方等）
- ④ 健全な育児ための支援（子どもへの暴力・暴言への助言等）
- ⑤ 住居探しの支援
- ⑥ 特にない
- ⑦ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答						

「⑦その他」の具体的な内容

Q18. Q16. で「①はい」と回答した方に伺います
結婚・妊娠・出産・子育てに関して、支援会議等を通じて連携している支援機関等をお答えください

【障害福祉サービス等】

<選択肢>

- ① 相談支援事業所（計画相談支援）
- ② 相談支援事業所（地域移行支援・地域定着支援）
- ③ 相談支援事業所（市町村委託又は直営）
- ④ 基幹相談支援センター
- ⑤ 障害者就業・生活支援センター
- ⑥ 居宅介護事業所（ホームヘルパー）
- ⑦ 通所事業所（自立訓練、就労継続支援、地域活動支援センター等）
- ⑧ グループホーム
- ⑨ 自立生活援助事業所
- ⑩ 宿泊型自立訓練事業所
- ⑪ 障害者支援施設
- ⑫ 市町村の障害保健福祉部局
- ⑬ 特にない
- ⑭ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答									

「⑭その他」の具体的な内容

【母子保健、児童福祉】

＜選択肢＞

- ① 市町村の母子保健・子育て支援部局（こども家庭センターや児童家庭支援センターを含む）
- ② 要保護児童対策地域協議会
- ③ 児童相談所
- ④ 児童養護施設
- ⑤ 母子生活支援施設
- ⑥ 乳児院
- ⑦ 保健所・保健センター
- ⑧ 性と健康の相談支援センター
- ⑨ 保育所
- ⑩ 特にない
- ⑪ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを全て選択してください

回答									

「⑪その他」の具体的な内容

【その他】

<選択肢>

- ① 居住支援法人
- ② 成年後見人（保佐・補助）
- ③ 法人後見受任法人
- ④ 自主事業（恋愛、結婚、子育て支援事業所）
- ⑤ 福祉事務所
- ⑥ 社会福祉協議会
- ⑦ 民生委員
- ⑧ 児童委員
- ⑨ 特にない
- ⑩ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答									

「⑩その他」の具体的な内容

5. その他

Q19. その他、性教育、出会い、恋愛、結婚・妊娠・出産・子育てに関して、法人として独自に実施している取組があればご記載ください

▼ 回答欄に文字または数値を入力してください

Q20. 貴事業所では、利用者の自由や意思を尊重するという認識が十分に共有できていますか

<選択肢>

- ① 十分に共有できている
- ② ある程度共有できている
- ③ どちらでもない
- ④ あまり共有できていない
- ⑤ 全く共有できていない

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q21. 貴事業所では、利用者の自由や意思を尊重ということが支援に十分に反映できていますか

<選択肢>

- ① 十分に反映できている
- ② ある程度反映できている
- ③ どちらでもない
- ④ あまり反映できていない
- ⑤ 全く反映できていない

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Ⅲ. 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育ての支援の課題

Q1. 性教育に関する支援の課題をお答えください

<選択肢>

- ① 性教育を行う機会や人的リソースが不足している
- ② 性支援に関する職員教育の機会が無い
- ③ 利用者の状況に応じた性教育を行う方法がわからない
- ④ 事業所内で性教育を行うことが必要だという認識が共有できていない
- ⑤ 特にない
- ⑥ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答					

「⑥その他」の具体的な内容

Q2. 出会いに関する支援の課題をお答えください

<選択肢>

- ① 事業所内で出会いの支援が必要だという認識が共有できていない
- ② 本人の希望とパートナーや家族の意向が合わない
- ③ 出会いに関する支援を行う機会や人的リソースが不足している
- ④ 出会いに関する具体的な支援方法がわからない
- ⑤ 特にない
- ⑥ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答					

「⑥その他」の具体的な内容

Q3. 恋愛に関する支援の課題をお答えください

<選択肢>

- ① 事業所内で恋愛の支援が必要だという認識が共有できていない
- ② 本人の希望とパートナーや家族の意向が合わない
- ③ 恋愛に関する支援を行う機会や人的リソースが不足している
- ④ 恋愛に関する具体的な支援方法がわからない
- ⑤ 特にない
- ⑥ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答					

「⑥その他」の具体的な内容

Q4. 結婚・出産・子育てに関する支援の課題をお答えください

<選択肢>

- ① 本人の希望とパートナーや家族の意向が合わない
- ② 問題が深刻になってから表面化するため介入や支援が困難になりやすい
- ③ 結婚や出産する場合の経済的な面における自立に向けた見通しが立たない
- ④ 障害者の妊娠・出産を適切に支援する医療機関が乏しい
- ⑤ 障害者の子育てを支える見守り・相談を行う支援機関が乏しい
- ⑥ 障害者の子育て支援について利用できるサービスが乏しい
- ⑦ 事業所内で結婚・出産・子育てに関する支援が必要だという認識が共有できていない
- ⑧ 特にない
- ⑨ その他 ⇒ 具体的な内容をご記入ください

▼ 上記 <選択肢> からあてはまるものを全て選択してください

回答								

「⑨その他」の具体的な内容

IV. ヒアリング調査へのご協力

Q1. 弊社では、知的障害者の性教育や恋愛に関する学習素材の作成を予定しております。
本調査でご回答いただいた内容を詳しくお伺いさせていただくため、
そして学習素材に対してご意見をいただくため、ぜひヒアリング調査を実施させていただければと存じます。
ヒアリング調査にご協力いただけるか、ご回答をお願いいたします

＜選択肢＞

- ① ヒアリング調査に協力する
- ② ヒアリング調査に協力しない

▼ 上記＜選択肢＞からあてはまるものを一つ選択してください

回答

Q2. Q1. で「①ヒアリング調査に協力する」と回答した方に伺います
ご担当者名とご連絡先を教えてください

ご担当者名	
電話番号	
メールアドレス	

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。

お手数ですが、こちらの電子ファイルの調査票（Excel）を電子メールに添付して、
2024年12月5日（木）までに次の宛先にご提出していただくようお願いいたします。

メールアドレス	
---------	--

(3) 親へのアンケート調査

令和6年11月吉日

ご参加者 様

PwC コンサルティング合同会社

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」

知的障害者を子どもにもつ親へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のことと心からお喜び申し上げます。

この度、弊社は厚生労働省「令和6年度障害者総合福祉推進事業」の採択を受け、「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」を実施することとなりました。

本調査研究においては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育て等を含め、知的障害者への適切な情報提供や相談支援等の実施に向け、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の実態や課題等を把握するための調査を実施することとしています。また、本事業においては、知的障害者が支援者やご家族とともに性教育等についての情報を入手することができる学習素材も作成します。

つきましては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の充実に向けた検討や、より良い学習素材の作成のための参考とするため、本調査に対する回答についてご協力いただくようお願いいたします。

敬具

記

依頼事項

裏面の調査概要をご参照のうえ、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

調査概要

1. 調査目的

知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態及び課題を把握し、今後の支援の充実に向けた検討やより良い学習素材の作成の参考とする

2. 対象

知的障害者を子どもにもつ親

3. 調査方法

下記①②のいずれかでご回答ください

① Form (<https://forms.office.com/r/nKSJqxADJW>

あるいは右の二次元バーコード) でのご回答

② 紙面の調査票でのご回答 (返信用封筒に入れて郵送ください)



4. 調査期間

令和6年10月25日(月)～令和6年12月13日(金)

5. 回答の公表について

ご回答いただいた内容は集計し、その結果をPwCコンサルティング合同会社のホームページ上に開示いたします。その際に、個人、住居名、事業所名、地域が特定されることはございません。回答内容は、社外の人が閲覧することができない社内クラウド上に5年間保管した後、データを削除いたします。

ヒアリング調査に「協力する」と回答し、回答を撤回したい場合には記入済みの同意撤回書を下記問い合わせ先にお送りください。回答内容をデータ破棄し、結果の公表はしないものとさせていただきます。なお、結果公表後の同意の撤回はできません。

6. 結果の公表について

本調査結果は、知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態を把握し、本事業における学習素材の作成及び厚生労働省における知的障害者への支援の在り方についての検討に活用されます。

7. その他

その他回答したことによって不安が生じたり、体調が悪くなったりした場合には下記問い合わせ先までご相談ください。

【調査実施主体・問い合わせ先】

PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

担当：東海林崇、吉野智、青木佑夏、藤井瞭

〒100-004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One Tower 19階

【回答送付先】

東京都中央区新富1-14-3 株式会社リサーチワークス内

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

以上

選んだ番号に ○をつけて お答えください

I 基本情報について教えてください

① お子さんとの関係性

1 父親 2 母親 3 その他 _____

② あなたの年齢

_____ 歳

③ お子さんの性別

1 男性 2 女性 3 その他 _____

4 答えたくない

④ お子さんの年齢

_____ 歳

⑤ お子さんの障害の種別（当てはまるもの全て）

1 身体障害 2 知的障害 3 精神障害

4 その他 _____

⑥ お子さんの障害支援区分

1 区分1 2 区分2 3 区分3 4 区分4

5 区分5 6 区分6 7 非該当 8 区分なし

⑦ お子さんの世帯の主な収入源（当てはまるもの全て）

1 自分が働くことによる収入 2 パートナーが働くことによる収入

3 障害年金 4 障害者手当

5 生活保護 6 その他 _____

⑧ お子さんの日中の過ごし方

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 働いている | 2 働いていないが、通う場所がある |
| 3 その他 | _____ |

⑨ お子さんの住まい

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 お子さんが自分で借りている賃貸住宅 | 2 公営住宅 |
| 3 お子さんまたは家族の持ち家 | 4 グループホーム |
| 5 母子生活支援施設 | 6 その他 _____ |

⑩ お子さんと一緒に住んでいる方（お子さんにとっての属性、当てはまるもの全て）

- | | | |
|--------|---------|-------------------|
| 1 親 | 2 きょうだい | 3 子ども |
| 4 祖父母 | 5 親戚 | 6 パートナー（結婚はしていない） |
| 7 結婚相手 | 8 その他 | _____ |

Ⅱ お子さんの性教育について教えてください

⑪ お子さんに性教育をしたことはありますか

※性教育にはパーソナルスペース、マスターベーション、プライベートゾーン、生理、避妊、性感染症、ジェンダーやセクシュアリティ等の内容を含みます。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

⑫ （⑪で「1 はい」を答えた場合）初めて性教育をしたのは、お子さんがおいくつの頃ですか

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 小学校入学前 | 2 小学校低学年の頃（小学1、2年生） |
| 3 小学校中学年の頃（小学3、4年生） | 4 小学校高学年の頃（小学5、6年生） |
| 5 中学生の頃 | 6 高校生の頃 |
| 7 高校卒業後 | |

⑬ (⑪で「1 はい」を答えた場合)

実施した性教育の内容の中で、当てはまるものをお答えください（当てはまるもの全て）

- 1 人と人との適切な距離感（プライベートゾーン）について
- 2 マスターベーションの方法や気をつけるべきことについて
- 3 プライベートゾーン（他人に見せない、触らせない身体の箇所）について
- 4 射精、精通、夢精について
- 5 生理について
- 6 ジェンダーとセクシュアリティについて
- 7 避妊の重要性や方法について
- 8 性感染症について
- 9 セックスについて
- 10 その他 _____

⑭ (⑪で「2 いいえ」を答えた場合)

性教育をしなかった理由をお答えください（当てはまるもの全て）

- 1 正しい性に関する知識を身につけていなかったから
- 2 性教育をするのに抵抗があったから
- 3 性教育をするうえで、ほかの家族等から反対があったから
- 4 性教育の具体的な方法がわからなかったから
- 5 性教育をするうえで、相談できる人がいなかったから
- 6 学校や障害福祉サービス等事業所で教えてくれているから
- 7 その他 _____

⑮ お子さんはこれまでにご家族以外から性教育を受けたことはありますか（当てはまるもの全て）

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 小学校で受けた | 2 中学校で受けた |
| 3 高校で受けた | 4 障害福祉サービス等事業所で受けた |
| 5 保健センター等で受けた | 6 受けたことはない |
| 7 わからない | 8 その他 _____ |

⑩ お子さんの性のことで悩んだ経験はありますか

- 1 はい 2 いいえ

⑬ (⑫で「1 はい」を答えた場合)

具体的にどのようなことで悩まれましたか（当てはまるもの全て）

- 1 性に関してどのように説明すればいいのかわからない
- 2 子どもが人と人との適切な距離感（パーソナルスペース）について理解できない
- 3 子どもがマスターベーションをする場所や時間について悩んでいる
- 4 子どもが自分で精通、射精、夢精の対処ができない
- 5 子どもが自分で生理の対処ができない
- 6 子どものジェンダーやセクシュアリティのことで悩んでいる
- 7 避妊をしているのか、避妊がうまくできているのか心配
- 8 子どもが性的に嫌な経験をし、トラウマがある
- 9 その他

Ⅲ お子さんの出会い・恋愛について教えてください

⑱ お子さんに出会いの機会がありますか

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない

⑭ お子さんはこれまで誰かとお付き合いをしたことはありますか

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない

⑳ お子さんはこれまでに出会いや恋愛に関する相談を受けたことはありますか

- 1 はい 2 いいえ

②① (②①で「1 はい」を答えた場合)

これまでにどのような相談を受けましたか (当てはまるもの全て)

- 1 出会いがない
- 2 出会いの場に行きたい
- 3 好きな人／パートナーとどうやって仲良くなればいいのかわからない
- 4 好きな人に告白したい
- 5 好きな人／パートナーと喧嘩をしてしまう
- 6 パートナーとの避妊について
- 7 パートナーとの性行為について
- 8 好きな人／パートナーに振られてしまった
- 9 その他 _____

②② お子さんの恋愛に関して悩んだことはありますか

- 1 はい
- 2 いいえ

②③ (②③で「1 はい」を答えた場合)

具体的にどのようなことで悩まれましたか (当てはまるもの全て)

- 1 恋愛相談にどうやって答えたらよいのかわからない
- 2 子どもの恋愛に肯定的になれない
- 3 子どもが誰かを傷つけてしまうのではないかと心配
- 4 その他 _____

②④ お子さんの恋愛や誰かと付き合うことについて、肯定的ですか

- 1 とても肯定的
- 2 やや肯定的
- 3 どちらでもない
- 4 やや否定的
- 5 かなり否定的

②⑤ (②④で「4 やや否定的」または「5 かなり否定的」を答えた場合)

「やや否定的」または「かなり否定的」である理由についてお答えください（当てはまるもの全て）

- 1 子どもが誰かと付き合う想像ができない
- 2 子どもの恋愛について、何が正しいのかわからない
- 3 子どもが誰かと2人で暮らすことができるか不安
- 4 子どもが誰かと育児ができるか不安
- 5 その他_____

Ⅳ お子さんの結婚・妊娠・出産・子育てについて教えてください

②⑥ お子さんの状況について当てはまるものをお選びください（当てはまるもの全て）

- 1 結婚している／していた
- 2 本人またはパートナーが出産したことがある
- 3 子育てをしている／していた

②⑦ お子さんから妊娠に関する相談を受けたことはありますか

- 1 はい
- 2 いいえ

②⑧ (②⑦で「1 はい」を答えた場合)

これまでにどのような相談を受けましたか（当てはまるもの全て）

- 1 本人／パートナーが予期せぬ妊娠をした
- 2 本人／パートナーが妊娠に関する手続きの方法がわからない
- 3 本人／パートナーが流産しないか心配
- 4 本人／パートナーが子育てできるか心配
- 5 本人／パートナーが中絶したい
- 6 本人／パートナーが妊娠による身体の変化についていけない
- 7 その他_____

②⑨ お子さんからこれまでに結婚・妊娠・出産・子育てに関する相談を受けたことはありますか

- 1 はい 2 いいえ

③⑩ (②⑨で「1 はい」を答えた場合)

これまでにどのような相談を受けましたか（当てはまるもの全て）

- 1 いつか結婚したい／子どもを生みたい
- 2 今のパートナーと結婚したい／子どもを生みたい
- 3 結婚したあとの生活はどうなるのか
- 4 子どもを育てるためには何が必要か
- 5 その他

③① お子さんの妊娠に関して悩んだことはありますか

- 1 はい 2 いいえ

③② (③①で「1 はい」を答えた場合)

具体的にどのようなことで悩まれましたか（当てはまるもの全て）

- 1 妊娠に関する相談にどうやって答えたらよいのかわからない
- 2 予期せぬ妊娠への対応について
- 3 子どもが子育てできるかわからない
- 4 どのような支援サービスを活用できるのかわからない
- 5 その他

③③ お子さんの妊娠・出産・子育てに関して悩んだことはありますか

- 1 はい 2 いいえ

③④ (③で「1 はい」を答えた場合) 具体的にどのようなことで悩まれましたか

- 1 結婚・出産・子育てに関する相談にどうやって答えたらよいのかわからない
- 2 子どもの結婚・出産・子育てに肯定的になれない
- 3 子どもが誰かを傷つけてしまうのではないかと心配
- 4 どのような支援サービスを活用できるのかわからない
- 5 その他 _____

V これまでに受けた支援や今後受きたい支援

③⑤ これまでに子どもが性教育に関して受けた支援で、
最も役立ったと感じる内容についてお答えください

③⑥ これまでに子どもが出会い・恋愛に関して受けた支援で、
最も役立ったと感じる内容についてお答えください

③⑦ これまでに子どもが結婚・妊娠・出産・子育てに関して受けた支援で、
最も役立ったと感じる内容についてお答えください

㊸ 今後子どもの性、出会い、恋愛、結婚等について受けたい支援をお答えください

- 1 子どもが人と出会えるサービス
- 2 子どもの恋愛相談に乗ってくれるサービス
- 3 子どもの恋愛について、親の相談に乗ってくれるサービス
- 4 子どものお金の管理について相談に乗ってくれるサービス
- 5 子どもの片付けについて相談に乗ってくれるサービス
- 6 ときどき子どもの家に家事に来てくれるサービス
- 7 家族の話し合いに同席してもらえるサービス
- 8 性に関する情報を親が知ることができるサービス
- 9 性に関して親の相談に乗ってくれるサービス
- 10 子どもに性に関する情報を提供するサービス
- 11 子どもの性に関する相談に乗ってくれるサービス
- 12 結婚の手続きを一緒にしてくれるサービス
- 13 住む場所を一緒に探してくれるサービス
- 14 子どものお家の契約や行政等からの各種手続きをしてくれるサービス
- 15 子どもと家族の妊娠中の相談に乗ってくれるサービス
- 16 出産に立ち会ってくれるサービス
- 17 一緒に子育てしてくれるサービス
- 18 特になし
- 19 その他 _____

Ⅵ ヒアリング調査へのご協力について

㊸ 弊社では、知的障害者の性教育や恋愛に関する学習素材の作成を予定しております。本調査で
ご回答いただいた内容を詳しくお伺いさせていただくため、そして学習素材に対してご意見を
いただくため、ぜひヒアリング調査を実施させていただければと存じます。
ヒアリング調査にご協力いただける場合はご回答いただけますと幸いです。

- 1 はい
- 2 いいえ

④⑩ (③⑨で「1 はい」を答えた場合) お名前を教えてください

④⑪ (③⑨で「1 はい」を答えた場合) 電話番号を教えてください

④⑫ (③⑨で「1 はい」を答えた場合) メールアドレスを教えてください

アンケートはこれで終わりです。ありがとうございました。

(4) 知的障害者本人へのヒアリング調査

ねん がつ
2024年2月

さま
様

ぴーだぶりゆしー こ ん さ る て い ん ぐ ごとうかいしゃ
P w C コンサルティング合同会社

ひ あ り ん ぐ きょうりょく ねが ヒアリングへのご協 力のお願い

かいしゃ
わたしたちの会社は、

せいきょういく て あ い れんあい けっこん しゅっさん こ そだて ひ あ り ん ぐ ねが
性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、子育てについてヒアリングをお願いしています。

- ひ あ り ん ぐ いま せいかつ う し えん はなし き
・ ヒアリングでは、あなたの今の 生活や、受けた支援について お話 を聞かせて もら
います。
- ねんれいそう せいべつ しょうがいしゅべつ しょうがいし えんくぶん た とくせい し えん ないよう
・ あなたの年齢層、性別、障 害種別、障 害支援区分、その他の特性、支援の内容 につ
いても 教えてほしいです。
- ひ あ り ん ぐ にほん しょうがいしゃ し えん さーびす いま よ
・ このヒアリングは、日本の 障害者への支援サービス が 今よりも 良くなるように、
こうせいろうどうしょう くに やくしょ かんが しりよう
厚生労働 省 という 国の役所で 考えるための 資料 になります。
- まえ こた あんけー と けっか せいきょういく て あ れんあい けっこん しゅっさん
・ この前 答えてくれた アンケート結果を もとに 性教育、出会い、恋愛、結婚、出産、
こ そだ さまざまな 段階の 方に 困ったこと などを 聞かせてほしくて 今回は
あなたに ひ あ り ん ぐ ねが
あなたに ヒアリングを お願い しています。

やくそく ＜わたしたちからの お約束＞

- ひ あ り ん ぐ けっか だれ こた かいしゃ
○ ヒアリングの結果は 誰が答えたか わからないように まとめて、わたしたちの会社の
ほーむぺーじ はっぴよう あなたの なまえ す ばしょ ちいき りよう
ホームページで 発表します。あなたの 名前や 住んでいる場所や 地域、利用している
じぎょうしょ ひと し
事業所など が ほかの人に 知られることは ありません。
- こた ないよう じぎょうしょ しょくいん りょうしん かぞく し
○ 答えた内容が、事業所の職 員や両 親・家族に知られることはありません。
- きょうりょく ばあい こた
① 「協 力したくない」という場合は、答えなくても いいです。
- こた しつもん かいどう
② もし答えづらい 質問があれば、回答しなくても かまいません。
- ひ あ り ん ぐ とちゅう ばあい ひ あ り ん ぐ とちゅう
③ ヒアリングを 途中でやめたい 場合は、いつでもやめられます。ヒアリングの 途中で
ひ あ り ん ぐ ないよう てっかい
ヒアリングした 内容を 撤回することも できるので いつでも 言ってください。

- ④ 質問に答えなかったり、途中でやめたからといって、あなたが嫌な思いをすることはありません。
- ⑤ ヒアリングは、わたしたちがあなたに会いに行くか、インターネットを通してお話を聞か、どちらかの方法で行います。
- ⑥ 職員や家族の人などに手伝ってもらってもいいです。
- ⑦ なお、答えてくれた人へのお礼のお金はありません。
- ⑧ このヒアリングに回答することについて不安があったり、体調が悪くなったりした場合には問い合わせ先にご相談ください。回答後でも相談は受け付けています。

「協力してもいい」という人は、「ヒアリングの同意書」を確認し、質問に答えてください。

<ヒアリングの同意書 への答え方>

パソコンやスマートフォンを使って、答えてください。

下の二次元コードから同意書につながります。



下の URL（ホームページのアドレス）を入れてもつながります。

<https://forms.office.com/r/xqkF9P2qcH>

紙の同意書の場合には、わたしたちの会社に送ってください。

＜^{こた}答えたあとに「^{きょうりょく}協力したくない」となった^{ばあい}場合について＞

^{ひありんぐ}ヒアリングに ^{こた}答えたあと、「^{きょうりょく}協力したくない」と なった ^{ばあい}場合には、^{きにゅう}記入した ^{どうい}同意
^{てっかいしょ}撤回書を ^わわたしたちの ^{かいしゃ}会社（^{ぴーだぶりゅーしー}P w C ^{こんさるていんぐ}コンサルティング^{ごうがいきしゃ}合同会社）に ^{おく}送ってくださ
い。ただし、^{ひありんぐ}ヒアリングの ^{けっか}結果を ^{こうひょう}公表したあとは、その^{てっかい}撤回の ^{きぼう}ご希望を ^う受けることは
できません。

※ ^{ひありんぐ}ヒアリング結果は ^{けっか}社内の ^{しやない}人しか ^{ひと}見れない ^みクラウド上^{くらうどじょう}に ^{5ねんかん}5年間 ^{ほかん}保管し、 ^ごその後
^{はいき}廃棄します。 ^{はいき}廃棄する ^{ばあい}場合には ^{でーた}データを ^{さくじょ}削除 します。

【^{ちようさじっししゆたい}調査実施主体・^{とあ}問い合わせ先^{さき}】

^{ぴーだぶりゅーしー}P w C ^{こんさるていんぐ}コンサルティング^{ごうがいきしゃ}合同会社 ^{こうきようじぎょうぶ}公共事業部

^{ちてきしょうがいしゃ}「知的障害者の恋愛、^{れんあい}結婚等に^{けっこんとう}係る^{かか}情報^{じょうほうていきょう}提供、^{そうだんしえんとう}相談支援等に関する^{かん}調査^{ちようさけんきゅう}研究」^{じむきょく}事務局

^{たんとう}担当：^{とうかいりんたかし}東海林 ^{よしのさとる}崇、^{あおきゆうか}吉野 ^{ふじいりょう}智、^{あおきゆうか}青木 ^{ふじいりょう}佑夏、^{ふじいりょう}藤井 ^{ふじいりょう}瞭

〒100-0004

^{とうきょうと}東京都^{ちよだく}千代田区^{おおてまち}大手町^{おおてまち}1-2-1 ^{わん}Otemachi ^{たわー}One ^{かい}タワー 19階

(5) 事業所へのヒアリング調査

令和7年2月吉日

御中

PwC コンサルティング合同会社

**「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」
ヒアリング調査へのご協力をお願い**

拝啓 時下ますますご清栄のことと心からお喜び申し上げます。

この度、弊社は厚生労働省「令和6年度障害者総合福祉推進事業」の採択を受け、「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」を実施することとなりました。

本調査研究においては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育て等を含め、知的障害者への適切な情報提供や相談支援等の実施に向け、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の実態や課題等を把握するための調査を実施することとしています。また、本事業においては、知的障害者が支援者や家族とともに性教育等についての情報を入手することができる学習素材も作成します。

つきましては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の充実に向けた検討や、より良い学習素材の作成のための参考とするため、本調査に対する回答についてご協力いただくようお願いいたします。

敬具

記

調査概要

1. 調査目的

障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態及び課題を把握し、今後の支援の充実に向けた検討やより良い学習素材の作成の参考とする

2. 対象

障害福祉サービス等事業所

3. 調査方法

原則オンラインを想定しております

4. 調査期間

令和7年2月7日(金)～令和7年2月25日(火)

5. 回答の公表について

ご回答いただいた内容は集計し、その結果を PwC コンサルティング合同会社のホームページ上に開示いたします。その際に、個人、住居名、事業所名、地域が特定されることはございません。調査にご協力いただける場合には、上の二次元バーコードから「同意する」をご回答いただき、回答後に同意を撤回したい場合には記入済みの同意撤回書を下記問い合わせ先にお送りください。回答内容を破棄し、結果の公表はしないものとさせていただきます。なお、結果公表後の同意の撤回はできません。

6. 結果の公表について

本調査結果は、障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態を把握し、本事業における学習素材の

7. 主な質問項目

- ・ 基本情報（実態調査でお伺い済み）
- ・ 実態調査の深掘り
 - 性・出会い・恋愛・結婚・妊娠・出産・子育てに関しての支援の提供状況
 - 支援を提供するメリット
 - 支援を提供するうえでの課題
- ・ 学習素材及び支援の手引き
 - 学習素材及び支援の手引きについて、内容の不足やわかりづらい点
 - 学習素材及び支援の手引きに記載してほしい内容
 - その他学習素材及び支援の手引きに係るご意見

【調査実施主体・お問合せ先】

PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

担当：東海林崇、吉野智、青木佑夏、藤井瞭



〒100-004 東京都千代田区大手町 1－2－1 Otemachi One Tower 19 階

以上

(6) 親へのヒアリング調査

令和7年2月吉日

様

PwC コンサルティング合同会社

**「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」
ヒアリング調査へのご協力をお願い**

拝啓 時下ますますご清栄のことと心からお喜び申し上げます。

この度、弊社は厚生労働省「令和6年度障害者総合福祉推進事業」の採択を受け、「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」を実施することとなりました。

本調査研究においては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育て等を含め、知的障害者への適切な情報提供や相談支援等の実施に向け、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の実態や課題等を把握するための調査を実施することとしています。また、本事業においては、知的障害者が支援者や家族とともに性教育等についての情報を入手することができる学習素材も作成します。

つきましては、知的障害者の性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育ての支援の充実に向けた検討や、より良い学習素材の作成のための参考とするため、本調査に対する回答についてご協力いただくようお願いいたします。

敬具

記

調査概要

1. 調査目的

障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態及び課題を把握し、今後の支援の充実に向けた検討やより良い学習素材の作成の参考とする

2. 対象

知的障害者を子どもに持つ親

3. 調査方法

原則オンラインを想定しておりますが、ご状況に合わせ対面での実施も検討させていただきます。

4. 調査期間

令和7年2月12日(水)～令和7年2月28日(金)のどこかで1時間ほど

5. 回答の公表について

ご回答いただいた内容は集計し、その結果をPwC コンサルティング合同会社のホームページ上に開示いたします。その際に、個人、住居名、事業所名、地域が特定されることはございません。ヒアリング記録は、社外の人が見ることができない社内クラウド上に5年間保管した後、データを削除いたします。

調査にご協力いただける場合には、上の二次元バーコードから「同意する」をご回答いただき、回答後に同意を撤回したい場合には記入済みの同意撤回書を下記問い合わせ先にお送りください。回答内容をデータ破棄し、結果の公表はしないものとさせていただきます。なお、結果公表後の同意の撤回はできません。

6. 結果の公表について

本調査結果は、障害福祉サービス等事業所における知的障害者への性教育・出会い・恋愛・結婚・出産・子育てに関する情報提供や相談支援等の実態を把握し、本事業における学習素材の作成及び厚生労働省における知的障害者への支援の在り方についての検討に活用されます。

7. その他

その他回答したことによって不安が生じたり、体調が悪くなったりした場合には問い合わせ先までご相談ください。

8. 主な質問項目

- ・ 基本情報（実態調査でお伺い済み）
- ・ 実態調査の深掘り
 - 性・出会い・恋愛・結婚・妊娠・出産・子育てに関してのこれまでに受けた相談
 - 性・出会い・恋愛・結婚・妊娠・出産・子育てに関してのこれまでの悩み
 - 性・出会い・恋愛・結婚・妊娠・出産・子育てに関しての今後受けたいサービス
- ・ 学習素材及び支援の手引き
 - 学習素材及び支援の手引きについて、内容の不足やわかりづらい点
 - 学習素材及び支援の手引きに記載してほしい内容
 - その他学習素材及び支援の手引きに係るご意見

【調査実施主体・お問合せ先】

PwC コンサルティング合同会社 公共事業部

「知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、相談支援等に関する調査研究」事務局

担当：東海林崇、吉野智、青木佑夏、藤井瞭

〒100-004 東京都千代田区大手町 1 - 2 - 1 Otemachi One Tower 19 階

以上

令和6年度障害者総合福祉推進事業

知的障害者の恋愛、結婚等に係る情報提供、
相談支援等に関する調査研究

発 行 日：令和7年3月

編集・発行：PwC コンサルティング合同会社